金ハ完濟シタリト云ヒ乍ラ右受領證書ハ受取ラスト云ヒ加之該甲第三號證ハ當事者ノ爭ナキカ如ク現金ノ取引ニアラサルモノナル事ハ共ニ前項ニ於テ陳明シタルカ如ク去レハ單ニ該甲第三號證ノ在リ有ルト其日付ノ前後トノミヲ以テ乙第十號證ハ果シテ該甲第三號證ノ爲メ已ニ消滅ニ歸シタルモノト論結スルヲ得サルモノナリ即被上告人ニシテ若シ右主張ヲナサントセハ該甲第三號證殘金ノ事ニ對セル確的ナル事實ヲ擧ケテ之レヲ立證セサル可カラサルモノナルニ原審ハ毫モ其反證ヲ認ムルナク直チニ該甲第三號證ト該乙第一號證トニ於ケル日付ノ前後ノミヲ以テ該乙第十號證ノ無效ヲ判斷シタルハ審理不盡ノ結果立證者ヲ誤リタル不法アルモノト信スト云フニ在ルモ原裁判所ハ乙第十號證ヲ無效ナリト斷定シタルニアラサルコトハ本點ニ揭擧セル原判文ニ依テ明ナリ其他ハ事實認定ノ批難ニ屬シ是亦其理由ナシ

其第九點ハ本案ノ訴訟物ノ價格ハ千七百圓以上ナリトス故ニ其價格ニ相當スル印紙ヲ貼用セサル可カラサルニ第一審ニ於テハ七百圓ノ價格トナシ其相當印紙ヲ貼用シタリ而シテ原審ニ於テ互ニ其價格ノ申立ヲ異ニシタルニ拘ラス原審ニ於テ此點ニ付判決ナキハ不法ナリト云フニ在ルモ訴訟用印紙ハ裁判所カ職權ヲ以テ民事訴訟用印紙法ニ照シ之ヲ調査シ若シ印紙ヲ貼用セス又ハ貼用スルモ不足アルトキハ同法第十一條但書ニ據リ相當印紙ヲ貼用セシムルニ止リ假令此點ニ付當事者間ニ爭アリタレハトテ判決ヲ以テ其當不當ヲ決スル可キモノニアラズ法レハ原裁判所ハ七百圓ノ價格トシテ印紙ヲ貼用シタルハ相當ナリト認メタル

カ故ニ其儘辯論ヲ經過シタルモノト認ム可キヲ以テ本論モ亦其理由ナシ

上來說明ノ如ク本件上告ハ一切適法ノ理由ナキヲ以テ民事訴訟法第四百三十九條第一項ニ依リ之ヲ棄却スヘキモノトス

大審院第二民事部

裁判長 判事 南部甚男 判事 寺島直

同 增戸武平 同 今村信行

同 藤田隆三郎 同 芹澤政溫

同 中尾眞晃

銃鐵取戻請求事件 明治二十九年第一六號、第二一七號 明治三十年四月二十日判決

判決要旨

單に價額を定め物を引渡したる事實あるのみにては未た賣買なりと云ふを得す

說明

價格を定め物を引渡すは獨り賣買に限るものにあらす物件の販賣を委託する場合亦然りとす故に單に價額を定め以て物を引渡すも未た賣買なりと速斷するを得さるものとす

第一審 東京地方裁判所 第二審 東京控訴院

上告人　エドワルドウイトール　訴訟代理人　辯護士　日能僚太郎

被上告人　毛利春二　訴訟代理人　辯護士　高木益太郎

被上告人　東京倉庫株式會社取締役　阿部泰藏　訴訟代理人　辯護士　境豊吉

右當事者間ノ銑鐵取戻請求事件ニ付東京控訴院ヵ明治二十九年三月二十五日言渡シタル判決ニ對シ上告人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シ被上告人ハ上告棄却ノ申立ヲ爲シタリ

判決

原判決ヲ破毀シ更ニ辯論及ヒ裁判ヲ爲サシムル爲メ本件ヲ東京控訴院ニ差戻ス

理由

上告論旨第三點ハ原院ハ「當事者間ニ一定ノ價格ヲ定メ物件ヲ引渡スコトヲ約シタルトキハ是レ即チ賣買契約ナリ」ト判斷セラレタレトモ抑モ賣買ナルモノハ賣主カ買主ヨリ一定ノ代償ノ支拂ヲ受ケ物ノ權利ヲ移轉スルノ意義ナルコトハ論ヲ俟タスシテ明カナリトス故ニ賣買契約ニハ單ニ代價ヲ定メ引渡ヲナスコトヲ以テ足レリトセス必スヤ其代價ハ支拂ヲナスヘキモノタルコトヲ明確ニ表示スルヲ要ス如何トナレハ賣買ニアラサル場合ニ於テ尙ホ且物ノ引渡ヲナスニ價格ヲ一定シテ之ヲ爲スコト往々之レ有ルヘキヲ以テナリ然ラハ即チ原院カ前掲ノ如キ判定ヲナシ據テ以テ乙第一號證ヲ賣買契約ナリト判斷シタルハ賣買ニ關スル條則ヲ不當ニ適用シタル不法ノ判決ナリト云フニ在リ依テ按スルニ上告人所論ノ如ク價額ヲ定メ物件ノ引渡ヲ爲スハ單リ賣買

場合ノミナラス其他例ヘハ物件ノ販賣ヲ委託スル場合等ニ於テモ亦然リトス故ニ該事實ノミヲ以テハ直チニ賣買ナリト云フヲ得ス賣買ナルニハ當事者ノ一方カ相手方ニ物ノ權利ヲ移轉シ又ハ移轉スルコトヲ要シ相手方ハ賣買代金ノ支拂ヲ要シタル事實ナカラサル可カラス然ルニ原院ハ此等ノ事實ヲ確定セスシテ只價額ヲ定メ物ヲ引渡シタル事實ノミヲ以テ賣買ナリト說明シ從テ所有權ノ移轉シタル如ク見做シ之ヲ裁判ノ根據ト爲シタルモノナレハ法則ヲ不當ニ適用シタル不法ノ裁判ニシテ上告ハ其理由アルモノトス因テ民事訴訟法第四百四十七條第一項ニ從ヒ原判決ヲ破毀シ同法第四百四十八條第一項ニ依リ更ニ辯論及ヒ裁判ヲ爲サシムル爲メ事件ヲ原院ニ差戻ヲ以テ相當トス

但シ前掲理由ニ因リ原判決ヲ破毀スル以上ハ目錄ノ上告論旨ニ對シテハ一々說明ヲ爲スノ要ナキモノトス

大審院第一民事部

裁判長　判事　中村元嘉　判事　井上正一

同　小松弘隆　同　岡村爲藏

同　本多康直　同　西川鐵次郎

同　河村善益

貸金請求事件

明治二十九年第正二七號
明治三十一年四月二十日判決

判決要旨

貸金請求事件

明治十年第五十號布告は自ら署名せす又は代書人をして書記せしめさる證書か全然無効たるへきを規定したるものにあらす

說明

明治十年第五十號布告(諸證書姓名記載方)に曰く諸證書の姓名は必す本人自ら書して實印を押すへし若し自書すること能はさる者は他人をして代書せしむるを得ると雖も必す其實印を押すへし其代書せし者は本人姓名の傍に代書せし事由と己れの姓名とを記して實印を押すへし)と抑も此布告たるや本人又は代書人の署名筆記したるものにあらされは證書の無効を惹起すへき制裁を規定したるものにあらすして成る可く丈け本人自ら署名す可きことを規定したるものたるに過きす故に本人又は代書人の筆記に係らさる署名なれは迚其證書の効力に影響を及ほすへきものにあらさるなり

第一審　鳥取地方裁判所　　第二審　大坂控訴院

上告人　松谷佳作　　訴訟代理人　辯護士　青柳正喜

被上告人　德田音藏

右當事者間ノ貸金請求事件ニ付大坂控訴院カ明治二十九年十月二十二日言渡シタル判決ニ對シ上告人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シタリ

判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

上告論旨第一點本件ノ貸借タル全ク松谷芳藏一已ノ負債ニ屬シ上告人ノ關知セシモノニアラサルノミナラス却テ上告人ノ之ニ與カラサル事實ハ證人松川源三郎ノ證言ニ徵スルモ之レヲ認ムルヲ得ヘシ然ルニ原院ハ此松川源三郎ノ證言ヲ誤解セラレ上告人ニ債務辨濟ノ責メアリト判決セラレタルハ上告人ノ服スル能ハサル所ナリ今其理由ニヨレハ松川源三郎ニ於テハ云々其證文ニ清作ノ判ハ如何シテ押印セシモノカトノ判事ノ問ニ對シ自分ハ其事ハ知ラスト答ヘ又然ラハ清作カ承知ノ上押印セシモノカ否ヤノコトハ知ラサルカトノ問ニ對シテ知ラスト答ヘタル上ハ云々證據タルヘキ價値ヲ有セスト說明セラレタルモ同證人ハ清作ニ於テハ曾テ借ラサル金故拂フヘキ筈ナク又判ヲ押スコトハ承諾セサル旨申聞ケタリト證言シ居ルコトハ調書ニ徵シ明白ナル所ナリ而シテ此證言ニヨレハ本件ノ負債ハ上告人ノ關知セサルモノナレハ拂フヘキ筋合ノモノニアラサルコト甲號各證ノ押印ハ上告人ノ承諾ニ出テサルコト明白ナルニモ拘ハラス此證言ヲ無視セラレ上告人ニ債務辨濟ノ責メアリト判決セラレタルハ採證ノ法ヲ誤リ不當ニ事實ヲ確定セラレタル瑕瑾アルモノト信スト云フニ在ルモ本件ニ於テ上告人ノ主トシテ論爭セシ點ハ原判文摘示中ニ明カナル如ク上告人名下ノ印影ハ松谷芳藏ノ盜用ニ係ルモノナリト云フニ在リ故ニ原院ハ其證據トスル松川源三

郎ノ證言ヲ審査シ其證言中此實事ヲ證明スヘキモノナシト判斷シタルモノナレハ右論旨ハ結局證據ノ取捨ニ對スル批難ニ外ナラスシテ上告適法ノ理由トナラス

上告論旨第二點私書證書ノ有効ナルニハ署名捺印ヲ要シ其署名捺印ハ本人自ラ之ヲ爲スヘク若シ自署スル能ハサルトキハ代書人ノ署名ヲ要スヘキコトハ明治十年布告第五十號ノ規定スル所ニシテ此布告ノ當否ハ暫ク措キ現ニ一般人民ノ遵由セサルヘカラサルモノニ屬ス本件ノ債權ヲ證スル甲號各證ノ上告人ノ署名ハ上告人ノ自書セサル處ニシテ且ツ其押印ハ上告人ノ關知セサルモノナルコトハ第一審以來上告人ノ主張スル所ナルニ原院ハ全然上告人ノ此抗辯ヲ排斥シ明治十年五十號布告ノ存スルニモ拘ハラス何故ニ自ラ署名セサル證書カ民事上完全ノ證據力ヲ有スルヤヲ說明セサリシハ法律ノ理由不備ナル判決ニアラサレハ即チ明治十年第五十號布告ヲ無視シ無効ノ證書ヲ採用シテ事實ヲ不當ニ確定シタル違法アルモノト信スト云フニ在レトモ右ハ原院ニ顯ハレサル論點ナレハ原院カ之ニ對シ說明スヘキ筈ナキハ勿論右ノ布告ハ單ニ契約者ヲシテ成ルヘク其氏名ヲ自書スヘキコトヲ規定シタルニ過キスシテ自ラ證書ニ署名セス又ハ代書人ヲシテ書記セシメサル場ニ於テ其證書カ全然無効タルヘキコトヲ定メタルモノニアラサレハ假令甲號證ニアル上告人ノ氏名カ他人ノ筆記ニ係ルト雖モ其證文ノ効力ニ何等ノ影響ナキモノトス故ニ此論旨モ亦其理由ナシ

以上說明ノ如ク本件上告ハ一モ適法ノ理由ナキヲ以テ民事訴訟法第四百三十九條ニ依リ主文ノ如ク判決ス

大審院第一民事部

裁判長判事中村元嘉　判事井上正一

同　小松弘隆　同　岡村爲藏

同　本多康直　同　西川鐵次郎

同　河村善益

明治二十九年第三百二十一號
明治三十年四月二十一判決

地所賣戻名義書換請求事件

判決要旨

地所賣戻の契約あることを知り之を買受けたる者は其契約の特定承繼人なるを以て其契約を履行するの責任ありとす

說明

買戻契約の約款あることを知りつゝ買受を爲せる買主は債權者に對する直接の義務者にあらすと雖其債務を承繼したる特定の承繼人なりと云はさるへからす故に其賣主の約務は自己に於て亦之を履行せさるへからさるものとす

第一審　長野地方裁判所上田支部

第二審　東京控訴院

上告人　日向長太郎　訴訟代理人　辯護士　岸本辰雄　岡崎正也

被告人　日向萬藏　訴訟代理人　辯護士　立川雲平　朝倉外茂鑛

右當事者間ノ地所賣戻名義書換請求事件ニ付東京控訴院カ明治二十九年五月九日言渡シタル判決ニ對シ上告代理人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シ被上告代理人ハ上告棄却ノ申立ヲ爲シタリ

判決

原判決ヲ破毀シ更ニ辯論及裁判ヲ爲サシムル爲メ本件ヲ東京控訴院ニ差戻ス

理由

上告論旨ハ原裁判ニ於テハ第一審ニ於ケル被控訴人一定ノ申立ヲ取調フルニ被告等ハ本地賣戻約定ヲ履行シ被告日向萬藏ハ代金參百圓ヲ受取リ本件地所(表示略ス)ヲ原告名義ニ書換登記手續ヲ爲スヘシトアリテ曾テ被控訴人ト地所賣戻契約ヲ爲シタルコトナキ控訴人ヲシテ日向モントト共ニ約定ヲ履行セシメントスルモノニシテ其請求ハ不當ナリ故ニ之ヲ排斥スルヲ至當トス云々ト判示シ以テ上告人ノ請求ヲ斥ケラレタリ雖然本訴上告人請求ノ原因ハ第一審判決説明ノ如ク上告人ハ本件地所ニ付テハ十ヶ年間即チ明治二十八年十月二十日迄元金賣戻條件ヲ付シ日向モントニ賣渡シ置タル所其後被上告人日向長太郎ハ該地所ヲ右日向モントヨリ買受クルニ當リ上告人ニ對シ右賣戻條件ヲ設定シタルコトヲ聽ヲタル來同一期間ノ賣戻條件ヲ付シ之ヲ買受ケタルモノニシテ即チ被上告人ハ本件地所ニ付キ賣戻條件ノ設定シアルコトヲ承認シ之ヲ日向モントヨリ買受タモノニ付右賣戻條件ニ基キ元金ヲ受取リ該地所ヲ上告人ニ引渡スヘキ義務アリト云フニ在リ而シテ被上告人ハ元來右賣戻契約ノ當事者ニアラサルトモ既ニ本件地所ニ付右賣戻條件ノ設定セラレアルコトヲ知リツヽ此地所ヲ繼承シ爲ル以上ハ其條件ヲ履行スヘキ責任ヲ免カレサルハ當然ノ義ニ可有之且又上告人ニ於テ該地所前所有者タリシ日向モントモ併セテ本訴ニ於テ相手取リタレハトテ之カ爲メ被上告人ニ對スル請求ヲ排斥セラルヘキ理由ナキハ是亦當然ノ義ト思惟ス然ルニ原裁判ニ於テ被上告人ハ賣戻條件ヲ承認シテ本件地所ヲ繼承シタルモノナルニモ拘ハラス單ニ賣戻條件設定當時ノ契約當事者ニアラストノ理由ニ依リ右條件ヲ履行スヘキ責任ナキモノヽ如ク判決セラレタルハ地所賣戻條件ニ關スル法則ニ違背セル不法ノ判決ナリト云ニアリ依テ一件記錄ヲ閲シ之ヲ審案スル上告人カ被上告人ニ對シ本訴ノ請求ヲ爲クル所以ハ被上告人ハ本訴地所ニ付キ上告人ト日向モントノ間ニ地所賣戻ノ契約アルヲ認知シ之ヲ買受クルモノニ付其約旨ニ基キ之ヲ履行スル義務アリト爲クルニアルコトハ第一審裁判所ニ於ケル第七回口頭辯論調書中「林代理人曰日向助ノ證言ニ依リ被告等ノ原告トモントトノ間ノ賣戻契約ヲ知リシコトハ明カナリ」トアル事及ヒ同裁判所カ右專助ノ證言ヲ採用シテ上告人ノ主張ヲ事實ト認メタルニ依リ明了ナルモノナリ而シテ此事實タル當事者雙方ノ爭ヒニ係ルヲ以テ之ヲ判斷シタル上ニアラサレハ確定ナラスト雖モ果シテ上告人ト直接契約ヲ爲クルニアラサルモ其所有者タル申立ノ如クナルニ於テ被上告人ハ上告人ト日向モントノ約務ヲ承繼シテ之ヲ履行セサルヘカラサル筋合ナルヲ以テ被上告人ハ上告人ト契約ヲ爲クルコトナシト云カ如キ單純ナル理由ヲ以テ之ヲ排斥スルヲ得ス必スヤ被上告人

[illegible]日間モシ特定ノ承繼者タル人キモノナルヤ事實ヲ判斷セサルベカラサルモノトス又日間モシハ初メヨリ上告人ノ主張スル所ヲ認諾スルニ於テハ之ヲ被告トスルヲ必要ナカルヘキモノカ上告人ノ主張ヲ認メス絶體ニ之ヲ抗爭シタルコト第一審判決書事實摘示ノ部ニ明記スル所ナレハ之ヲ被告トスル元ヨリ當然ナルノミナラス假リニ之ヲ必要ナラストスルモ道ハ只タ余分ノ被害ヲ加入シタルニ止マリ之カ爲メ上告人ノ被上告人ニ對スル訴訟成立ヲ妨クヘキモノニアラス右ノ條理ナルニ拘ラス原裁判所カ上文掲クル如キ理由ニ依據シテ上告人ノ請求ヲ棄却シタルハ義務承繼ニ關スル法理ヲ誤リタルモノニテ上告人ノ論告スル所ハ理由アリトス

上來說明ノ如ク本件上告ハ適法ノ理由アルヲ以テ民事訴訟法第四百四十七條第一項ニ依リ原判決ヲ破毀シ尙ホ同法第四百四十八條第一項ノ規定ニ從ヒ東京控訴院ニ差戻スヲ相當ナリトス是レ主文ノ如ク判決スル所以ナリ

大審院第二民事部

裁判長判事 南部甚男　判事 寺島直
同 增戸武平　同 今村信行
同 藤田隆三郎　同 岸澤政溫
同 中尾眞晃

辨償金請求事件

明治二十九年第五四二號 明治三十年二月二十四日判決

判決要旨

債權者及債務者間に生したる訴訟費用は保證人に於て之を辨償せさるへからす

說明

保證債務は從たる債務なり故に主たる債務の不履行により生したる附隨の費用は從たる債務者に於て之を辨濟せさるへからさるや當然とす民法第四百四十六條參照故に債權者及債務者間に生したる訴訟費用も亦保證人に於て辨償せさるへからす

第一審 千葉地方裁判所　第二審 東京控訴院

上告人 中島文四郎　訴訟代理人 辯護士 玉置例一郎

被上告人 北田新助

右當事者間ノ辨償金請求事件ニ付東京控訴院カ明治二十九年十一月九日言渡シタル判決ニ對シ上告人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シタリ

判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

上告第一點ハ本件ハ原院ニ於テ上告人ノ申立タル檢眞ニ依リ甲第一號證ノ上告人名下ノ印

影ハ上告人ノ印影ト相違セル者ノ決定ヲ爲シ又被上告人ノ申立タル檢眞ニ依リ甲第一號證ノ中島文四郎トアルハ上告人ノ筆蹟ナル旨ノ判定ヲ爲シタリ然レハ甲第一號證ハ白紙ニ中島文四郎ト記名シ在リタルモノヲ濫用シテ之ヲ契約書ニ認メタルヤ又ハ全ク保證人ト爲ルノ意思ヲ以テ記名ハ爲シタルモ中頃止メテ捺印セサル者ナリヤ將タ全ク上告人カ保證人タルコトヲ承諾シテ記名シ實印外ノ印章ヲ押捺シタルモノナルヤ知ルヘカラスシテ實ニ尤モ疑ハシキ證書ト云ハサルヲ得ス證書ノ疑ハシキハ債務者ノ利益ニ解釋スルヲ解釋法ノ原則トス然ルニ原院ハ其疑ハシキモノヲ債務者ノ不利益ニ解釋シタリ依テ解釋法ノ原則ヲ誤リタル不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ原院ハ甲第一號證ニアル上告人ノ氏名ヲ以テ上告人ノ自筆ニ係ルモノト認メ以テ同證ノ眞正ニ成立シタルコトヲ認定シタル次第ニシテ毫モ其成立ニ付疑ヲ存セシ廉ナシ故ニ該證ノ成立ニ付疑アルモノヽ如ク論告シテ原判決ヲ攻擊スルハ原判旨ニ副ハサルモノニシテ其理由ナシ

同第二點ハ前顯ノ如ク債務ノ疑ハシキトキハ其立證ノ責ハ債權者ニアルヲ法トス然ルニ原院ハ「縱ヒ實印ト相違スルモ反證ノ提出セラレサル限リハ云々ト債務者即チ上告人ニ立證ノ責ヲ負ハシメタルハ不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ甲第一號證ノ成立ニ付疑アリトノ事ハ上告人一已ノ考ニ過キサレハ之ヲ論據トシテ立證ノ責任ヲ論スルハ是亦原判旨ニ副ハサルモノニシテ其理由ナシ

同第三點ハ凡ソ債權者ト債務者間ニ生シタル訴訟費用ハ其訴訟中債權者カ保證人ニ參加ノ告知ヲ爲シタルトキニアラサレハ之ヲ保證人ニ辨償セシムルヲ得サルモノトス何トナレハ訴訟費用ハ其性質損害賠償ノモノナレハナリ而シテ本件債權者北田新助ト債務者小川增之助ノ訴訟ハ吾ヲ上告人ニ告知參加ヲ爲シタル形跡ナシ然ルニ原院ハ其訴訟費用十六圓二十二錢ヲ第一審判決カ上告人ニ辨償スヘキ樣言渡シタルヲ相當ナリト認定シタルハ不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ保證人ヲシテ債權者ト債務者間ニ生シタル訴訟費用ヲ辨償セシムルニハ其訴訟ニ保證人ヲ參加セシメサルヘカラストノ法則ナケレハ原院カ訴訟費用ノ辨償ヲ上告人ニ命シタルハ決シテ不法ニアラス

同第四點ハ原判文ニ曰ク甲第一號證ノ三百圓ハ勿論其小川增之助ノ印影ハ甲第一號證同人ノ印影ト同一ナルヲ以テ控訴人ト小川增之助間ニ正當ニ授受セラレタリト認ムヘキ甲第二號證第三號證ノ金額ハ云々保證義務トシテ被控訴人ニ辨償スヘキコト當然ナリト」然ルニ甲第三號證ハ小川增之助一人ヨリ被控訴人ニ差入タル證書ナリ甲第二號證ハ小川增之助及控訴人ノ二人ヨリ被控訴人ニ差入タル證書ナリ然レハ原判文ノ如ク甲第二號證カ小川增之助ト控訴人間ニ授受シタル證書トスルモ甲第三號證ハ控訴人ノ與リ知ラサル證書ニシテ小川增之助ト控訴人間ニ授受シタル證書ニアラサルナリ殊ニ又甲第二號證ハ小川增之助ト控訴人ヨリ被控訴人ニ差入タル證書ノ如キ形跡アルモ控訴人ハ之ヲ否認シ而シテ檢眞ヲ經タルモノニアラス然ルハ假令甲第一號證ト甲第二號證ヲ小川增之助ノ印影同一ナルモ之ヲ控訴人ハ小川增之助間ニ正當ニ授受シタリト爲シテ同第二號及三號ノ金額ノ辨償ヲ控訴人ニ

當スルハ不當ナリ故ニ此點ニ付テハ原判決ハ審理不盡ニシテ理由不備ノ裁判ナリトスル所在レトモ原院ハ甲第二號證ノ金員ハ甲第一號證ノ約款ニ基キ授受シタルモノト認メ辨償ヲ命シタルモノナルコト原判文上明瞭ナレハ右論旨ハ結局事實ノ認定ニ對スル批難ニ外ナラスシテ上告ノ理由トナラス

以上說明セシ如ク上告論旨ハ總テ適法ノ理由ナキヲ以テ民事訴訟法第四百三十九條第一項ニ照ラシ之ヲ棄却スル所以ナリ

大審院第一民事部

裁判長 判事 中村元嘉　判事 井上正一

同 小松弘隆　同 岡村爲藏

同 本多康直　同 西川鐵次郎

同 河村善益

入質米受戻請求事件

明治二十九年第一二二號
明治三十年四月二十九日判決

判決要旨

法定利息は金錢を目的とする債務遲延の損害賠償たるを以て物件を目的とする債務に付ては之を請求するを得ず

法定利息は債務其物か金錢たる場合に於て債務者か期限に至り其債務を

履行せさるへきに因り債權者に與ふる遲延の損害賠償たる性質を有するものなり故に物件を目的とする債務の履行遲延に對しては法定利息請求の權なきや明かなりとす

第一審 長崎地方裁判所

第二審 長崎控訴院

上告人 植木政太　訴訟代理人 辯護士 鳩山和夫

被上告人 松尾榮　訴訟代理人 辯護士 上原鹿造

右當事者間ノ入質米受戻請求事件ニ付長崎控訴院カ明治二十八年十二月十三日言渡シタル判決ニ對シ上告人ヨリ一部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シ被上告人ハ上告棄却ノ申立ヲ爲シタリ

判決

原判決ヲ破毀シ更ニ辯論及ヒ裁判ヲ爲サシムル爲メ本件ヲ長崎控訴院ニ差戻ス

理由

上告第一論旨ハ凡ソ既往ニ於ケル物ノ普通價格ヲ評定センニハ單ニ第三者トノ間ニ私擅ニ賣買セラレタル價格ニ準由スヘキモノニ非ス必スヤ其價格ハ其當時普通ノ價格ナリシヤ否ヤヲ判定セサル可ラサルモノナリ然ルニ原判文ニ前略「井崎作一郎カ鼠切虫付亂俵ニテ代金一千八百九十圓ニテ買得シタリトノ證言ハ事實ナリト看做ス故ニ出訴ノ當時モ亦一千八百九十圓ノ價格ニ過キサリシモノト認定ス」トアリテ假リニ井崎作一郎ノ證言ハ事實ナリトスルモ其事實ハ以テ其當時若干ノ價格ナリシヤヲ知リ得ヘキモノニ非ス況シヤ其賣買ハ

被上告人ト井崎作一郎トノ間ニ私擅ニ成立セシモノナルニ於テオヤ即チ原判決ハ千八百九十圓ノ價格ハ其當時普通ノ價格ニシテ出訴ノ當時モ亦其價格ナリシヤ否ヤノ理由ヲ闕キ不法ニ事實ヲ確定シタルモノナリト云フニ在リ依リテ按スルニ本訴入質米ノ價格ヲ評定センニハ出訴當時ノ市價ニ據ラサルヘカラサルハ原院ノ判定セシ所ノ如クナルモ一件記錄ヲ查閱スルニ被上告人カ本訴入質米ヲ井崎作一郎ニ賣却シタルハ出訴後滿二ケ月ノ後ニアリ而シテ二ケ月後ノ市價ヲ以テ二ケ月前ノ市價ト認定セシニハ其理由ナカルヘカラス何トナレハ米穀ノ如キハ市價ノ尤モ變動シ易キモノナレハナリ然ルニ原院ハ何等ノ理由ヲ付セス漫然被上告人ト井崎作一郎間ノ賣買代價ヲ以テ出訴當時ノ價格ナリト認定セシハ上告論旨ノ如ク所謂裁判ニ理由ヲ付セサル違法ノ判決ナルヲ以テ之ヲ破毀スヘキモノトス

上告人ハ尚ホ其第二論旨トシテ金錢ノ請求ニ對シ法律上ノ利息ヲ生セシムルハ附遲滯ノ結果ナレハ何レノ場合ヲ問ハス訴訟提起ノ日ヨリ利息ノ生出スルヤ論ヲ俟タス故ニ最初物品ノ返還ヲ請求シ中途ニシテ損害賠償ニ變スル時ニ於テモ其損害請求ノ効果ハ既往ニ遡リ物品返還ノ出訴當日ニ於ケル價格ヲ標準トスルハ至當ノ事柄ナリトス隨テ之カ附遲滯ヨリ生スル利息モ出訴ノ日ヨリ伴生ス可キハ當然ノ結果ナリトス然ルニ原判決ニヨレハ「云々至當ナリト雖モ出訴ノ日ヨリ請求スルハ不當ナリ何トナレハ其當時ハ現品存在スルカ故ニ現品ニ利息ヲ生スヘキ謂アラサルヲ以テナリ」ト判決シタルハ不當ニ法則ヲ適用シタルモノトス況シヤ本件損害金ノ正當價格カ出訴當時ノ價格ヨリ質金ヲ控除シタル殘額ナリトノ

ハ原判決モ認メ居ル所ニシテ入質米ノ賣却カ出訴以後ナルコトノ明カナルニモ拘ラス損害金ノ標準ヲ尚ホ出訴當時ノ價格ニ取ル以上ハ之ニ伴生スル利子モ亦出訴當日ヨリ起生セシムルコトハ至當ノ事ナリト云フモ法律上ノ利子ハ金錢ヲ目的トスル義務ノ遲延ノ損害賠償ナレハ物件ヲ目的トスル義務ニ付テハ之ヲ請求シ得サルハ固ヨリ當ヲ俟タス本件出訴ノ日ヨリ入質米賣却ノ時ニ至ルマテハ被上告人ニ在リテ唯入質米ヲ返還スルノ義務ヲ負フノミ而テ金錢ヲ返還スルノ義務ヲ負フニ至リタルハ實ニ其入質米ヲ賣却セシ日ニ始マル故ニ此日ヨリ以後ノ法律上ノ利子ヲ請求スルヲ得レトモ此日以前ニ遡ホリテ之ヲ請求スルヲ得ス只被上告人ハ出訴ノ當時ニ在リテ入質米ヲ返還スヘキニ之ヲ返還セサリシノ故ヲ以テ之ヲ賠償スルニハ出訴ノ當時ノ米價ヲ標準ニ取ルヲ要スレトモ之レカ爲メ其義務出訴ノ當時ニ遡リテ金錢返還ノ義務ニ變シタルニ非ス故ニ上告人ハ出訴當時ヨリ質入米賣却ノ日ニ至ルマテ返還ノ遲延ノ因リテ現實蒙リタル損害ノ賠償ヲ請求スルハ格別否ラスシテ出訴當時ニ遡ホリ入質米代金ノ法律上利子ヲ請求スルハ其當ヲ得サルモノナリ依テ原判決ハ此點ニ付キ上告論旨ノ如キ違法ノ廉ナシ

又上告人ハ其第三論旨トシテ原判決ハ被上告人カ本訴入質米ヲ他ニ賣却シタル日時ノ明示ヲ闕クモノナル旨申立ツルモ既ニ第一論旨ニ於テ上告ヲ理由アリトシ原判決ヲ破毀スヘキモノナリト判定セシ以上ハ本論旨ニ對シ特ニ說明ヲ與フルノ必要ナシ

以上說明セシ理由ニ因リ民事訴訟法第四百四十七條第四百四十八條ニ從ヒ主文ノ如ク判決

人貸金請求事件

[illegible]

大審院第一民事部　裁判長判事　中村元雄　判事　井上正一　同　小松弘隆　同　岡村爲藏　同　本多康直　同　西川鐵次郎　同　西村善雄

貸金請求事件

（明治三十年第四號　明治三十年五月一日判決）

判決要旨

下級審が終局判決前に爲したる裁判の不服に對し上級審は其終局判決前特に其事項に對し裁判を爲すことなく終局判決中に併せて裁判するも不法にあらす

説明

下級審に於て終局判決以前に爲したる裁判に不服の点ありとするも上級裁判所は其点に對し特に裁判を爲すものにあらすして終局判決中に併せて裁判すべきものとす何となれは民事訴訟法に於て上級審は下級審に於て終局判決以前に爲したる裁判に不服の点あるときは特に此点に對し裁判を爲すへしとの規定あけれはなり

第一卷　第二號　大阪控訴院　第二部

兵庫県神戸地方裁判所

上告人　三田村秀之助

被上告人　吉田幾太郎

訴訟代理人　辯護士　藤井澄次郎

右當事者間貸金請求事件ニ付大阪控訴院カ明治三十九年十一月十四日言渡シタル判決ニ對シ上告人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シタリ

判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

上告論旨第一點ハ檢眞ヲ經テ眞正ナリトセラレタル私署證書ニ對シテハ民事訴訟法第三百五十一條ニヨリ之ヲ僞造又ハ變造ナリト主張シ眞否確定ノ申立ヲ爲シ更ニ相當ノ證據ヲ提出シ得ヘキモノナルヲ以テ終局判決ト同時ニ檢眞ノ結果ヲ言渡サルヽニ於テハ相手方ハ證據提出ノ時機ヲ失スルニ至ル可シ故ニ本按判決ニ先チ檢眞ノ裁判ヲ言渡ス可キニ原院ニ於テハ終局判決前甲第一號證ニ付キ檢眞裁判ヲ爲サヽリシハ訴訟手續ニ違背シ證據提出ノ方法ヲ壅塞セラレタル不法アルノミナラス中間判決ヲ言渡サス判決主文ニ於テ第一審ノ中間判決ヲ廢棄セラレタルノミニシテ甲第一號證眞否ノ裁判ヲ言渡サレヽリシハ請求ヲ受ケタル事項ニ對シ裁判ヲ遺脱セラレタル違法アルモノナリト云フニ在レトモ民事訴訟法第三百五十一條ニ所謂檢眞ヲ經タル私署證書トハ既ニ完結シタル訴訟ニ於テ特ニ檢眞裁判ヲ經タ

ルモノ又ハ其判決ノ理由中ニ檢眞裁判ヲ包含スルモノヲ謂ヒ本件甲第一號證ノ如キ訴訟ノ繫屬中檢眞裁判ヲ經タルモノハ右ノ私署證書ニ該當セス隨テ同證ニ對シ民事訴訟法第三百五十一條ニ從ヒ僞造又ハ變造ノ申立ヲ爲スヲ得ス然レハ原院ニ於テ甲第一號證ニ付キ終局判決前特ニ檢眞裁判ヲ爲サヽリシモ上告人ハ之レカ爲メ他ニ證據ヲ提出スルノ機會ヲ失セタリト云フヲ得ス又原院ニ於テ甲第一號證ノ眞否ニ付キ裁判ヲ爲シタルハ原判文中ニ「被控訴人先代カ甲第一號證ヲ控訴人ヘ差入タルコト明白ナリ云々」トアルニ依リ明カニシテ且下級審ノ終局判決前ニ爲シタル裁判ニ對シ不服ナル場合ニ上級審ニ於テ其點ニ對シ特ニ裁判ヲ爲スヲ要ストノ規定ナケレハ終局判決中ニ併セテ裁判ヲ爲シタルモ毫モ上告論旨ノ如キ不法ノ廉ナシ

同第二點ハ原判決ニ於テハ其判決主文ニ於テ第一審ノ中間判決ヲ廢棄セラレナカラ其理由ノ部ニ於テ何等ノ說明ヲ付セラレサルハ判決ニ理由ヲ附セサル違法アルモノニシテ民事訴訟法第四百三十六條第七號ニ該當スル破毀ノ原由アルモノナリト云フニ在レトモ第一審ノ中間判決ヲ廢棄シタル理由トシテハ原判文ノ冒頭ニ「甲第一號證ハ被控訴人ニ之ヲ否認スルモ同號證ノ印影ハ鑑定人高山慶藏村上幸次郎村上吉兵衛ノ鑑定ノ結果ニ依リ被控訴人先代仁左衛門ノ實印ニ相違ナシト認定シ得ヘキノミナラス證人兒玉甚三郎ノ證言ニ據レハ被控訴人ノ先代カ甲第一號證ヲ控訴人ヘ差入レタルコト明白ナルヲ以テ被控訴人ハ該證文債務ヲ辨償セサルヘカラサルノ義務アリトス」トノ說明アルヲ以テ理由ノ欠缺スル裁判ナリト云フヲ得ス

右說明ノ如クナルヲ以テ上告論旨總テ其理由ナキニ依リ民事訴訟法第四百三十九條第一項ニ從ヒ主文ノ如ク判決ス

大審院第一民事部

裁判長　判事　中村元嘉　判事　小松弘隆
同　同　本多康直　同　河村善益
同　同　井上正一　同　岡村爲藏
同　同　西川鐵次郎

損害要償事件

明治二十九年第四八號
明治三十年五月三日判決

判決要旨

當事者の一方が假令前の期日に於て辨論を爲したることあるも判決に接着する口頭辨論期日に出頭せす又は出頭するも辨論をなさゝるときは相手方の中立に因り闕席判決を爲すへきものとす

說明

民事訴訟法第二百四十九條に延期したる口頭辨論の期日又は口頭辨論を續行する爲に定むる期日も亦第二百四十六條の辨論期日に全ヒと規定せり而して第二百四十六條には原告若くは被告口頭辨論の期日に出頭せさ

る場合に於ては出頭したる相手方の中立に因り缺席判決を爲すと規定せり兩條相對比するときは前掲要旨の如く闕席判決を爲すべきこと當然たり

第一審　神戸地方裁判所豐岡支部　第二審　名古屋控訴院

上告人　田村久吉　訴訟代理人　辯護士　熊野敏三

被上告人　圓山專助

右當事者間ノ損害要償事件ニ付名古屋控訴院カ明治二十九年一月二十日言渡シタル判決ニ對シ上告代理人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シタリ

判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

上告第一論旨ハ民事訴訟法第二百七十四條ノ規定ニ依レハ裁判所ハ當事者ノ申立テタル數多ノ證據中其調フヘキ限度ヲ定ムルノ權アルト同時ニ亦當事者ノ申立テタル證據方法ヲ全然排斥セルノ權ナキハ該法文ニ依リ明カナル所ナリ本件ニ付キ上告人ハ原院ニ於テ其主張セル事實ヲ立證スル爲メ證人岩田茂次郎久志本拾雄武田貞之助ノ證據調ヲ申請シタルニ原院ハ悉ク之ヲ却下シ而カモ其判決ニ於テ毫モ理由ヲ說明セス是原判決ハ民事訴訟法ニ違背シ其職權外ニ於テ證據ヲ取捨シタル不法アリト云フニ在リ依テ一件記錄ヲ調査シ之ヲ按ス

ルニ抑本件ニ付テ原院ニ於ケル係爭事實ハ單ニ和解契約ノ成立如何ノ一點ニ過キサリシコトハ原院ノ口頭辯論調書及ヒ原判決ノ事實ノ摘示ニ依リ明カナリ而シテ上告人ハ原院ニ於テ右和解契約ハ未タ調ヒタルモノニアラサルコトヲ主張シ其事實ヲ證スル爲メ證人岩田茂次郎久志本拾雄武田貞之助ノ證據調ヲ申請シタルヨリ原院ハ一個ノ係爭事實ニ對スル數多ノ證據ノ中ニ出中書證ノミニ付キ證據調ヲ爲シ人證ニ付テ證據調ヲ爲サヽルニ過キサレハ敢テ民事訴訟法第二百七十四條ノ規定ニ違背シタルモノト云フヘカラス又其證據調ヲ爲サヽルモノニ付キ裁判所ハ之カ說明ヲ爲スノ義務ナキモノトス故ニ此上告論旨ハ其理由ナシ

其第二論旨ハ元來和解ニハ當事者互ニ讓步出捐シテ爭ヲ落着セシムルノ事實アルコトヲ要スルハ民法上ノ原則トシテ欵ヲ容レサル所ナリ然ルニ本件和解ノ成立ヲ見ルニ丙第一號證タル和解契約書ハ和解ノ條件トシテ上告人ハ五千八百圓ノ訴權全部ヲ抛棄シタルニ對シ被上告人ハ上告人ニ對シ取引殘金百圓ト別途金貳百圓ヲ交付シ又上告人供託金ノ假差押ヲ解除スルコトヲ以テシタリ然ルニ右ノ中前後二個ノ事實ハ和解ノ條件トナラス何トナレハ殘金百圓ト供託金ノ取戻トハ被上告人ノ爲メニ一ノ讓步又ハ出捐トナル可キモノニアラス即チ殘金百圓ハ文字自ラ表白セル如ク上告人ト被上告人トノ間ニ於タル絹絲賣買ノ取引計算上差引殘金ニシテ假令上告人カ敗訴スルモ當然上告人ニ歸ス可キモノナリ既ニ當然上告人ニ歸ス可キ已存權利トセハ此ヲ以テ被上告人ハ和解ノ爲メニ讓步セリ出捐セリトハ到底目ス可カラサルモノナリ又供託金ノ取戻モ同一ニシテ不日上告人ニ復歸スヘキ金額ナレハ只

假差押ノ手續ヲ解除シ原狀ニ復セシメタル手續ヲ以テ被上告人ハ此ニ讓歩出捐シタルモノト爲スベキモノニアラス已ニ此ノ二點ニシテ讓歩出捐ニアラストセハ元來不可分ノ性質ヲ有スル和解契約全體ハ不成立ナリト言ハサル可カラス然ルニ原院ハ「和解契約控訴人被控訴人間ニ在リテ有効ニ成立シタルモノト斷定ス云々」又ハ「本件ノ和解ハ丙一號證ノ通リ被控訴人ハ金參百圓ヲ獲得シ且ツ假差押ノ解除ヲ目的トスルニアレハ和解契約ノ要素ニ欠缺アリト謂フヲ得ス」ト判斷セリ然レトモ本件契約ハ和解契約ノ要素ヲ欠キタルコト上述ノ如クナル以上ハ原院カ之ヲ以テ有効ノ和解ト認定シタルハ和解契約ノ性質ヲ誤認シ法則ヲ不當ニ適用シタルモノナリト云フニ在リ依テ原判決ニ就テ之ヲ按スルニ原院カ係爭ノ和解契約ハ完全ナル代理權ヲ有スル上告人ノ代理人岩田萬次郎ト被上告人トノ間ニ於テ締結セシモノニ係リ上告人ト被上告人ノ間ニ在リテ有効ナルモノト斷定シ且該契約ノ要點タル上告人ハ被上告人ニ對スル損害要償ノ訴權ヲ拋棄シ被上告人ハ上告人ニ取引殘金百圓ヲ別途金貳百圓ヲ交付シ及ヒ假差押ヲ解除スヘキ事項ヲ以テ條件トシタルハ正當ニ成立シタル和解契約ナリト認メタル判旨ハ即チ代理權ニ欠缺ナキノミナラス上告人ハ未確定ナル損害要償タル債權ヲ拋棄シ被上告人ニ在テハ未確定ナルモノヲ確實ノ債務トシテ參百圓辨濟スヘク且未タ其時期ニ到ラサル假差押ヲ解除シ以テ直チニ供託金ヲ取戻サシムヘキ約諾ヲ爲サルハ敢テ不當ノ和解契約ニ非スト認定シタル筋合ナリ然ラハ其當事者カ相互ノ主張シ得ヘキ權利ノ讓合ニ過ギサリトスルモ上告論旨ノ如ク全ク讓歩アラサル和解契約ヲ不當ニ

認定シタルモノト云フヲ得ス故ニ本論旨モ其理由ナシ

其第三論旨ノ前段ハ上告人カ抗辯ノ一タルヤ上告人ノ代理人岩田萬次郎ハ被上告人代理高谷恒太郎ト共謀シテ詐欺ノ事實ヲ拵ヘ和解契約成立セルモノヽ如ク裝ヒタルモノニシテ上告人ハ斯ル和解ニ服スル義務ナシト謂フニアリテ丁三號證ヲ以テ其事實ヲ立證シ最モ屈强ノ證據ト思考セリ然ルニ原院ハ「丁三號證ハ金員ノ授受ヲ證明スルニ在リテ之ヲ以テ和解契約ハ不當ニ成立シタル者トノ證左トナラス何シトナレハ果シテ岩田萬次郎ト控訴人代理ト共謀上不當ノ處置ヲナシ金員ヲ分割シタルモノトセハ何ソ不當行爲ノ證據トナルヘキ第三號證ヲ授受スル謂レアランヤ」ト說明シ上告人ノ抗辯ヲ排斥セラレタリ此說明タルヤ他ノ言葉ヲ以テセハ證據ニ依リテ事ヲ判斷シタルニアラスシテ事實ヲ豫斷シテ後證據力ヲ判斷シタルモノナリ則チ共謀ノ事實ナキモノナルヲ以テ斯ル證據ノ殘存スル筈ナシトノ意ニ外ナラス若シ此論法ヲ以テセハ他ニ幾多ノ完全ナル證據ヲ提出スルモ一トシテ共謀ヲ立證スルコトヲ得ス證據提出ノ數多ニシテ且ツ完全ナルト共ニ不法行爲ヲナサントト企ツルモノ何ソ斯ル顯著ノ證據ヲ存殘スルノ道理アランヤト說明シテ排斥セサルヲ得サルニ至ル可シ其不當タル敢テ多言ヲ要セス故ニ原判決ハ採證法ヲ誤リ其結果不當ノ共謀ニアラスト誤認シタル不法アルモノト云ヒ其後段ハ丁第三號證ノ認否ニ付被上告代理人ハ裁判長ヨリ丁號ノ認否ヲ申立ツ可シトノ命ニ對シ「丁第三號證ハ認ム」ト陳辯セリ而シテ丁三號證立證ノ旨趣タルヤ上告人代理岩田萬次郎ト被上告人代理岩谷恒太郎ト共謀ノ上和解ヲ假裝シタル

モノナリト云フニアレハ被上告人カ之ヲ認ムト陳述セル以上ハ其證據力十分タルヘキ筈ナルニ原院ハ前段ニ陳スルカ如ク背理極マル理由ヲ以テ遂ニ上告人ノ抗辯ヲ排斥シタルハ採證法ニ關スル法理ヲ誤リタル事實ヲ確定シタル不法アリト云フニアリテ要スルニ本論旨ハ上告人ノ代理人ト被上告人ノ代理人ト共謀上不當ニ和解契約ヲ爲シタル事實ヲ證スル爲メ丁第三號證ナル書證ヲ提出シタルニ原院ハ採證法ヲ誤リ不法ニ事實ヲ認定シタリト云フ論旨ニ歸ス然レトモ原判決ハ丁第三號證ノ成立ヲ認メサルニアラス又證據ニ依ラスシテ事實ヲ豫斷シタルニモアラス丁第三號證其モノト丙第十三號證及ヒ丙第二號證ノ一ト彼是對照シテ之ヲ料酌シ且其事情ニヨリ推究シテ丁第三號證ハ和解契約ノ共謀上不當ニ成立シタルノ證左トナラサルモノト判斷シタル筋合ナルコトハ原判決理由ノ第三項ニ於ケル說明ニ依リ自カラ之ヲ推知スルコトヲ得ヘシ然ラハ原判決ハ上告人所論ノ如キ不法ノ點ナシ

同第四論旨ハ原判決前段ニ曰ク最初岩田萬次郎カ丙第二號證ノ委任狀ニ依リ控訴人ニ和解契約ヲ取結ヒ度旨申込ミシモ不完全ナリトシテ之ヲ拒ミシニ云々ト記載シ丙三號證成立ノ當時マテハ和解ノ申込ヲ拒絕シタルモノト認定セリ而シテ後段ニ曰ク「丙第十三號證ハ控訴取下ノ委任狀ニシテ當時成立スル筈ナキカ如クナレトモ元來被控訴人ハ岩田萬次郎ニ明治二十八年一月十二日付和解契約ノ委任狀（丙第二號ノ二）ヲ交付シタルコトアリテ其事情ヨリ推考スレハ同年一月二十二日ニ至リ丙第十三號證ノ成立シタルハ怪ムニ足ラス」ト說明セリ斯ク如ク前ニハ被上告人カ丙第二號證ニテハ和解ノ申込ヲ斷ハリタルモノナレハ上

告人カ丙第十三號證控訴取下ノ委任狀ヲ交付スルノ理ナキ筈ナルニ後ニハ丙第二號證ノ存スル以上ハ控訴取下ノ委任狀ヲ交付シタルハ怪シムニ足ラスト認定セルハ前後矛盾ノ判旨ナリト謂ハサルヲ得ス蓋シ丙第二號委任狀ハ一月十三日付丙第三號委任狀ハ一月二十四日付ナルニ控訴取下委任狀ハ一月二十二日付ナレハ已ニ丙第二號證ニ依リ和解ノ申込ヲ斷リタルニ控訴取下委任狀ヲ交付スルノ理ナケレハナリ此日付ノ齟齬ハ和解カ假裝ノモノナルコトヲ推知スルニ足ル是原判決ハ前後矛盾ノ理由ヲ以テ必要ノ事實ヲ抹殺シテ事實ヲ確定シタルノ不法アリト云フニアリ依テ原判文ヲ審査スルニ其第一項ノ說明ハ（被控訴人ハ曾テ岩田萬次郎ニ本按和解取扱ノ委任狀ヲ交付シタルコトナシト云フモ丙第三號證ハ被控訴人ト岩田萬次郎トノ間委任契約ニ關スル公正證書ノ謄本ニシテ又其文中（田中久吉云々圓山專助ニ對スル大審院明治二十七年第四百四十四號判決ヲ以テ名古屋控訴院ヘ移送セラレタル損害要償金伍仟捌百圓及ヒ之ニ對スル訴訟費用請求事件ニ付和解ヲ爲スノ事并ニ之ニ關スル一切ノ事ヲ臨機處辨スルコト）トアリ丙第二號證ハ私署證書ナルモ丙第三號證ノ如キ委任狀ニシテ被控訴人ノ名前及ヒ印影ハ同人ノ認ムル所ナリ而シテ最初岩田萬次郎カ丙第二號證ノ委任狀ニ依リ控訴人ニ和解契約ヲ取結度旨申込ミシモ不完全ナリトシテ之ヲ拒ミシニ爾今岩田萬次郎ハ丙第三號證ニ依リ委任權限ヲ確保シタルモノナリトノ控訴代理人ノ申立ハ信憑スルニ足ル云々）トアリテ其說明中前シテ以下（最初岩田萬次郎カ丙第二號證ノ委任狀ニ依リ控訴人ニ和解契約ヲ取結度旨申込ミシモ不完全ナリトシテ之ヲ拒ミシ云

ム）ノ文詞ハ即チ控訴代理人ノ申立ヲ掲ケテ其申立ノ憑據スルニ足ルヲ可キヲ判示シタルモノナシテ原裁判所カ直チニ認定ヲ下セル判語ニアラス而シテ本項ノ證明ハ要スルニ丙第二號證ハ私署證書ナルモ公正證書タル丙第三號證ヲ以テ其委任權限ヲ確保シタルモノト認メタルニ在レハ後段（丙第十三號證ハ控訴取下委任狀ニシテ當時成立スル筈ナキカ如クナレトモ元來被控訴人ハ岩田萬次郎ニ明治二十八年一月十二日付和解契約ノ委任狀ヲ交付シタルコトアリテ其事實ヨリ推考スレハ同年一月二十二日ニ至リ丙第十三號證ノ成立シタルハ怪ムニ足ラス）トノ證明ハ前段ノ說明ニ自ラ相照應シ毫モ矛盾スル所ナシ要スルニ本點ノ論旨ハ原判旨ノ誤解ニ基クモノニシテ其理由ナシ

其第五論旨ハ本件和解契約ハ其日付ニ於テ成立シタルヤ又ハ後日ニ於テ成立シタルモノナルモ日付ヲ遡ラシテ一月二十四日ノ成立ニ假裝シタルモノナルヤハ原院ニ於テ重要ノ爭點ナリキ而シテ上告人ハ日付ヲ遡ラシメタル事實ヲ立證スル爲メ證人久志本捨雄ノ訊問ヲ請求シタリ然ルニ原院ハ此必要ナル證人ノ訊問ヲ許可セスシテ和解契約ハ其日付ニ於テ成立シタルモノト斷定シタルハ證據方法ヲ許サスシテ漫然事實ヲ速斷シタル不法アリト云フニアルモ元來裁判所ハ當事者ノ申出タタル數多ノ證據方法ヲ總テ採用セサルノ限リニアラサルコトハ第一論旨ニ對スル說明ニ依リ之ヲ會得スヘシ

其第六論旨ハ本件ニ付明治二十八年十一月二十六日第一口頭辯論期日ニハ香羽安成外四名ノ判事列席審理ヲナシ第二口頭辯論期日タル明治二十九年一月二十三日ノ開廷ニハ前列席

判事中大野判事ハ北畠判事ト交替シタリ而シテ本案一定ノ申立ハ第一口頭辯論期日ニナシタルノミニシテ第二口頭辯論期日ニハ之ヲ更新セス前審ニ引續キ開廷ス可シト告ケ直チニ本案辯論ヲナシタルヲ以テ北畠判事ハ遂ニ一定ノ申立ヲ聞カスシテ裁判シタリ而シテ一定ノ申立ハ民事訴訟法第百十條第一項同第百五條第二百二十二條ニ依リ辯論ノ一部ヲナスハ勿論其最要部分トモ看做ス可キモノニシテ判事變更ノ場合ニ於テハ之ヲ更新セサル可カラサルモノナレハ此ニ列席セスシテ裁判シタルハ訴訟手續ノ背戾タルヲ免カレスト云フニアリ依テ訴訟手續判旨第六點中口頭辯論ニ關スル規定ヲ按スルニ凡ソ口頭辯論ヲ續行スル爲メ數回其期日ヲ開キタル場合ニ於テハ判決ニ接着スル口頭辯論期日ニ當事者ノ一方カ出頭セサルカ又ハ出頭スルモ辯論ヲ爲サヽルトキハ假令前ノ期日ニ於テ十分辯論ヲ爲シタルコトアリトヽ雖モ民事訴訟法第二百四十九條ノ規定ニ從ヒ相手方ノ申立ニ因リ闕席判決ヲ爲スヘキモノタリ是ヲ以テ右口頭辯論續行ノ期日ヲ開始セラレタルトキハ各當事者ハ曩ニ辯論ヲ爲シタルト否トニ拘ハラス同法第百十條ノ規定ヲ始メ一般ノ原則ニ基キ更ニ辯論ヲ爲サヽルヘカラス若シ然ラサレハ同法第二百五十條ノ規定ニ依リ裁判セラルヘキヤ將タ同法第二百五十一條ノ規定ニ依リ裁判セラルヘキヤ其當事者ノ自ラ招タ所ノ不利益ニ止マリ敢テ裁判所ノ責ニ歸スヘキモノナラス而シテ本件ニ付テハ原院ニ於テ辯論續行ノ期日ヲ開カレ其口頭辯論調書中ニ更ニ一定ノ申立トシテ陳述シタル旨ノ記載ナキモ一般辯論ヲ爲シタル顚末ハ掲ケアルヲ以テ即チ一般ノ原則ニ基キ辯論ヲ爲シタルモノト看做サヽルヲ得ス況

ヤ關係者ト看做サレタルモノナキニ於テヲヤ然リ而シテ其辯論ニ臨席シタル判事カ判決ヲ爲シタルモノナレハ同法第二百三十二條ノ規定ニモ背カサルヲ以テ原判決ハ訴訟手續ニ背戻シタル點ナシ故ニ本論旨モ亦上告ノ理ナシ

以上説明ノ如ク本件上告ハ一モ適法ノ理由ナキヲ以テ民事訴訟法第四百三十九條第一項ノ規定ニ依リ之ヲ棄却スルモノナリ

大審院第二民事部

裁判長　判事　南部甚男　判事　寺島直一

同　増戸武平　同　今村信行

同　藤田隆三郎　同　芹澤直温

同　中尾眞晃

契約履行請求事件

明治三十年第八十七號
明治三十年五月五日

判決要旨

後見人は事實届出以前に就職するも其行爲有効ありとす

説明

後見就職に關する一も存する所なしとす而して就職届出は單に事實の報告たるに過きす故に届出前實際就職したるときは其後見人か爲したる所爲を有効とするも不法にあらさるなり

第一審　水戸地方裁判所　　第二審　東京控訴院

上告人　小川寅吉　　訴訟代理人　辯護士　大久保端造

被上告人　小貫モク後見人小貫精

右當事者間ノ契約履行請求事件ニ付東京控訴院カ明治二十九年十二月二十六日言渡シタル判決ニ對シ上告代理人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シタリ

判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

上告第一點ハ本件ノ爭點ハ甲第一號證ノ眞否第一點ト甲第一號證ノ効力如何(第二點)ニアリ而シテ被上告人ハ原院ニ於テ該證ノ成立ト立證趣旨トヲ否認セシニ付上告人ハ先以テ該證ノ成立ヲ確メント欲シ檢眞ノ申請ヲナシタルモノナレハ原院ハ須ラク檢眞ノ裁判ヲナササル可ラサルニ事茲ニ出テス該申請ヲ棄却セシハ不法ナリト云フニ在ルモ原裁判所ハ其判決理由ニ明示スル如ク甲第一號證ハ上告人ト小貫通德ノ間ニ成立シタルモノト認メタル以上ハ所有者タル幼者モクニ對シ何等ノ効力ナキモノト判斷シタルモノニ付固ヨリ檢眞ヲ爲スノ必要ナシ故ニ本論ハ謂レナキ攻擊ニシテ採用スルニ足ラス

其第二點ハ原院ハ小貫精ノ後見届ハ明治二十八年一月十六日ニ提出サレタル事ヲ認メナカリシ一方ニ於テハ其以前ヨリ同人カ後見ノ任務ヲ取リ居タルモノナリト推定サレ且甲第一號

罰ヲ無効タラシメタルハ不法ナリ如何トナレハ當然後見人ノ任務ヲ有スル幼者ノ父母ニ非ラサルモノ即チ撰定ニ依テ後見人ノ職ニ就ク所ノ者ハ後見人タル事ヲ屆出タル時ヨリ就職スルモノニシテ其以前ニハ後見人タル權利ナク義務ナキモノニシテ假令就職以前ニ或ル行爲ヲナシタルコトアリトスルモ到底後見人ノ行爲ト認ムル能ハサレハナリ殊ニ第三者タル上告人ニ於テハ屆ナキ以前ニ小貫精カ後見人タルコトハ知ル能ハサルヲ以テ親權ヲ有スル小貫通德ト契約セシモノナレハ毫モ過失ノ存スル所ナシ然ルニ原院一方ニ於テハ猥リニ說ヲナシ後見屆出以前ヨリ小貫精カ後見人ノ任務ヲ取居リタリトナシ一方ニ於テハ上告者ハ後見ノ點ニ於テハ第三者タル事ヲ斟酌セス上告者ノ權利ヲ害シ甲第一號證ヲ無効ナラシメタルハ不法ノ裁判ナリ但原院ニ於テ甲第一號證ヲ無効ナラシメタル理由ノ末尾ニハ代價ノ事モ附記シアレトモ該判決ノ基礎ハ甲第一號證成立ノ當時ハ小貫精後見人タリ故ニ小貫通德ハ幼者ヲ代表シテ契約スルノ權能ナシトノ點ニ存スルモノナレハ此重要ナル點ニ就テハ破棄ヲ乞ノ次第ナリト云フニ在ルモ後見人就職ニ付テハ特ニ法規ノ存スルモノナシ故ニ事實屆出以前ヨリ就職シ居タルモノト認定スルハ固ヨリ事實裁判官ノ自由タル可キモノニ付本論モ亦其理由ナシ

其第三點ハ又他ノ側ヨリ見レハ原院ハ小貫通德ハ現ニ小貫とくノ父ニシテ後見人タルコト能ハス而シテ後見人タル能ハサリシハ通德ハ乙第一號證ノ如ク曾テ兩回マテモ重禁錮ノ刑ニ處セラレタルモノニシテ無賴漢ナルカ故ニ親族間後見人タルコトヲ許容セサリシナリト

裁判シ恰カモ後見人撰定當時小貫通德ニ前科兩度アルモノトナシタレトモ這ハ不法ニ事實ヲ決定シタルモノナリ通德ハ乙第一號證ノ如ク官林盜伐事件ニ付明治二十六年十一月二十二日重禁錮ノ刑ニ處セラレ其處刑ハ後見人撰定以前（後見人撰定ハ明治二十八年一月十四日）ナレトモ他ノ一罪即チ賭博犯ノ處刑ハ撰定以后十一ヶ月ヲ經タル明治二十八年十一月二十七日ナレハ後チノ一罪ハ後見人撰定ニ毫モ關係ナキハ勿論總テ通德カ曾テ二回ノ重禁錮ノ刑ニ處セラレタル事實ナキコトハ炳然火ヲ視ルカ如ク明カナリ夫レ然リ然ルニ原院カ前條ノ如ク裁判セラレタルハ不法ノ裁判ナリ況ンヤ處刑ヲ受ケタルコトノ後見人撰定ニ關係ナカリシコトハ明治二十八年一月十四日ニ後見人トナリタル小貫精ニ於テモ其以前甲第六號證ノ如ク重禁錮ノ處刑ヲ受ケ居ルニ於テ明カナルニ於テオヤト云フニ在ルモ原判決ハ其旨趣タル通德ハ曾テ兩回迄モ重禁錮ノ刑ニ處セラルヽ程ノ不正ノ人物ナル故ニ親族間ニ許容セラレサリシモノナルヘシト云フニ在テ後見人選定當時既ニ兩回處刑ヲ受ケタルモノト云フノ旨趣ニアラサルコトハ原判文ヲ通讀シテ明カナルヲ以テ本論モ亦其理由ナシ

上來說明ノ如ク本件上告ハ一モ適法ノ理由ナキヲ以テ民事訴訟法第四百三十九條第一項ノ規定ニ從ヒ之ヲ棄却ス可キモノトス

大審院第二民事部

裁判長　判事　南部甚三郎　判事　寺島直
同　増戸武平　同　今村信行

同　藤田隆三郎　同　岸澤政温

同　中尾眞晃

石材運送請負殘金請求事件

明治二十九年第四三一號
明治三十年五月六日判決

判決要旨

相殺の抗辯は反訴の方法に依るにあらざれは之を提出するを得す

說明

相殺か法律上の要件を具ふるときは當事者の意思表示に依りて行はるヒは新民法の規定する所なりと雖仝法は未た實施の効力を有せす故に相殺は民事訴訟法第二百一條に從ひ反訴の方法に依るにあらざれは之を提出することを得すとす

第一審　長崎地方裁判所

第二審　長崎控訴院

上告人　草野文八　訴訟代理人　辯護士　石原毛登馬

被上告人　松江藤吉外一名　訴訟代理人　辯護士　津田義治

右當事者間ノ石材運送請負殘金請求事件ニ付長崎控訴院カ明治二十九年五月二十九日言渡シタル判決ニ對シ上告人ヨリ全部破毀ヲ求ル申立ヲ爲シ被上告人ハ上告棄却ノ申立ヲ爲シタリ

判決

原判決ヲ破毀シ更ニ辯論及ヒ裁判ヲ爲サシムル爲メ本件ヲ長崎控訴院ニ差戻ス

理由

上告論旨第一點原院判決ニ於テ全ク上告人ノ請求ヲ棄却セラレタル理由ハ「(前略)本訴ニ千八百六十七本ノ石材ハ總テ控訴人ニ於テ運搬シタルモノト認ムルコトヲ得ヘク臨テ請負代金百五十圓九錢七厘ハ控訴人ノ債權ニ屬スルモノト云フヲ得ヘシト雖モレール使用料ハ云々現實レールヲ使用シ依テ以テ利益ヲ得タル控訴人ニ於テ其費用ヲ負擔スヘキモノト推定スルノ外ナキナリ而シテ使用料幷ニ之ニ附隨セル費用ノ百七十七圓餘ナルコトハ云々」明瞭ニシテ本訴控訴人ノ請求ニ係ル百五十圓九錢七厘ニ超過シ最早控訴人ニ支拂スヘキモノナシ然ラハ即チ控訴人ノ請求ハ不當ナリト云フニ在リト雖トモ元來レール使用料カ上告人ノ負擔タルヘキ原院判決認定ニハ服スル能ハサル所ナレトモ今假リニ上告人ノ負擔スヘキモノトシテ論スルモ被上告人ハ此使用料ノ立替支拂若クハ代價辨濟等ノ理由ヲ以テ反訴若クハ反求ニ係ル請求ヲ爲シタルコトナク依テ苟モ本訴請求金カ上告人ノ債權ナルコトヲ認メタル、以上ハ上告人ノ請求ノ採用セラルヘキ筋合ナルニ原判決全ク之ニ反シ上告人ノ負擔タルヘキモノトスルレール使用料ノ高カ本訴請求高ニ超過スルノミノ理由ヲ以テ上告人ノ請求ヲ棄却セラレタルハ民事訴訟法第二百卅一條第一項ニ違背スル不法ノ裁判ナリト云フニ在リ依テ按スルニ本訴ニ於テ上告人ハ被上告人ニ對シ石材運送請負殘金ヲ請求シタルニ被上告人ハ上告人爲メニ訴外人小林トクニ計算支拂ヲ爲シタルレール使用料ハ上告人

ノ請求金額ニ超過スルニヨリ差引計算上上告人ニ支拂フヘキモノナシト抗辯セリ是レ即チ上告人ノ請求ニ對抗スルニ相殺ノ抗辯判旨第一點ヲ以テシタルモノナリ而シテ現行法中法律上ノ相殺ヲ認メスシテ民事訴訟法第二百一條第二項ニ「答辯書ヲ期間内ニ差出シタル書面ヲ以テ起サヽル反訴ハ被告ノ請求ノ全部又ハ一部ト相殺ヲ爲ス可キ場合ニ於テ同時ニ被告自己ノ過失ニ因ラスシテ其以前反訴ヲ起スヲ得サリシコトヲ疏明スルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ許ス」トアルニヨリ相殺ノ抗辯ハ同條ニ從ヒ反訴ノ方法ニ依ルニ非サレハ之ヲ提出シ得ヘカラサルモノナリ然ルニ原院ハ被上告人カ曾テ反訴ヲ提起セサリシニモ拘ハラス被上告人ノ支拂ヒタルレール使用料等ハ上告人ノ請求金額ニ超過スルノ理由ヲ以テ上告人ノ請求ヲ棄却シタルハ法則ヲ適用セサル違法ノ裁判ナリトス因テ民事訴訟法第四百四十七條第一項ニ依リ原裁判ヲ破毀シ尚ホ同第百四十八條第一項ニ從ヒ更ニ辯論及ヒ裁判ヲ爲サシムル爲メ本件ヲ原院ニ差戻スヲ相當トス

但本論旨ニ依リテ原裁判ヲ破毀スル以上ハ他ノ上告論旨ニ對シ一々説明スルノ必要ナシ

大審院第一民事部

裁判長　判事　村元嘉　判事　井上正一

同　小松弘隆　同　岡村爲藏

同　本多康直　同　西川鐵次郎

同　村善登

賃貸借契約請求事件

明治三十年第九七號　明治三十年五月七日判決

判決要旨

地所の賃貸借契約は法律上物權たる性質を有せすと雖も一種の權利として地所の所有主に追隨することは我邦古來の慣習なり

説明

賃貸借契約の目的とする所は賃借人より賃料を拂ひ賃貸人は賃借人をして其賃借物を使用せしむるにあり故に其權利の物權にあらすして人權なること論を俟たす而して人權には追求權なきこと亦た明かなりと雖も我邦古來の慣習として賃貸借契約に一種の權利を認め此に追求の權利を附與するものとす

第一審　秋田地方裁判所　　第二審　宮城控訴院

上告人　伊藤正一　　訴訟代理人　辯護士　杼窪廣成

被上告人　奈良茂外一名

右當事者間ノ賃貸借契約請求事件ニ付宮城控訴院カ明治二十九年十二月十四日言渡シタル判決ニ對シ上告代理人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シタリ

判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

上告論旨ハ本訴甲第一號證ノ小作契約ハ公正ノ手續ニ據リ成立シタルモノナリト雖モ右ハ公示的ノモノニアラサルヲ以テ法律上物權ノ性質ヲ有スヘキモノニアラス（民法第六百五條）加旃上告人ハ未タ其賃貸借地ヲ占有セサルモノニ付該契約ハ第三者ニ其効ヲ及ホスヘキノ條理之レナキモノナルニ原院ハ本案小作地ノ上告人ノ占有ニ係ルヤ否ヤヲ審究セスシテ直チニ甲第一號證ノ契約ヲ以テ物權ト認メラレ被上告人等カ有スル抵當權ヲ害スルモノト爲シ之ヲ取消スヘキ旨言渡シタルハ頗ル違法ノ判決ナリト云フニアリ按スルニ地所ノ賃貸借契約ハ法律上物權ハ性質ヲ有スルモノニアラサルコトハ上告人申立ノ通リナリト雖モ該契約ハ一種ノ權利トシテ地所ハ所有主ニ追隨スルコトハ我邦古來ノ慣習ナルヲ以テ殊ニ慣習ニ相違スル旨ノ申立ヲ爲サヽルニ於テハ裁判所ハ普通賃貸借ト見做シ判決ヲ與フルハ當然ナルヘク又賃借地ヲ占有セサルヤ否ヤノ問題ハ元來事實ニ屬スルノミナラス本件ノ如ク二十五年分ノ賃料ヲ授受シテ既ニ半ケ年餘モ經過シタル場合ナレハ是亦殊ニ其申立ヲ爲サヽルニ於テハ裁判所ハ既ニ占有アルモノト見做スヘキハ當然ナリト云ハサルヘカラス而シテ原審廷ニ於ケル口頭辯論調書ヲ閲スルニ上告人ハ甲第一號證ハ證書自體ハ認ム尤本證ノ契約ハ控訴人間ニ於テ有効ノモノニシテ第三者タル被控訴人ニ影響ヲ及ホス可キモノナラサルヲ以テ本證ノ爲メ何等ノ損害ヲモ被控訴人ニ及ホスヘキモノニアラスト云ヒ又控訴人等ハ該契約ニ依テ本訴地所ニ對シ右契約ヲ履行スルノ意思ナルコトハ勿論ナル可シ如何

トノ裁判長ノ訊問ニ對シ控訴人間ニ於テハ御尋ノ如シト云ヒタルノミニテ他ニ右慣習ニ相違スル旨ノ申立ハ勿論未タ賃借地ヲ占有セサリシ旨ノ申立ヲモ爲タルコトナケレハ原裁判所カ右甲第一號證契約ヲ以テ地所ノ買受人ニ効力ヲ及ホスモノト爲シ之ヲ判決シタルハ相當ニシテ違法ニアラス要スルニ本論ハ原院審理中問題トナラサル事項ニヨリ原判決ヲ非難スルモノニシテ上告ノ理由トスルニ足ラサルモノトス

上來説明ノ如ク本件上告ハ一モ適法ノ理由ナキヲ以テ民事訴訟法第四百三十九條第一項ノ規定ニ依リ之ヲ棄却スヘキモノトス

大審院第二民事部

裁判長 判事 南部甚男　判事 寺島直
同 増戸武平　同 今村信行
同 藤田隆三郎　同 芹澤政温
同 中尾眞晃

不動産書入質入登記强制競賣取消請求事件

（明治三十年第九九號 明治三十年五月十日判決）

判決要旨

地所の抵當權は其當事者間に如何なる特種の契約あるも又は契約の前後に區別あるも登記簿に登記を爲さゝれは第三者に對抗するを得ず

説明

登記法の公示方法に過きすと雖も其手續を履行せされは其取得の權利は第三者に對抗する能はす此の故に假令抵當權設定の場合に於て當事者間に如何なる特種の契約あるも又は契約の前後に區別あるも苟も其登記手續を爲さゝる以上は登記法上其効果を發生せさるものとす

第一審　東京地方裁判所　第二審　東京控訴院

上告人　島崎友連　訴訟代理人　謎辯士　高木益太郎

被上告人　相生秀則　則外二名

右當事者間ノ不動産書入質入登記强制競賣取消請求事件ニ付東京控訴院カ明治三十年二月一日言渡シタル判決ニ對シ上告代理人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シタリ

判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

上告第一論旨ハ凡ソ債權ノ轉付ナルモノハ之ニ因テ債權者カ債務者ノ有シタリト同一ノ權利ヲ收得スルニ過キサルモノナルヲ以テ債務者カ第三者ニ對シテ有スル抵當權ニシテ元來無効ノモノナルトキハ其債權ノ轉付ヲ受ケタル債權者モ其債務者ト同一ノ地位ニアルヘク之ヲ轉付ヲ受ケタル債權者ノミ債務者ノ曾テ有セサリシ權利ヲ有シ又ハ其債務者ヨリ優等ノ位置ヲ占ヲ得ルノ理アルヘカラス然ルニ原判決ハ債權轉付効力ヲ誤解シ既ニ留八ノ有セシ抵當登記ハ之ヲ無効ノモノナリト認メナカラ其無効ノ抵當登記ヲ債權差押手續ニ依リ轉付ヲ受ケタルニ過キサル被上告人要藏ノ抵當權ヲ有効ナリト説明シ依テ上告人ノ請求全部ヲ排斥シタルハ乃チ法則ヲ不當ニ適用シタル裁判ナリト云ヒ其第二論旨ハ原院ハ其判決理由ノ前段ニ於テ「被上告人留八ヨリ上告人並ニ被上告人秀則ニ對スル抵當權順位指定請求主參加訴訟ノ判決確定シタルヲ以テ被上告人留八ハ最早上告人ニ先立チ自己ノ抵當權ヲ登記スヘキ權利ナク隨テ右三名間ニ於テハ被上告人留八カ和解調書ニ基キ爲シタル抵當登記ノ無効ナルコトハ論ヲ俟タス」ト説明セリ果シテ然ラハ原院ハ上告人ノ請求中第一段即チ和解調書ニ基リ債權書入質入ノ登記ハ上告人ニ對シテハ無効ナリト宣言シ第二段即チ被上告ハ其費用ヲ以テ右書入質ノ登記取消ノ主續ヲ爲スヘシトノ點ハ之ヲ裁可スヘキ筋合ナルニ抵當登記ノ無効ナルコトヲ認メナカラ上告人ノ請求ヲ全然排斥シタルハ前後撞着且法則違反ノ裁判ナリト云ヒ』其第三論旨ハ原院ハ其判決理由ノ後段ニ於テ被上告人留八秀則兩名間ニ爲シタル抵當登記ハ上告人ニ對シテ無効ノモノタルコトヲ認メタルニモ不拘被上告人中要藏一人ヲ保證スルノ理由ヲ以テ他ノ被上告人ニ對スル請求ヲモ全然排斥シタルハ不法ノ裁判ナリ何トナレハ今原判決ノ云フ如ク上告人ト被告人留八秀則トノ關係ニ於テハ留八秀則ニ惡意アルモノ又上告人ト被上告人要藏トノ關係ニ於テハ要藏ハ善意ナルモノト認メラレ即チ要藏ハ善意ナルカ爲メ第三者ニシテ債權轉付ノ利益ヲ受クヘキモノト假定セン乎上告人カ第一段留八秀則ニ關スル抵當登記無効ノ主張ハ之ヲ認可シ第二段要藏ニ關スル

抵當登記無効ノ主張ハ之ヲ排斥スヘキ筋合ナリ然ルニ事実ニ出テス要藏一人ヲ保護スルノ理由ヲ以テ既ニ無効ノ登記ナリト斷定シタル留八秀則ニ關スル請求ヲモ悉ク排斥スルニ至テハ甚タ謂ハレナキモノト謂ハサルヘカラス何トナレハ元來無効ナル登記カ獨リ善意ノ第三者ヲ保護スル爲メ當事者間ニモ有効ニ歸スルノ理ナク亦第一段ノ請求ヲ裁可スルモ第二段ノ請求ヲ受ケタル者ハ原判決ノ所謂法律ノ保護アル爲メニ毫モ痛痒ヲ感スルモノニアラス殊ニ原判決ノ辯明ヲ至當トスルモ上告人第一段ノ請求ハ第二段ノ請求ト不可分ノモノニアラサレハ其執行上何等ノ差支ヲモ生スルコトナシ況ヤ本訴ニ於テ第一段抵當登記ハ上告人ニ對シ無効ノモノナリトノ宣言ヲ受クルトキハ上告人ニ於テ損害賠償ヲ求ムルノ其礎ト爲シ得ルノミナラス或ハ第二段ノ轉付無効ニ歸スヘキ事故アリシ場合ニハ上告人カ第一段ノ登記無効ノ宣言ハ直チニ之カ實益ヲ顯ハスコトアルヘシ要スルニ原判決ハ第二段ノ關係人ヲ保護スル爲メ第一段ノ請求ヲ排斥シタルハ法則違反ノ裁判ナリト云フニ在リ依テ按スルニ凡ソ地所ノ抵當權ノ如キハ其當事者間ニ於テ如何ナル特種ノ契約アルモ又ハ契約ノ前後ニ區別アルモ登記簿ニ登記ヲ爲サヽレハ其取得ノ權利ハ第三者ニ對シ其効力ナキコトハ是登記法ノ命スル所ナリ而シテ本件ニ付テハ原判決ヲ閲スルニ原院ノ認メタル事實ニ依レハ上告人ハ相生秀則ニ對スル債權ノ爲メ係爭地ヲ書入抵當ト爲サシメタルモ未タ其登記ヲ爲ナヽル前大井留八ハ秀則ニ對シ和解ノ申請ヲ爲シタル末和解調書ニ基キ留八ハ抵當登記ヲ受ケタルモノナレハ畢ニ留八ハ抵當權順位指定請求ノ主參加訴訟ヲ提起シ其請求ハ相立タストノ確定判決ヲ受クタルコトアルモ之カ爲メ其抵當登記ノ無効ニ歸スヘキ謂ハレナシ況ヤ原判決ノ引用シタル第一審判決ノ事實ノ指示ニ依レハ留八ハ畢ニ大審院カ言渡シタル判決ノ理由ニ從ヘハ第三者ニ對スル抵當ノ効ハ登記ヲ待テ始メテ生スルモノナリトノ趣旨ニシテ敢テ原告カ優先ノ權ヲ有スルトノ理由ニアラス故ニ此理由ニ從ヒ和解ヲ申請シ登記ヲ受クルニ至リタル事實ナリト云フニテ於オヤ既ニ留八ト秀則トノ間ニ於ケル抵當登記ノ有効タル上ハ引テ大島要藏カ取得シタル該抵當付債權ノ轉付ヲ受ケタル事項ノ登記簿ノ記入モ亦有効ニシテ登記ヲ爲サヽル上告人ハ此等ノ効力ニ對抗スルヲ得サルモノトス然ルニ原院カ其判決ノ理由中ニ「被控訴人留八カ和解調書ニ基キ爲シタル抵當登記ノ無効ナルコトハ論ヲ俟タス」ト雖モトノ説明ヲ付シタル一段ハ稍允當ナラサルモ結局上告人ノ訴求ヲ排斥シタルハ相當ナリトス故ニ上告論旨ハ總テ其理由ナシ

以上説明ノ如ク本件上告ハ一モ適法ノ理由ナキヲ以テ民事訴訟法第四百三十九條第一項ノ規定ニ依リ之ヲ棄却スルモノナリ

大審院第二民事部

裁判長 判事 南部甚男　判事 寺島直
同 増戸武平　同 今村信行
同 藤田隆三郎　同 芹澤壥温
同 中尾眞兒

廢戸主戸籍引戻幷ニ地所遺産相續登記取消地所賣買登記取消請求事件

明治二十九年第四十號
明治三十年五月十一日判決

判決要旨

徴兵を忌避せしめんが爲め養子を爲したる事實を主張し以て離縁の訴を爲すも犯罪行爲を原因としたる訴求にあらす

説明

法律上罰す可き事實を主張するにあらされは犯罪行爲を原因とする訴求にあらすされは徴兵を忌避せしめんか爲め養子を爲したる事實を主張し以て離縁の訴を爲すも固と法律上罰す可き所爲にあらさるを以て犯罪行爲を原因とする訴求にあらさるや明かなり故に法律上保護す可きは當然あらと云ふ可し

第一審　宮崎地方裁判所　　第二審　長崎控訴院

上告人　松岡吉兵衛外二名　訴訟代理人　辯護士　岡崎正也

被上告人　松岡ツヤコ　訴訟代理人　辯護士　朝倉外茂鍾

右當事者間ノ廢戸主戸籍引戻幷ニ地所遺産相續登記取消地所賣買登記取消請求事件ニ付長崎控訴院カ明治二十九年五月十八日言渡シタル判決ニ對シ上告人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シ被上告人ハ上告棄却ノ申立ヲ爲シタリ立會檢事岩野新平ハ意見ヲ陳述シタリ

判決

原判決中廢戸主並ニ戸籍引戻ノ請求ニ係ル部分ニ對スル上告ハ之ヲ棄却シ遺産相續登記並ニ地所賣買登記ノ取消請求ニ係ル部分及ヒ訴訟費用ニ係ル裁判ヲ破毀シ本院ニ於テ左ノ如ク判決ス

第一審判決中本件遺産相續登記並ニ地所賣買登記ノ請求ニ關スル部分及ヒ訴訟費用ニ係ル裁判ヲ廢棄シ右二ケノ請求ニ關スル訴ヲ却下ス

總テノ訴訟費用ハ之ヲ三分シ上告人松岡吉兵衛永福吉藏滿山仁左衛門ニ於テ其三分ノ一ヲ負擔シ被上告人ニ於テ其三分ノ二ヲ負擔ス可シ

理由

上告論旨第一點ハ本訴第一ノ請求ハ上告人吉兵衛カ松岡家ノ養子ト相成先代松岡喜左衛門ノ死跡相續ヲ爲シタルニ際シ養子縁組ノ不成立ナルコトヲ確定シ養子入籍並ニ相續ニ關スル戸籍登録ノ取消ヲ求ムルニ在リテ右請求ハ明カニ明治二十三年法律第百四號第三條ノ規定ニ該當スヘキ種類ノ訴ニシテ此點ハ既ニ原院ニ於テモ認メラレタル所ナリトス然ル以上ハ同條末項ノ規定ニ依リ右訴ニ於テハ本訴請求第二項以下ノ上告人ヨリ第三者ヘ賣渡シタル地所ヲ右第三者ヨリ復讐ヲ求ムルノ訴ノ如キハ之レヲ共ニ併合シ得ヘキモノニアラサルヤ明カナリ蓋シ右請求ノ如キハ素ヨリ損害賠償ノ訴ニアラサルヲ以テ同條末項ノ例外ニ該當スヘキモノニアラサルヤ論ヲ俟タサルナリ然ルニ原院ニ於テハ被控訴人ハ明治二十三年

法律第百四號ヲ引用シ本訴ノ如キ請求ヲ併合スルコトヲ許サスト陳辯スト雖トモ該法律ノ精神タル全ク關係ヲ異ニセル他ノ請求ヲ併合スルコトヲ禁止シタルニ過キサルモノニシテ本訴ノ如ク遺言相續取消等離縁ノ請求ニ密接シ全ク其關係ヲ同フセル請求ヲモ併合スルヲ許サヽルノ精神ニアラス」ト判示シ縁組不成立ノ訴ニ於テ同條末項規定ノ例外ノ請求ト雖トモ之ヲ併合シ得ヘキモノヽ如ク判決セラレタルハ同法同條ニ違背セル不法ノ判決ナリト云フニ在リ按スルニ養子縁組事件ニ付テハ明治二十三年法律第百四號第三條但書ニ明示スル訴ニ限リ例外トシテ其併合ヲ許スモノニシテ遺産相續登記ノ取消並ニ地所賣買登記ノ取消ヲ請求スル訴ノ如キハ前記法條ニ所謂例外ノ訴ニ該當セサルヲ以テ離縁ノ訴ト併合ヲ許ス可キモノニ非ス然レハ右両ケノ登記取消ヲ請求スル訴ハ不適法トシテ却下ス可キ筈ナルニ原判決モ第一審判決モ茲ニ出テス此訴ノ併合ヲ適法ノモノトシ裁判ヲ爲シタルハ法則ヲ不當ニ適用シタル不法ノ裁判タルヲ免カス依テ此點ニ關シ民事訴訟法第四百四十七條第一項ニ從ヒ原判決ヲ破毀シ且第一審判決ヲ廢棄シ同法第四百五十一條第一號ニ從ヒ本院ニ於テ前掲理由ニ依リ遺産相續登記取消及ヒ地所賣買登記取消ヲ請求スル訴ヲ不適法トシテ却下スルヲ相當トス

同第二點ハ本件被上告人請求ノ原因事實ハ上告人吉兵衛ハ明治九年中先代亡喜三右衛門幷被上告人フサヱ夫婦ノ間ニ養子ト爲リ明治十二年中先代喜三右衛門ハ隱居ヲ爲シ上告人ハ同時ニ相續ヲ爲シ以テ今日ニ至リタレトモ右ハ吉兵衛ヲシテ徵兵ヲ忌避セシムルカ爲メ右

ノ手續ヲ爲シタルモノナルカ故ニ此事實ヲ原因トシテ縁組ノ不成立ヲ確定シ上告人ノ廢戸主復籍ヲ求ムト云フニ外ナラス右ノ原因事實ノ如クモハ被上告人ハ則チ明治九年以來上告人ノ養母タリシモノナリ而ルニ原判決說明ノ如ク「又被控訴人ニ於テハ喜兵衛ノ相續ハ徵兵忌避ノ爲メニナシタルモノトセハ是レ一ノ犯罪行爲ニ外ナラサルヲ以テ法律上救正ヲ與フヘキモノニアラスト陳辯スト雖トモ吉兵衛ヲシテ徵兵忌避ノ實ヲ擧ケシメタルハ亡喜三右衛門ノ所爲ニシテ當控訴人ノ知ル所ニアラサルカ故ニ其請求ヲ排斥スルコトヲ得ス」ト判決セラレタレトモ前掲ノ如ク被上告人自身モ亦養母タリシモノナルニ拘ハラス自已ハ之ニ干與セサルモノトセハ其事實ヲ擧證スヘキヲ要スルハ當然ノ筋合ナリト信ス然ルニ原裁判ニ於テハ此點ニ對シ何等ノ理由ヲ判示スルナクシテ只單ニ亡喜三右衛門ノ所爲ニシテ當控訴人ノ與リ知ル所ニアラサルカ故ニト判示シ去リタルハ爭ヒアル事實ヲ不當ニ確定シタル瑕瑾ヲ免カレサルモノナリト云ヒ」同第三點ハ假リニ被上告人カ前項ノ事實ニ干與セサリシトノ事實ハ正當ニ觀察セラレタルモノトスルモ尙原裁判ハ不法ヲ免カレサルモノト信ス蓋シ原裁判ヶ定ノ事實ニ依ルモ被上告人ノ請求ハ被上告人ノ先代喜三右衛門カ吉兵衛ヲシテ徵兵ヲ忌避セシメンカ爲メ入籍手續ヲナシタル事實ヲ原因トシ廢戸主離縁復籍ヲ求ムト云フニ外ナラス何人ト雖トモ自已ノ犯罪事實ヲ原因トシ法律上救正ヲ求ムルヲ得サルト等シク又先代ノ犯罪事實ヲ原因トシ法律上救正ヲ求ムルヲ得サルハ法律上當然ノ筋合ナリトス然ルニ原裁判ニ於テ右被上告人ノ請求ヲ適法トシテ採用セラレタルハ不法ナリト

云フニ在リ按スルニ徴兵ヲ忌避セシメンカ爲メ養子ヲ爲シタル者ヲ罰スル可キ法律ナケレハ其事實ヲ主張シ以テ離縁ノ訴ヲ爲スモ犯罪行爲ヲ原因トシテ法律上ノ救濟ヲ求ムルモノナリト云フヲ得ス從テ本件ニ付キ被上告人カ上告人吉兵衛ハ徴兵ヲ忌避セシメンカ爲メノ養子ニシテ即チ假裝ノ養子ナル旨ヲ主張シ離縁ノ原因ト爲スモ其訴ヲ不適法トシ却下スヘキニ非ス然ルニ原院ニ於テ該所爲ハ犯罪行爲ナルヲ以テ之ヲ原因トスル訴ハ法律ノ保護ヲ與フ可キモノニ得サルカ如ク説明シタルハ其當ヲ得サルモ吉兵衛ヲシテ徴兵忌避ノ實ヲ擧ケシメタルハ被上告人ノ所爲ニアラサルカ故本件請求ヲ排斥スルヲ得ストノ他ノ理由ニ依リ本訴ヲ適法トシ審理判決ヲ爲シタルモノナレハ結局相當ノ裁判ナリトス而シテ前段説示スル如クナル以上ハ上告論旨第二點ニ對シテハ特ニ説明ヲ與ヘサルモ自ラ了解シ得ヘキニ因リ辯明ヲ爲サス

右ノ説明ニ因リ廢戸主戸籍引戻ノ請求ニ關スル上告ハ其理由ナキヲ以テ民事訴訟法第四百五十二條ニ從ヒ棄却ス

大審院第一民事部

裁判長　判事　中村元嘉　判事　井上正一

同　小松弘隆　同　岡村爲藏

同　本多康直　同　西川鐵次郎

同　西村善益

補償金請求事件

明治三十年第三號　明治三十年五月十八日判決

判決要旨

土地收用法に依り收用せられたる地所に付ての補償金額に關する請求權は該法の規定に遵據すへきものにして民法上の理由に基き之を主張するを得す

説明

補償金額に關する請求權は土地收用法に依り附與せられたる權利あり故に其權利の行使を實行せんとするに當りては須らく該法に遵據せさるへからす民法上の理由に基き之を爭ふはんとするは其當を得さるものとす

第一審　新潟地方裁判所　櫻井豊太郎後見人　櫻井伊八郎

上告人　新潟縣知事　勝間田稔

被上告人

第二審　東京控訴院　訴訟代理人　辯護士　高橋捨六

右當事者間ノ補償金請求事件ニ付東京控訴院カ明治二十九年十二月九日言渡シタル判決ニ對シ上告人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シタリ

判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

上告第一點ハ原裁判ノ判決末段ヲ按スルニ「被收用地ノ所有者カ土地收用審査委員會ノ補償金額ニ關スル裁決ニ服セサルトキハ其裁決ニ對シ司法裁判所ノ裁判ヲ求メ得可キ旨ノ規定アリト雖トモ右委員ノ其他ノ裁決ニ付テハ訴ヲ許ス規定ナキカ故ニ土地收用法ニ依レル本件控訴人ノ訴ハ受理スヘキ限ニ非ス依テ主文ノ如ク評決セリ」トアリテ上告人カ提起セル本按ノ訴ヲ目スルニ土地收用法ニヨレル訴ナリト認定セルハ不當ニ事實ヲ認定セル不法アルモノナリ何トナレハ第一審訴狀ニ明記セル請求ノ原因ナル文意ニ徵スルモ本訴ハ土地收用法ニ因リ起訴シタルモノニアラサルコト明白ニシテ上告人ハ土地收用法ノ如何ニ係ハラス相當ナル補償金額ヲ求ムル權利アルヘキ旨ヲ主張シテ起訴シタルモノナレハナリ然リ上告人ニ於テハ第一審裁判說明ノ如キ土地收用審査委員會ノ裁決ヲ經タル上ニアラサレハ上告人ニ訴權ナシトスル反對論ニ對シ百步ヲ讓リテ其說ニ從フヘキモノトスルモ既ニ土地收用審査委員會ノ裁判ヲ經アルモノナレハ此點ヨリ論スルモ訴權アリトノ趣旨ヲ第二段ノ假設論トシテ主張シタルニ過キサルナリ然ルニ前述ノ如ク原裁判ハ本訴ハ單ニ土地收用法ニ因レル起訴トシテ排斥セルハ上告人カ起訴セル請求ノ原因ヲ顧ミスシテ申立サル事物ヲ上告人ニ歸セシメタル不法アルモノナリト云フニ在リ依テ訴狀中請求ノ原因ト題スル所ヲ閱スルニ本訴ヲ以テ土地收用法ニ關係セス單純ナル民法上ノ理由ニ基キ提起シタルモノト認ムヘキ廉ナク又第二審ノ口頭辯論調書ニ由ルモ其趣旨ノ徵スヘキモノナケレハ本論旨ハ其理由ナシ假リニ民法上ノ理由ニ基キ起訴シタルモノトスレハ本訴ハ不適法ノ訴タルヲ免

レス何トナレハ土地收用法ニ由リ收用セラレタル地所ニ付テハ補償金額ニ關スル請求權ハ同法ニ由リ附與セラレタル權利ナレハ苟モ之ヲ主張セントスレハ必ス同法ノ規定ニ遵據セサルヘカラスシテ單ニ民法上ノ理由ニ基キ之ヲ主張スルヲ得サレハナリ故ニ何レノ點ヨリ觀察スルモ上告論旨ハ其理由ナシ

同第二點ハ抑モ本訴ヲ提起シタル理由ハ被上告人ニ於テ本訴ノ土地ヲ收用スルニ當リ法律第五十四號土地收用協議會規則ニ基キ協議會ヲ開キタル節上告人ハ定屋人渡邊要吉ヲ代人トシテ出席セシメ協議上ノ補償金額ニ異議ヲ申立テタルニ係ハラス偶々右要吉ニ於テ代人ノ委任狀ヲ所持セサリシ一事ヲ以テ土地收用審査會ハ上告人カ正當ノ理由ナクシテ欠席若クハ代人ヲ差出サヽルモノト同樣ニ見做シ該法律ナル協議會規則第二條第四項ヲ應用シテ上告人ハ更ニ增額ヲ請求スル權ナシト制定シ從ツテ被上告人ハ其ノ裁決ノ趣旨ヲ以テ增額請求ニ應セサルヲ以テ本訴ヲ起シタルモノナリ果シテ然ラハ事實ノ論爭上上告人ハ正當ノ理由アリテ協議會欠席シタルモノトセハ上告人ニ增額請求ノ權アルモノトナラサルヘカラス然ルニ原裁判ノ說明ノ如クセハ右協議會規則第二條第四項ノ明文ヲ不法ニ適用セラルレハ之レカ救濟ノ道ナキニ至レルナリ而シテ本訴ノ土地收用審査委員會ハ現ニ不當ナル事實ノ認定ヲナシテ上告人ハ正當ノ理由ナクシテ欠席シタルモノト爲シ異議ヲ申立ツルコト能ハサルモノト裁決シタルナリ果シテ然ラハ土地收用法ニ因ルト否トニ拘ハラス上告人ノ訴權ナシト判定セル原裁決ハ協議會規則ノ明ニ與ヘタル救濟ノ權利ヲ奪フモノニシテ不法

ノ裁判タルヲ免レサルナリト云フニ在レトモ司法裁判所ハ土地收用法第十五條ニ明示セル如ク土地收用審査委員會ノ補償金額ニ關スル裁決ニ對スル訴ニアラサレハ之ヲ審理判決スルノ職權ナキモノナレハ假令協議會ニ於ケル協議上ノ手續又ハ補償金額ニ關係アル裁決ニ付不服アリトスルモ管轄外ノ事項ニ屬スルヲ以テ本院ニ於テ其當否ヲ辯明スルノ限ニアラス

同第三點ハ原裁判所ハ甲第三號證ナル土地收用審査委員會裁決書中ニハ上告人モ包含シアルコトヲ認メナカラ其裁決タルヤ審査委員會ノ裁決ヲ受クヘキモノニ非ストノ主趣ナルヲ以テ收用法ノ補償金額ニ關スル裁決ニアラスト認定シ從テ土地收用法第十五條第二項ハ此場合ニ適用スヘカラスト判定スルハ(第一)不當ニ事實ヲ認定シ又(第二)不法ニ法律ヲ適用シタル者ナリ何トナレハ(第一)甲第三號證ナル裁決書中原裁判カ補償金額ニ關スル裁決ニアラスト判定シタル部分ハ上告人等ハ土地收用法議會ニ正當代人ヲ差出サヽリシヲ以テ補償金額ニ異議ナキモノト見做スヲ以テ今更裁決ヲ受ケテ補償金額ノ增額ヲ請求スル權ナシトノ趣旨ニ外ナラサレハナリ果シテ然ラハ原裁判ハ右裁決ヲ以テ收用地ノ補償金額ニ關スル裁決ニアラスト判定セルハ裁決書其物ニ違背シテ不當ニ事實ヲ認定シタルモノナリトス殊ニ(第二)土地收用審査委員會ハ土地收用法第八條ニ規定セル裁決ヨリ他ニ裁決スヘキ權能ナキモノナルハ苟クモ土地收用審査委員會カ下シタル裁決ナリトスル以上其八條中ニ明ラカニスルヘカラス而シテ其裁決ノ趣旨タルヤ更ニ裁決ヲ受ケテ增額ヲ求ムル權ナシ即チ原裁判ノ補償金額ニ甘スヘシトノ趣旨タル以上ハ補償金額ニ關スル裁決タルハ勿論ニシテ土地收用法第十五條第二項ヲ適用セラルヘキハ勿論ナルニ原裁判カ該第十五條第二項ハ此場合ニ適用シ能ハスト判定スルハ法律ヲ不法ニ適用シタルモノナリト云フニ在リ依テ按スルニ第一ハ甲第三號證ナル裁決書ノ解釋ニ付原院ト意見ヲ異ニスルニ過キサレハ其理由ナク第二ハ結局第一ト同樣論旨ニ歸着シ是亦其理由ナシ但シ上告人ニ對スル審査會ノ裁決ハ土地收用法第八條中ノ一ニ歸スヘキモノタルヤ否ヤノ如キハ審査會ノ職權ニ關スル事柄ニシテ司法裁判所ノ管轄以外ノモノナレハ其當否ハ是亦本院ノ判斷スヘキ限ニアラス

右說明ノ如ク本件上告ハ一モ適法ノ理由ナキヲ以テ民事訴訟法第四百三十九條ニ從ヒ主文ノ判決ヲ爲ス

大審院第一民事部

裁判長判事 中村元嘉　判事 井上正一
同 小松弘隆　同 岡村爲藏
同 本多康直　同 西川鐵次郎
同 河村善益

凡例

一 總目次は司法行政判例彙報第八卷第壹號より同第拾號に至る行政判決例の件名判決日付判決結果訴訟關係人及判決要旨を排列掲載せるものにして讀者をして本卷所載の民事判決例を一覽明確ならしむるの便に供す

一 綱目索引は判決要旨を法律の分類に基き配合分置したるものなり例へは郡制に關する判決要旨は悉く郡制なる綱目の下に類集せるものにして讀者をして先つ法律分類を見出たさしめ其分類の下には同種類ある種々の判決要旨を捜覽するの便に供せり

行政判例總目錄

件名	判決日付	判決結果	訴訟關係人	頁
●不當議決取消請求ノ訴	明治三十年四月三十日	請求不立	原告人 林藤三郎 被告人 村上佳平 全參加人 石河年雄	一
○三田養水普通組合會々員にあらされは三田用水を引用するの權利なし				
●縣會議員當選確認等ノ訴	明治三十年四月三十日	請求不立	原告人 中尾虎之助 被告人 大森鍾一	四
○縣會議員の選擧は郡にありては郡會議員及郡參事會員各半數以上の出席會同して執行したるものにあらされは無効とす ○縣參事會か縣知事より送付に係る事件に付き府縣制第十四條に基き裁決を爲し縣知事此を認めたる時は之に對し相當の處分を爲すことを得				
●懲戒處分取消ノ訴	明治三十年五月三日	取消	原告人 阿比野勇 被告人 林正幹	一〇
○村長か村會を開き議決を爲すと能はさる場合に當り郡長に對し其報告をなさゝもし迚て職務の怠慢と云ふへからす				
●水利土功會費議定ニ關スル不當裁決等ノ訴	明治三十年五月四日	却下	原告人 增田小三郎 被告人 近藤準平	一六
○郡參事會町村會に代て議決し其議決に對し不服あれは迚て行政訴訟を起すこと				

を得す
○町村會か自から議決權なしとの議決は性質上其執行を停止すへき事實生せさるを以て町村制第六十八條第二項の一に依り出訴するを得す

●鮪大綱許可取消ノ訴　明治三十年五月十四日　棄却　原告人　阿部庄松外六十一名　被告人　樺山資雄　一九

○明治二十三年法律第百六號の三は他人に營業免許を與へたるか爲め自已の營業に妨害せられたりとする場合に適用すへきものにあらす

●普通水利組合認可取消ノ訴　明治三十年五月十四日　却下　原告人　中西清一外百二十五名　被告人　山縣伊三郎　二一

○法命に於て行政訴訟を許したる規定なきときは裁判所に之を受理せす

●區會議員選擧取消ノ訴　明治三十年五月十七日　請求不立　原告人　西村市五郎　被告人　今野信隆　二二

○區會議員選擧の効力に就ては行政裁判所に出訴するを得す

●官地民有引戻等事件　明治三十年五月二十四日　請求不立　原告人　伊藤定藏　被告人　千家尊福　二四

○正租の高外に屬する雜稅の收納を爲したりとて之を以て民有地たることを證するに足らす

●不當市稅徵收取消ノ訴ニ對スル妨訴ノ訴　明治三十年六月八日　棄却　原告人　小西榮藏外六名　被告人　遠藤庸治　二六

○市制中に規定せる市稅徵收取消に關する出訴期限は行政裁判法第二十二條第二項下段則ち特別の規定なる市制第百十六條第三項の規定に據るへきものとす

●官吏恩給金請求ノ訴　明治三十年六月十日　却下　原告人　白井倫直　被告人　水野寅次郎　二九

○恩給に關し恩給局に具申す可き期限は知事の傳達せる內閣總理大臣の裁決に係る內閣書記官長の書面を基礎とし之を計算せさるへからす
○恩給局の裁決に對し訴訟を提起せんとする時は該局長官を對手とすへきに縣知事を被告とするは對手人を誤れるものとす

●郡會議員選擧取消ノ訴　明治三十年六月十一日　請求不立　原告人　大山忠恕外一名　被告人　小野田元熙　三二

○郡會議員を選擧するに際し同時に二名の議員を選擧するは町村制第四十六條の規定に違背するものとす

●不當命令取消ノ訴　明治三十年六月三十日　請求不立　原告人　山田勢一郎　被告人　勝間田稔　三五

○新堤の築造にして治水上支障ありと認定する時は之を撤却せしむるを得へし

●不當裁決取消要求ノ訴　明治三十年七月一日　取消　原告人　小西行　被告人　古澤滋　四〇

○水利豫防組合人名簿に登錄せられたるものは其議員選擧の有權者にあらさるも選擧を行ふことを得るものとす

●歩一稅賦課取消訴願ノ裁決不服ノ訴　明治三十年六月三十日　請求不立　原告人　小室信夫　被告人　山田信道　四三

○京都府葛野郡朱雀野村に於て實施する歩一稅賦課條例第二條に所謂讓受なる字義中には收用をも包含するものとす
○課稅の標準は補償金額中別に收用に因り生したる損失の補償金を含むへき證據なき限りは登記せし金額を以てせさる可からす
○私設鐵道用地の收用に付ても歩一稅の賦課を免かるゝことを得す

●不當處分取消要求ノ訴　明治三十年六月三十日　請求不立　原告人飛田重太郎　被告人村本倚三　四九

○道路費用は道路の使用に付關係少なき村民と雖も其負擔を免かるゝことを得す

●違約處分認可取消ノ訴　明治三十年六月三十日　請求不立　原告人佐藤長次郎外一名　被告人大隈重信　五六

○米穀取引所は其所屬仲買人の藏所に付き届出の米穀俵數を檢査するの權限を有す

○仲買人か虛僞の藏所届を爲したる時は渡米の差出を怠りたる者と看做し其仲買人を除名するを得

●土地ノ官民有區分ノ査定ニ關スル訴　明治三十年七月二一日　請求不立　原告人戸田勝之助　被告人伊藤重介　六七

○官民有地の境界を決定するに際し往昔の地圖面に基きたる爲め實地の形狀に適せさる點ありとするも地租改正の當時戸長及總代か調製連署したるものなるときは之に依り設立したる標本は眞確なるものとす

●不當裁決取消請求ノ訴　明治三十年七月七日　取消　原告人安孫子石太郎　被告人勝間田稔　七一

○町村制第百十七條に所謂會議の組織とは之に屬すへき議員選擧の方法及其資格任期をも包含すへきものとす

大地主互選郡會議員選擧取消ノ訴　明治三十年七月九日　請求不立　原告人竹山謙三　被告人千家尊福　七五

○大地主に於て選擧を行ふときは選擧人は選擧七日以前に招集狀を受くるの權利ありと云ふを得す

●縣參事會裁決取消ノ訴　明治三十年七月九日　取消　原告人伊藤泰造　被告人樺山資雄　七九

○郡會に於て議員配當法を改正するときは議員全數を改撰すへきものなりと雖其未た改撰若くは補欠撰擧を行はさる以前は舊來の議員は尙其職にあり舊來の郡會は尙未た消滅せさるものとす

●村會議員不當撰擧取消ノ訴　明治三十年七月九日　請求不立　原告人岡部康國　被告人一ノ瀨傳三郎　八三

○村會議員を撰擧するに當り投票を別紙に記載して封筒に入れしめさるも單に此の事實のみを以て違法の撰擧と云ふを得す

●不法工事差止請求ノ訴　明治三十年九月二十二日　却下　原告人石山義行　被告人菊池九郎　八六

○行政裁判所に於て既に却下の裁決を爲したる事件に付ては行政裁判法第十九條の規定に抵觸するを以て受理す可き限りにあらす

●通河錢取立處分取消請求ノ訴　明治三十年九月二十七日　却下　原告人大西駒次郎　被告人地崎淺吉　八七

○通河錢取立特許に對する取消請求は法律敢令に於て行政訴訟の提起を許したるものにあらさるを以て行政訴訟を起すことを得す

●縣會議員補欠選擧取消ノ訴　明治三十年十月六日　却下　原告人大橋賴模　被告人千家尊福　八八

○府縣會議員選擧の効力に付ては府縣參事會の裁決を受け而して不服なる場合にあらされは行政訴訟を起すことを得す

●縣會議員當選裁決不服ノ訴　明治三十年十月六日　却下　原告人大橋賴模　被告人千家尊福　九〇

○被選擧權の有無並に選擧の効力に付き爭ふことなく單に當選人の指定を請求するに止まる事件に付ては行政訴訟を起すことを得す

◉違法處分取消ノ訴　明治三十年十月七日　却下　原告人横山庄五郎　被告人湯本義憲　九一
○諸門に反して境界變更を實行したれはとて行政訴訟を起すことを得す
◉不當處分取消請求ノ訴　明治三十年十月八日　却下　原告人鈴木孫兵衛　被告人中野健明　九三
○拂下地代金の完納に至るまでの間該地の性質官民有區分を明確に指定すへしと
の請求は行政訴訟を起すことを得す
◉郡會議員選擧ノ効力ニ關スル訴　明治三十年十月九日　却下　原告人芝尾幸太　被告人杉本重遠　九四
○郡會議員選擧の効力に關しては郡制第二十二條の規定に從ひ選擧人の外訴願す
ることを得す
◉不當許可取消請求ノ訴　明治三十年十月九日　却下　原告人水野政七外五名　被告人野田耕文　九五
○他人の得たる營業免許の取消請求は明治二十三年法律第百六號のみに規定せる
營業免許の拒否又は取消に關する事件の範圍に入る可きものにあらす
◉村税滯納處分取消ノ訴　明治三十年十月十二日　取消　原告人原子彦太郎　被告人牧扑眞　九七
○國税滯納處分法に據りて財産を差押ゆるものは必す其調書を作製せさる可から
す

判例彙報第八卷

行政判例綱目索引

綱目事項

◉官吏恩給ノ部
官吏恩給金請求ノ訴　明治三十年六月十日判決　二九
○恩給に關し恩給局に具申す可き期限は知事の傳達せる内閣總理大臣の裁決に係
る内閣書記官長の書面を基礎とし之を計算せさるへからす
官吏恩給請求ノ訴　明治三十年六月十日判決　二九
○恩給局の裁決に對し訴訟を提起せんとする時は該局長官を對手とすへきに縣知
事を被告とするは對手人を誤れるものとす
◉諸税ノ部
官地民有引戻等事件　明治三十年五月二十五日判決　二四
○正租の高外に屬する雜税の收納を爲したりとて之を以て民有地たることを證す
るに足らす
歩一税賦課取消訴願の裁決不服ノ訴　明治三十年六月三十日判決　四三
○京都府葛野郡朱雀野村に於て實施する歩一税賦課條例第二條に所謂護受なる字
義中には收用をも包含するものとす

歩一稅賦課取消訴願分裁決不服ノ訴　明治三十年六月三十日判決　四三
○課稅の標準は補償金額中別に收用に因り生したる損失の補償金を含むべき證據なき限りは登記せし金額を以てせざるからす
歩一稅賦課取消訴願ノ裁決不服ノ訴　明治三十年六月三十日判決　四三
○私設鐵道用地の收用に付ても歩一稅の賦課を免かるゝことを得す
村稅滯納處分取消ノ訴　明治三十年十月十二日判決　九七
○國稅滯納處分法に據りて財産を差押するものは必す其調書を作製せさる可らす

◉境界地査定の部

土地ノ官民有區分ノ査定ニ關スルノ訴　明治三十年七月二日判決　六七
○官民有地の境界を決定するに際し往昔の地圖面に基きたる爲め實地の形狀に適せさる點有りとするも地租改正の當時戸長及總代か調製運署したるものなるときは之に依り設立したる標本は眞確なるものとす

◉道路費用ノ部

不當處分取消要求ノ訴　明治三十年六月三十日判決　四九
○道路費用は道路の使用に付關係少きも村民と雖も其負擔を免かることを得す

◉治水部

不當命令取消ノ訴　明治三十年六月三十日判決　三五
○新堤の築造たりて治水上支障ありと認定する時は之を撤却せしむるを得へし

◉水利組合ノ部

不當議決取消請求ノ訴　明治三十年四月三十日判決　一
○三田農水普通組合會々員にあらされは三田用水を引用するの權利なし

不當裁決取消要求ノ訴　明治三十年七月一日判決　四
○水利豫防組合入名簿に登錄せられたるものは其議員選擧の有權者にあらさるも選擧を行ふことを得るものとす

◉府縣制の部

縣會議員當選確認等ノ訴　明治三十年四月三十日判決　四
○縣會議員の選擧は郡にありては郡會議員及郡參事會員各半數以上の出席會同して執行したるものにあらされは無効とす

縣會議員當選確認等事件　明治三十年四月三十日判決　四
○縣參事會か縣知事より送付に係る事件に付き府縣制第十四條に基き裁決を爲し縣知事此を認めたる時は之に對し相當の處分を爲すことを得

縣會議員補欠選擧取消ノ訴　明治三十年十月六日判決　八八
○府縣會議員選擧の効力に付ては府縣參事會の裁決を受け而して不服なる場合にあらされは行政訴訟を起すことを得す

縣會議員當選裁決不服ノ訴　明治三十年十月六日判決　九〇
○被選擧權の有無並に選擧の効力に付き爭ふことなく單に當選人の指定を請求するに止まる事件に付ては行政訴訟を起すことを得す

◉郡制ノ部

水利土功會費議定ニ關スル不當裁決等ノ訴　明治三十年五月四日判決　一六
○郡參事會町村會に代て議決し其議決に對し不服なれは迚て行政訴訟を起すことを得す
大地主互選郡會議員選擧取消ノ訴　明治三十年七月九日判決　七五
○大地主に於て選擧を行ふときは選擧人は選擧七日以前に招集狀を受くるの權利ありと云ふを得す
縣參事會裁決取消ノ訴　明治三十年七月九日判決　七九
○郡會に於て議員配當法を改正するときは議員全數を改撰すへきものなりと雖其未た改撰若くは補欠撰擧を行はさる以前は舊來の議員は尙其職にあり舊來の郡會は尙未た消滅せさるものとす
郡會議員選擧ノ効力ニ關スルノ訴　明治三十年十月九日判決　九四
○郡會議員選擧の効力に關しては郡制第二十二條の規定に從ひ選擧人の外訴願するを得す

◉町村制ノ部

懲戒處分取消ノ訴　明治三十年五月三日判決　一〇
○村長か村會を時き議決を爲すと能はさる場合に當り郡長に對し其報告をなさゝもし迚て職務の怠慢と云ふへからす
水利土功會費議定ニ關スル不服裁決等ノ訴　明治年五月四日判決　一六
○町村會か自から議決權なしとの議決は性質上其執行を停止すへき事實生せさるを以て町村制第六十八條第二項の一に依り出訴するを得す
郡會議員選擧取消ノ訴　明治三十年六月十一日判決　三二
○郡會議員を選擧するに際し同時に二名の議員を選擧するは町村制第四十六條の規定に違背するものとす
不當裁決取消請求ノ訴　明治三十年七月七日判決　七一
○町村制第百十七條に所謂會議の組織とは之に屬すへき議員選擧の方法及其資格任期をも包含すへきものとす
村會議員不當選擧取消ノ訴　明治三十年七月九日判決　八三
○村會議員を選擧するに當り投票を別紙に記載して封筒に入れしめさるも單に此の事實のみを以て違法の選擧と云ふを得す

◉區町村會法の部

區會議員選擧取消ノ訴　明治三十年五月十七日判決　二二
○區會議員選擧の効力に就ては行政裁判所に出訴するを得す

◉違法處分ニ關スル行政裁判ノ部

鮪大網許可取消ノ訴　明治三十年五月十四日判決　一九
○明治二十三年法律第百六號の三は他人に營業免許を與へたるか爲め自己の營業に妨害せられたりとする場合に適用すへきものにあらす
不當許可取消請求ノ訴　明治三十年十月九日判決　九五

○他人の得たる營業免許の取消請求は明治二十三年法律第百六號のみに規定せる營業免許の拒否又は取消に關する事件の範圍に入る可きものにあらす

◉行政裁判法ノ部

普通水利組合認可取消ノ訴　明治三十年五月十四日判決　二
○法命に於て行政訴訟を許したる規定なきときは裁判所は之を受理せす
不當市稅徵收取消ノ訴ニ對スル妨訴ノ訴　明治三十年六月八日判決　二六
○市制中に規定せる市稅徵收取消に關する出訴期限は行政裁判法第二十二條第二項下段則ち特別の規定なる市制第百十六條第三項の規定に據るへきものとす
不法工事差止請求ノ訴　明治三十年九月二十二日判決　八六
○行政裁判所に於て既に却下の裁決を爲したる事件に付ては行政裁判法第十九條の規定に抵觸するを以て受理す可き限りにあらす
通河錢取立處分取消請求ノ訴　明治三十年九月二十七日判決　八七
○通河錢取立特許に對する取消請求は法律敕令に於て行政訴訟の提起を許したるものにあらさるを以て行政訴訟を起すことを得す
違法處分取消ノ訴　明治三十年十月七日判決　九一
○諸間に反して境界變更を實行したれはとて行政訴訟を起すことを得す
不當處分取消請求ノ訴　明治三十年十月八日判決　九三
○拂下地代金の完納に至るまでの間該地の性質官民有區分を明確に指定すへしとの請求は行政訴訟を起すことを得ず

◉雜則の部

違約處分認可取消ノ訴　明治三十年六月三十日判決　五六
○米穀取引所は其所屬仲買人の藏所に付き屆出の米穀俵數を檢査するの權限を有す
○仲買人か虛僞の藏所屆を爲したる時は渡米の差出を怠りたる者と看做し其仲買人を除名するを得

判例彙報第八巻

行政判例

不法議決取消請求ノ訴（明治二十九年第二十七號 明治三十年四月三十日判決）

判決要旨

三田用水普通組合會々員にあらざれは三田用水を引用するの權利なし

說明

用水水利組合會なるものを創立し一定の土地にのみ用水使用を限定する場合にありては其區域外の土地は設會其結果として廢棄せさるを得さるに至るも其用水を引用することを得さるものとす

原告人　林　謙三　訴訟代理人　辯護士　森　肇　廣岡宇一郎

被告人　村上桂景（東京府荏原郡々書記）　訴訟代理人　平林吉太郎（同村助役）

同郡瀧合村々長　訴訟代理人　本間貴孝

同參加人　河　年義

右原告林謙三ヨリ被告荏原郡長村上桂景ニ對スル不法議決取消請求ノ訴原被告及參加人ノ

不法議決取消請求ノ訴

辯論ヲ聽キ證據ヲ調シ審理ヲ遂クル處

原告訴求ノ要旨ハ原告カ所有ニ係ル東京府豐多摩郡澁谷村千二百八十番地ノ水田ハ明治十七年中願濟ノ上開墾シテ水田ト爲シ爾來三田用水ニ係ル費用ヲ負擔シテ引用シ來リタルモノナリ而ルニ明治二十六年度ニ至リ當時三田用水内堀普通水利組合管理者タル澁谷村長ハ明治二十五年四月六日同組合ニ於テ畑田ニ除水ナキ時ハ新田ヘ自儘ニ引用セシメサルトノ決議ヲ爲シタルモノニシテ其決議ノ悲木タル明治二十五年三月二十二日臨時會ノ決議ハ原告ノ用水權ヲ剝奪シタルモノナリ原告カ開墾ノ當時村長裏書ヲ爲シ府知事ノ認可ヲ得テ水田ト爲シタルモノナルハ水ナキニ奥書ヲ爲シ認可ヲ與フヘキ筈ナカルヘシ殊ニ帳簿ニモ水田トシテ課稅シアリ而シテ水利組合會ナルモノハ明治二十三年ニ設立シタルモノニシテ本件水田ハ組合會設立以前ニ成立シタルモノナリ若シ被告カ云フ如ク組合區域外ナリトセハ用水權ヲ奪ハルヽノミナラス收益ヲモ奪ヒ取ラルヽモノナルニ依リ被告組合會ノ決議ノ取消ヲ求ムト云フニアリ

被告ノ答辯ノ要旨ハ本件ノ水田ハ原告申立ノ如ク明治十七年中原告ノ先代カ開墾シテ田地トナシタルコトハ相違ナシト雖トモ三田用水組合ナルモノハ享保年間ヨリ繼續シ來リ明治二十三年法律第四十六號ノ發布ニ依リ同二十四年從前ノ區域即澁澤田反別ヲ其儘組合區域ト爲シ三田用水普通水利組合ヲ組織シ府知事ノ認可ヲ得タルモノナリ其當時澁谷村ニ係ル組合區域別ハ畑八町壱反九畝貳十一歩ナリ之ヲ從來三田用水組合ノ内澁谷村ニ係ル總反別

ナリトス而シテ本件原告ノ所有地千二百八十番ハ此拾六丁七反九畝二十一歩ノ内ニ加ハリタルヲ以テ全ク其區域ノ外ニアルモノナリ又原告ハ水利組合ノ稅ヲ負擔シ來リタリト云フモ被告ニ於テ本地ニ對シ曾テ其費用ヲ賦課シタルコトナシ故ニ組合會ノ決議ハ毫モ原告ノ權利ヲ剝奪シタルモノニアラスト云フニ在リ

參加人陳述ノ要旨ハ澁谷村ノ内田拾六町七反九畝貳拾壱歩ハ從前ノ三田用水組合ニシテ明治十九年地押調査ノ際改正ノトキモ同樣ナリトス同年十二月中林銀次ノ開墾地ヘ對シ誤認訂正願ヲ差出シタルトキハ雑生地タリシヲ田地ト爲シタルモノニシテ其田地トナスニ付テハ俗ニ(ドンドン)ト云フ場所ヲ村方ハ協議ノ上埋立テ村内ノ田地ニ灌漑スル廢シ水ヲ以テ其田地ニ灌漑スルコトヽ爲リタルモノナリ而ルニ其后原告ニ於テ廢シ水ヲ引用セスシテ村方ノ引用スル場所ヨリ引キタルニ依テ爭論ヲ生スルニ至レリ又澁谷村ハ明治二十五年ニ至ル迄田拾六町七反九畝二十一歩ニ對スル水稅ハ賦課セラレタルモ其後ハ一人別ノ所有地ニ對シテ賦課セラルヽコトヽナレリ而シテ被告ハ村方ニ於テ使用スル除水ヲ引用シ居ルカ爲メ村方ヨリ原告ニ對シ其費用ヲ差出サシメタルモ紛議ヲ生シタル以後ハ之ヲ見合セ居レリ故ニ原告ノ其費用ヲ負擔シ居ルヤ否ハ茲原郡役所ニ於テハ毫モ關知スル所ニアラスト云フニ在リ

依テ理由ヲ記明スルコト左ノ如シ

原告ハ本訴澁谷村千二百八十番地ノ水田ハ三田用水普通水利組合會ノ區域内ニアルモノナ

[illegible]

縣會議員及郡參事會員の撰擧は郡にありては郡會議員及郡參事會員各半數以上の出席會同して執行したるものにあらざれは無効とす

縣參事會か縣知事より送付に係る事件に付き府縣制第十四條に基き裁決を爲すべし縣知事此を認めたる時は之に對し相當の處分を爲すことを得

[illegible]

縣會議員當撰確認并に違法處分取消ノ訴 明治二十九年第一一五號 明治三十年四月三十日判決

判決要旨

縣會議員の撰擧は郡にありては郡會議員及郡參事會員各半數以上の出席會同して執行したるものにあらざれは無効とす

縣參事會か縣知事より送付に係る事件に付き府縣制第十四條に基き裁決を爲すべし縣知事此を認めたる時は之に對し相當の處分を爲すことを得

[illegible]

郡會議員及び郡參事會會同し之を執行したるものにあらざれは縣會議員の撰擧は違法の處分にあらず府縣制第三條及第五十三條に據り會議を開き議決を爲すを得さるを以て制法の所謂會同にあらざるあり故を以て既に爲したる出席者の選擧は爲めに無効たらざるを得ざるなり(參照府縣制第三條府縣會議員の選擧は市に在ては市會及市參事會會同し云々郡に在りては郡會及郡參事會會同し云々郡制第三十三條郡會は議員半數以上出席するにあらざれは會議を開き議決を爲すこと能はず云々同制第五十三條郡參事會は議長又は其代理者及會員半數以上出席するに非ざれは會議を開き議決を爲すことを得ず云々)

縣知事は縣參事會に於て府縣制第十四條に基き爲したる裁決に對し此を認むる以上は其裁決に因り相當の處分を行ふべきは固より其監督上の權能たり故に其裁決に缺くる處あり以上は從ふて縣知事の處分に違法ありと云ふを得ず(參照府縣制第十四條府縣議員被選權の有無及選擧の効力は府縣參事會之を裁決す)

[illegible] 原告人 中尾虎之助 訴訟代理人 辯護士 松本織五郎 長崎縣 [illegible] 訴訟代理人 新井智三郎

縣會議員當選確認並に違法處分取消ノ訴

右原告中尾虎之助ヲ被告縣知事大森鍾一ニ對スル縣會議員當選確認並違法所分取消ノ訴

双方ノ辯論ヲ聽キ證據ヲ問シ審理ヲ遂クル處

原告ノ請求ノ要旨ハ明治二十九年十月一日被告ノ發シタル兵庫縣告示第二百九十七條ニ基キ淡路郡長宍戸秀幾ハ同月十五日全郡參事會郡會ニ同兵庫縣々會議員選擧會ヲ開キタリ其選擧ノ結果トシテ西村淳藏當選シタルニ付郡長ハ其旨ヲ通知シ西村淳藏ハ承諾ノ旨ヲ屆出テ郡長之ヲ被告ニ報告シタリ然ルニ被告ハ同月二十日突然郡參事會ノ出席員定數ヲ缺キ成立セサルト云フヲ以テ該選擧會ハ違法ナリト裁判シ且告示第二百九十七號ニ依リ行フタル選擧ハ違法ナルニ付之ヲ取消ス旨ヲ告示セリ抑モ府縣會議員選擧ハ郡參事會郡會々同シテ之ヲ行フヘシトノコトハ府縣制ノ命スル所本件選擧ニ於テ郡參事會郡會々同シテ之ヲ行フタルコトハ甲第一號議事錄ニ依リ明カナリ只茲ニ論究ヲ要スヘキハ郡參事會郡會々同云々トアルヲ以テ各會前ニ各過半數ノ出席員ヲ要スルヤ或ハ出席シタルモノヽ極數ニ於テ過半數ヲ要スルヤノ点ニアリトス若シ後者ニ據ルヘキモノナリトセン歟既ニ過半數ノ出席員ヲ得タリ故ニ無効ノ選擧ト謂フヲ得ス又原告ニ就キ研究セシニ郡參事會郡會各過半數ノ出席員ヲ要スヘキモノニ非ス各會共ニ只一名ノ出席者アルノミニテモ可ナリ要ハ只總數ニ於テ過半數ヲ要スル而已何ソナレハ會ナル法人ノ會同スルニハ毫モ差支ナケレハナリ且郡會ノ議擧ハ過半數ノ出席員アルヲ原則トシ若シ數回ノ招集ヲ爲スモ尚過半數ニ至ラサルトキハ例外トシテ開會スルヲ得トノコトヲ郡制第二十三條ニ規定スル所ナリ故ニ本件選擧ニ於テ

再三招集狀ヲ發シタル所以ハ明白ナレハ其選擧ハ有効ナリト信ス今一歩ヲ讓リ以上ノ論點ヲ誤レリトシ假定スルモ本件ノ選擧ハ猶有効ナリ何者當時郡派ノ執權者タル之三回ノ多キ招集狀ヲ發セシモ出席員定員數ニ滿タサルニ依リ已ムヲ得ス郡長ハ郡制第五十七條ノ規定ニ依リ出席セサルモノハ選擧權ヲ拋棄シタルモノト看做シ出席者ノミニ投票セシメ以テ郡參事會ノ權限ニ屬スル事件即本件選擧ヲ專決處分シタルモノナレハ違法ニ非サル而已ナラス之ニ關シテ何人モ異議ヲ唱フルモノナカリシナリ而ルニ縣參事會ハ訴願者又ハ異議者ナキニモ拘ハラス突然本件選擧ハ違法ナリト裁決シタリ凡裁決ナルモノハ訴願者又ハ異議者ナクシテ之ヲ爲スヘキモノニアラサルニ縣參事會カ其之ナキニ裁決シタルハ不法ナリ又郡制第五十七條ハ郡長カ專決處分シ得ヘキ事件ニ制限ナキヲ以テ一切ノ事件ヲ包含スルモノト謂フヘシ而シテ郡參事會ハ縣會議員ヲ選擧スルノ權能アリ故ニ郡長ハ之ヲ專決處分スルヲ得ヘシ是ニ因テ西村淳藏ノ當選ヲ確認シ且第三百二十七號ノ告示ハ取消サレンコトヲ求ムト云フニアリ

被告答辯ノ要旨ハ明治二十九年十月十五日淡路郡ニ於テ行フタル縣會議員ノ選擧ハ同郡會議員定員十八名名譽職參事會員定員四名ナルニ郡會議員ニシテ名譽職參事會員ヲ兼タル者一名單ニ郡會議員タル者九名合同シテ執行シタルモノナルニ依リ明治二十三年法律第八十五號第七條ニ基キ當時縣參事會ノ職務ヲ行フ被告ハ原告中立ノ通リ之ヲ違法ナリトシテ取消スヘキモノナリトシテ裁決シ且三百二十七號ノ告示ハ本件選擧ハ

縣會議員當選確認並ニ違法處分取消ノ訴

適法ナリト主張スルモ選擧長ハ郡參事會員ハ一名ノ外出席セサリシナリ府縣制第三條ハ郡參事會郡會ナル二ツノ機關カ合同スル旨ヲ規定シタルモノナルヲ以テ出席員都過半數ニ滿タサルトキハ適法ニ成立シタルモノニアラス又原告ハ郡長ニ於テ郡制第五十七條ニ依リ專決處分ヲ爲シタルモノナリト謂フモ郡長ハ本議選擧ハ誤レリト自白スルノミナラス既ニ郡參事會員ヲシテ投票セシメ之ヲ有効ト決定シ居ル以上ハ郡長ニ於テ專決處分シタリト謂フヲ得ス其郡長ハ選擧會長ノ資格ヲ以テ出席シタルモノナハ假令專決處分ヲ爲シタリトスルト郡長ノ資格ヲ以テナシタルモノト認ムル能ハス又原告ハ被告ノ裁決ハ違法ナリト云フモ縣知事ハ郡長ノ報告ニ依リ其違法ナルヲ認メ縣參事會ニ付シタルモノニシテ此時ハ府縣利害施後日尚淺キヲ以テ明治二十三年法律第八十五號第七條ニ依リ被告知事縣參事會ニ依リ裁決シタルモノナリ又原告ハ裁決ハ訴願ナカルヘカラスト云モ府縣制中ニハ訴願ノ形式ヲ以テ提起セサルモノモ府縣參事會之ヲ裁決スル場合アリ又町村制第五條第百二十八條第百二十九條ノ如キ訴願者ナキニ拘ラス郡參事會之ヲ裁判スル旨ノ規定アルヲ看テハ明ラカ訴願者アケレハ裁判スルヲ得スト云フヲ得ス而シテ本件選擧ニ就キ縣參事會カ裁決シタルハ知事ヨリ縣參事會ノ裁決ニ付シタルニ付キ縣參事會ハ府縣制第十四條ニ依リ裁決ヲ下シタルモノナレハ違法ニアラス既ニ裁決ニ於テ不法ノ點ナク且其裁決ヲ以テ取消シタル目的物即選擧カ違法ナリトモ被告ノ計畫ハ敢テ不當ニアラスト信ス是縣會議員選擧告示ニ付テハ行政訴訟ヲ將テシタル明文ナキヲ以テ原告ニ出訴スルヲ得ス若シ假リニ本訴ヲ得ルトスルモ

此告示ニ違法ノ裁決ニ依テ生シタル結果ナレハ適法ヲ告示アラサルアリ因テ原告ノ請求ハ排斥セラレン度シト云フニ在リ

依テ理由ヲ說明スルニ左ノ如シ

縣會議員ノ選擧ハ郡會及郡參事會各過半數ノ出席者アレハ其選擧ハ有効ナリト謂フト雖トモ府縣制第三條ニヨレハ縣會議員ノ選擧ハ郡ニ在リテハ郡會郡參事會合同シテ執行スヘキモノナレハ郡制第三十三條及第五十三條ニ據リ其出席者兩會員會議ヲ開キ議決ヲ爲シ得ヘキ定數即半數以上ニ達スルニアラサレハ兩會會同シタルモノト謂フヲ得ス而ルニ本件ノ選擧タル郡參事會員ノ定數數名ノ內一名ノ出席者アルノミニシテ選擧ヲ執行シタルモノナレハ適法ノ選擧ト云フヲ得ス又原告ハ凡テ裁決ナルモノハ訴願者又ハ異議者ナカル可ラス然ルニ縣參事會カ訴願ニ依テ裁決ヲ與ヘタルハ不法ナリト云フモ縣參事會ニ於テハ縣知事ヨリノ事件送付ニヨリ府縣制第十四條ノ規定ニ基キ裁決ヲ與ヘタルモノニシテ而シテ縣知事ハ其選擧ニシテ苟モ違法タルヲ認知スルニ於テハ之ニ對スル相當ノ處分ヲ爲スヘキハ固ヨリ其監督上ニ屬スル權能ニシテ必スシモ訴願其他ハ違法ナリト云フヲ得ス其他陳辯スル所アルモ本訴裁判上必要ナキヲ以テ說明ヲ與ハス

右ノ理由ニヨリ判決スルヨト左ノ如シ

原告ノ請求棄立ダス

訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

縣會議員當選確認并違法處分取消ノ訴　懲戒處分取消ノ訴

懲戒處分取消ノ訴（明治二十九年第一一七號 明治三十年五月三日判決）

判決要旨

村長ガ村會ヲ開キ議決ヲ爲スコト能ハサル場合ニ當リ郡長ニ對シ其報告ヲナサヽリシ迚テ職務ノ怠慢ト云フヘカラス

說明

村長ニ於テ村會議員招集ノ手續ヲ爲スモ村會議員ノ出席者少數又ハ出席者ナクシテ村會ヲ開クコト能ハサル場合ニ於テ直チニ郡長ニ對シ其報告ヲ爲サヽリシトテ未タ以テ職務上ノ怠慢ト云フヘカラス郡長ニ於テ報告スヘシトノ命令訓示アルモ之ヲ爲サヽルトキ始メテ職務懈怠ノ責アルモノトス

原告人　阿比野勇

被告人　林正幹

右原告阿比野勇ヨリ被告阿比野鵜足郡長林正幹ニ對スル懲戒處分取消ノ訴審理ヲ遂クル處原告陳述ノ要旨ハ明治五十八年香川縣訓令第四十八號ニ依リ原告村ニ避病院設置ノ儀被告ノ諭示アリタルニ付テハ八年據ヤ原告村ニ於テハ經常費及學校建築又ハ土木費等金五千有余圓ノ支出ヲナヽリ此上避病院建築費用ヲ加擔セハ迚モ民力ノ堪フル所ニアラサルヲ以テ村會

ニ於テ地方稅ニテ費用ノ三分ノ一ヲ補助スヘキ旨ヲ諭シタルトヽロ縣知事ハ三分ノ二ヲ補助ヲ許可セラルヽヲ以テ其旨村會ニ付シタルニ村會ハ二分ノ一ノ補助ヲ受ケ事業ヲ中止シ病院建築ヲ能ハサル旨ヲ以テ前議決維持スルニ付強事ニ再願スルモ聞届ケラレス是ニ於テ明治二十九年三月三日及同月二十七日ノ兩回村會ヲ開キ避病院建設ノ件ヲ議セシメタルニ兩會共可否議決ニ至ラスシテ村會ハ建築延期ノ傾向アリキ依テ原告ハ其旨被告ヘ具申シタル處建設猶豫及二分一ノ補助相成ラス町村制第六十八條ニ依リ更ニ再議ニ付シ建設スヘシト達セラレタルヲ以テ原告ハ村會ヲ開設セント三月二十七日議員ノ招集狀ヲ發シ且親シク議員ニ會場ヘ出頭スヘキ旨ヲ催促シ同時ニ郡書記三末繁太郎ナル者モ出張ノ上議員ノ戶毎ニ就キ種々說諭シ出頭方盡力シタルモ議員少數ニシテ開會ニ至ラス其后同月三十日又候前郡書記及同見權八ノ兩名出張シ議員ニ出頭ヲ促スモ各正當ノ事故ヲ申立出頭セス翌三十一日モ亦同樣議員ニ出頭嚴促スルモ罪レ亦正當事故ヲ申立一人モ出頭セス止ムナク流會ト相成リタリ右ノ如ク原告ノミナラス郡書記出張嚴促スルモ招集ニ應セサルニ付何トカ村會開設ノ工夫致スヘクト原告モ苦慮シ郡書記モ亦以上ノ始末ハ逐一親睹シ自識シ居ルヲ以テ必スヤ其事ハ被告ニ復命モ致シアルヘク且原告ハ四月四日及四月九日第二號參號證ノ如ク被告ヘ具申シタル處被告第八五號證ヲ以テ町村制第六十八條ニ依リ岡田村避病院設置ノ儀ニ付テハ屢々訓示ノ末再議ニ付モ又メタルモ村會議員出頭セサルトテ之ニ對スル相當ノ手盡ヲモ盡サスシテ命設置ノ遲ヒニ至ラシメタルモ職務ヲ怠リタルモノトシテ原告ニ過怠金六圓ヲ科ストノ懲

被處分ヲ爲シタリ依テ縣知事ニ訴願シタルモ知事亦之レヲ是認シタルハ頗ル不法ナリト思料ス其理由ハ事實ニ於テ述ヘタル如ク避病院設置ニ付テハ原告ハ職務權限ノ有ラン限リヲ盡シ如何ニモシテ招集會議セシメント勉メタルハ二再ノミナラス加之郡書記親シク出張ノ上議員巨細ニ就キ出頭方ヲ促スノ事故ヲ申立應セサルコトハ原告ノ具申ヲ待タス當時並シ郡書記ノ復命ニ依リ被告カ其始末ヲ明カニセシナルヘシ況ンヤ右始末ハ原告ニ於テ四月四日四月九日ノ両度具申シアルニ於テオヤ抑町村制第六十八條ノ法文ヲ案スルニ已ニ町村會ノ議決アリテ其議決ニシテ權限ヲ越ヘ法律命令ニ背キ又ハ公衆ノ利益ヲ害スヘシト認メタル場合ニ於テ再議セシムルモ更メサル場合ニ村長ハ郡參事會ノ裁決ヲ請フヘキ旨ヲ定メタルモノニシテ初メヨリ議員招集ニ應セス起會ノ開設タモ爲シ得ヘカラサル絶對不能ノ場合ニ適用スヘキモノニアラス即チ郡參事會ノ裁決ヲ請フヘキ場合ニアラサルコト法文ノ解釋上明白ナリトス此場合ニ於テ强テ村長ヲシテ開會セシメントセハ公力ヲ用ヒ引致シテ以テ議會ノ成立ヲ爲サシムル可カラサル不法ニ出テサレハ到底法律規則ノ文法ノ運用ヲ以テ村會開設ノ希望ヲ遂ケ得ヘカラサルナリ然レトモ如此ハ法律命令ノ命スル所ニアラサレハ議員出頭セサルニ於テハ村長ハ之レヲ如何トモスル能ハス始末具申シテ以テ監督官廳ノ處置ヲ待ツノ外ナシ於是乎町村制二百二十三條同第百三十三條ノ在ルアリテ以テ郡長ノ命令且郡參事會ニ代決セシムル場合者ヲ以テ生スルナリ本件ニ村ハ既ニ被告ハ郡書記ノ復命及原告ノ具申ニ依リテ事件始末ハ十分ニ知悉シ居ルヘキヲ以テ宣シク制第百三十三條ニ依リ郡

參事會ハ代決スヘキ筈ナルニ其效ニ出テサルハ其意ヲ責ト云ハ反ツテ被告ニ之レヲ然ルニ責ヲ職務權限決ヲ原告ニ歸シ相當ノ手續ヲ盡サスト云フト雖トモ原告ハ權能ノアルニ限リ盡シタレ共最早盡スヘキノ手續ナシ毫モ職務ニ於テ失墜ナキナリ依テ被告カ原告ニ職務ヲ怠リタリトシテ與ヘタル懲戒處分ヲ取消スヘシトノ裁決ヲ請フト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ明治三十八年五月香川縣訓令第四十八號ヲ以テ各市町村ニ避病院設置ノ件訓令ニ依リ直チニ各町村長ヲ召集シ避病院設置ノ必要ナル旨ヲ懇諭シ尚訓令ノ期日迫ラス設備スヘキ旨第一號證ノ如ク訓示シタリ然ルニ原告ハ其指定ノ期日ヲ過クルモ全ク等閑ニ附シ更ニ何等ノ手續ヲモ爲サヽルニ依リ書面又ハ郡書記ヲ派遣シ數回督促ノ末漸ク六月廿七日ニ至リ村會ノ決議ヲ以テ建築費及構造方法ノ申報并ニ建築費補助ノ申請書ヲ差出シタリ其後香川縣訓令第六十五號ヲ以テ概要ノ土地ニ設置スル市町村避病院ニ限リ其工費ノ補助ヲ爲スヘキ旨ノ第二號證訓令及香川縣警部長ヨリ原告村ハ概要ノ土地ト決定ノ旨第三號證ノ如ク通牒アリタルニ依リ原告村ハ避病院建設指定地ナルヲ以テ建築落成ノ上其工事費精算高三分一地方稅ヨリ補助セラルヘキ筈ナルニ付速カニ着手スヘキ旨第四號證ノ如ク訓示シタリ然ルニ尚其處置甚タ因循ナルヲ以テ屢次面諭督促シタルモ言ヲ左右ニ托シ更ニ着手セサルニ依リ其不都合ヲ責メ第五號證ノ如ク速カニ起工セサルニ付數回督促ノ末又々第六號證ノ如ク二月二十七日迄ニ村會ヲ開設シ速カニ建築スヘキ旨ヲ會シタルハ漸ク三月十一日ニ至リ第七號證ノ如ク工事二分一ノ補助ヲ受ク

ルコトヲ得貴建築ノ場所確定スル迄猶豫相成度旨申出セリト雖該村會ノ決議ハ公益ヲ害スルモノト認ムルヲ以テ町村制第六十八條ニ依リ第八號證ノ如ク再議ニ附スルコトヲ命シタルモ其後何等ノ申出モ為サス終ニ年度内建築ノ着手ニ至ラスシテ為ニ工費ノ補助ヲ受クルヲ得サルニ至リタルヲ以テ原告ハ其職務ヲ怠リタルモノトシ第九號證ノ如ク懲戒處分ヲ行フタルモノナリ然ルニ原告ハ避病院設置ニ付テハ權能ノ有ラン限ヲ盡シタリト云フト雖原告ハ元來避病院不必要ノ意見ヲ懷ケル者ニシテ其行為タル單ニ表面儀式的ニシテ誠實熱心ナラサリシコトハ被告ノ論示并ニ監督ノ為メ派遣シタル郡書記ニ對シ常ニ明言セル所ナリ元來町村長ハ其町村ノ福祉ヲ增進シ安寧ヲ保持スルノ職責アル者ニシテ原告村ニ於ケル避病院設置ノ如キハ公衆衛生上最モ緊要ニシテ欲クヘカラサル旨屢次訓示シ且特ニ諭示シタルニ再ニ止マラサルニモ拘ハラス村會議員ノ出頭サルヲ口實トシテ冷然緩慢ニ附シ去リタリ柳原告村ハ戶數八百二十餘地價二十五万八千九百餘圓ヲ有スル郡内屈指ノ有力村ナルニ避病院建築費補助金三分一ホノ僅カニ五十一圓ノ金額ノ為メ慢然民力ノ負擔ニ堪ヘスト決議ヲ為シ又原告村ハ區域廣濶ニシテ避病院建設ニ適當ナル地點ニ乏シカラサルニ其場所ナシト言ヘルカ如キ慢然ナル決議ヲ為スノ村會ニ對シ熱心以テ其利害ヲ說キ誠意以テ其得失ヲ諭サハ如何ソ斯ル議決ヲ為スニ至ラン然ルニ原告ハ會ヲ措置ノ途ニ出テサルノミナラス其說明暗示原按通否決議ノ如キハ辯明ヲ與ヘタルハ之ヲ當時ノ議事錄及原告カ事案ノ言効ヒ徵シテ歷々掩フヘカラサル者アルヲ如何セン又被告ハ原告村會ノ避病院建築

延期ヲ決議シタル公益ヲ害スル者ノト認メ再議ニ附スルコトヲ命シタルモノナレハ其開會ニ當リ議員ヲ招集スルモ出席者ナク開議ニ至ラサル場合ハ直チニ其顚末ヲ具申スヘキ筈ナルニ其手續ヲ怠リ為ニ建築工費ノ補助ヲ受クルノ期ヲ失シ彌本村ヲシテ建築ノ困難ナルニ至ラシタルモノナレハ被告ノ為シタル懲戒處分ハ毫モ失當ニアラス又原告ハ本件ニ付テハ被告カ第二百二十三條ニ依リ代決セサルハ其意ト其責トハ反テ郡長ニ之レアルヘシト云フト雖同條ハ町村會ニ於テ議決スヘキ事件ヲ議決セサルトキハ郡參事會代テ其事件ヲ議決スヘキコトヲ命シタルモノニシテ本件ノ如キ被告カ三月二十四日再議ニ附スルコトヲ命シタル以來議員出席セス村會ヲ開クニ至ラサリシモノニ適用スヘキ法條ニアラサルナリ然トモ假リニ原告所論ノ如シトセハ原告ハ被告カ代決ノ必要アルヲ知ルモノナルニ前項述フルカ如ク再議ニ附スルコトヲ命シ其開會ニ方リ議員出席セス為ニ開議ニ至ラサリシ場合何ヲ以テ直チニ其始末ヲ具申シ被告カ處分上ノ材案ニ供セサリシ是レ原告カ故意ニ職責ヲ盡サハリシヲ證スルニ足ル依テ被告ノ處分ハ正當ナルヲ以テ原告ノ請求ヲ排斥セラレタシト云フニ在リ

依テ證據ヲ閲シ理由ヲ說明スル左ノ如シ

被告ハ本件避病院設置ノ件ニ付テハ屢々訓示ヲ為シタルニモ拘ラス原告ハ之ヲ緩慢ニ付シ且岡田村村會カ避病院建築延期ヲ決議シタルハ公益ヲ害スルモノト認メ町村制第六十八條ニ依リ再議ニ附スルコトヲ命シタルモノナレハ其開會ニ方リ議員ヲ招集スルヲ出席者ナク

開議ニ至ラサル場合ハ直チニ其顚末ヲ具申スヘキ筈ナルニ其手續ヲ怠リ終ニ年度内建築ノ着手ニ至ラスシテ爲ニ工費ノ補助ヲ受クルヲ得サラシメタルハ則チ原告カ其職務ヲ怠リタルモノニシテ第九號證ノ如ク懲戒處分ヲ行ヒタルハ不當ニアラスト雖被告ノ命令ニ依リ村長ニ於テ村會議員ヲ招集スルモ議員少數若クハ出席議員ナク爲ニ議事ヲ開キ其議決ヲ爲ス能ハサル場合ニ於テハ當被告ヨリ原告ニ對シテ其報告ヲ爲スヘシトノ何等ノ命令訓示等ヲ爲サヽル以上ハ原告ニ於テ直チニ其報告ヲ爲サヽリシ事實アルモ之レヲ以テ村長タル原告ノ職務ヲ盡サヽルモノト云フヘカラス又年度内建築着手ニ至ラスシテ爲メニ地方費ノ補助ヲ受クルヲ得サルニ至リタルハ原告カ招集ノ手續ヲ爲シタルニモ拘ラス村會議員ノ出席者少數又ハ出席者ナキニ原因スルモノニシテ之レヲ以テ原告職務上ノ緩慢ニ出ツルモノト爲スヲ得ス其他原被告ニ於テ陳辯スルトコロアルモ本訴判決上必要ナキモノト認ムルヲ以テ之カ説明ヲ與ヘス

右ノ理由ニ依リ判決スル左ノ如シ

被告ハ明治二十九年四月十一日ヲ以テ原告ニ與ヘタル懲戒處分ヲ取消スヘシ

訴訟費用ハ被告ノ負擔トス

水利土功會費議定ニ關スル不當裁決及代決取消ノ訴（明治三十年第三〇號 明治三十年五月四日判決）

判決要旨

郡參事會カ町村會ニ代テ議決シ其議決ニ對シ不服ナレハ迚テ行政訴訟

を起すことを得ず

町村會カ自カラ議決權ナシトノ議決ハ性質上其執行ヲ停止スヘキ事實生セさるを以テ町村制第六十八條第二項の一に依り出訴するを得ず

説明

町村制第百二十三條に依り郡參事會か代て議決したる場合に於て之に對し訴を許したる法令なし故に行政裁判法第二十七條に基き行政訴訟を起すことを得さるものとす（參照）町村制第百二十三條凡町村會に於て議決す可き事件を議決せさるときは郡參事會代て之を議決す可し行政裁判法第二十七條行政裁判所は原告の訴狀に就て審査し若し法律勅令に依り行政訴訟を提起すへからさるものなるか又は適法の手續に違背するものなるときは其理由を付したる裁決書を以て之を却下すへし（下略）

町村制第六十八條第二項の一は（前略）議決の執行を停止したる場合に於て府縣參事會の裁決に不服ある者は行政裁判所に出訴するを得と規定せり）去れは其議決執行停止の事實生せさるものたる以上は縱令參事會の裁決に不服あるにもせよ行政訴訟を提起することを得さるや瞭明とす

原告人　埼田小三郎

水利土功會費議定ニ關スル不當裁決及代決取消ノ訴

被告人　近藤準平

右原告村會議長增田小三郎ヨリ被告靜岡縣周智郡長近藤準平ニ對スル不當裁決及代決取消ノ件訴狀ニ就キ審査スルニ

原告訴求ノ要旨ハ靜岡縣豐田山名周智城東四郎內拾七ケ町村聯合組合社山疏水々利土功會ハ明治十七年第十四號布告區町村會法ニ依リ組織セラレ町村制實施后ハ明治二十二年法律第十一號ニ依リ存續スルモノナリ而シテ該水利土功會ハ其費用ノ賦課法ハ各町村會又ハ區會ニ於テ評決スルモノトス議決ヲ爲シタルニ付村長ハ其賦課議按ヲ町村會ニ提出セリ然ルニ村會ハ水利土功會創設以來未タ曾テ其事務ノ委任ヲ受ケテ之ヲ評決シタル事實アラサレハ町村制實施ノ今日其効ナキモノト認メ之ヲ議決スヘキモノニ非ラスト議決シ該議按ヲ返戻セリ茲ニ於テ町村長ハ村制第六十八條ニ依リ郡參事會ノ職務ヲ行フ郡長ノ處分及裁決ヲ請求シ郡長ハ該費用ハ本村會ニ於テ當然議決スヘキモノトノ裁決ヲ爲シ且同制第百廿三條ニ依リ之ヲ代決シタルモ原告ハ之ニ服從スル能ハサルヲ以テ出訴シタリト云フニ在レ𪜈町村制第百二十三條ニ依リ郡參事會カ町村會ニ代テ議決シタル場合ニ於テ之ニ對シ行政訴訟ヲ提起スルヲ得サルハ勿論同制第六十八條ニ依ルモ本件ノ如ク町村會カ自ラ議決權ヲ有セスト議決シタル場合ニ於テハ其議決ハ性質ニ於テ執行スルコトヲ得ス隨テ其執行ヲ停止スヘキ事實生セサルヲ以テ該條第二項ノ一ニ依リ出訴スルコトヲ得サルモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ行政裁判法第二十七條ニ依リ本訴ヲ却下ス

鮪大網許可取消ノ訴

明治三十年第三號
明治三十年五月十四日判決

判決要旨

明治二十三年法律第百六號の三は他人に營業免許を與へたるか爲め自己の營業に妨害せられたりとする場合に適用すへきものにあらす

說明

明治二十三年法律第百六號(行政廳の違法處分に關する行政裁判)の三は自ら營業免許拒否の處分又は免許取消の處分を受けたるものに行政訴訟を起すことを許したるものにして他人に營業免許を與へたるか爲め自己の權利を毀損するとの理由を以て該規定に據り出訴せんとするは其當を得さるものとす(參照明治二十三年法律第百六號法律敢合に別段の規程あるものを除く外左に掲くる事件に付行政廳の違法處分に由り權利を毀損せられたりとする者は行政裁判所に出訴することを得三營業免許の拒否又は取消に關する事件)

原告人　阿部庄松外六十一名　訴御代理人　辯護士　鳩山和夫　沼田宇源太　浅尾哲次

被告人　樺山資雄　訴訟代理人宮城縣屬　藤田秀睦

右原告阿部庄松外六十一名ヨリ被告宮城縣知事樺山資雄ニ對スル鮪大網許可取消ノ訴ニ付

被告ハ妨訴抗辯ヲ爲セリ依テ審理ヲ遂クル處

被告抗辯ノ要旨ハ原告ノ訴旨ハ被告カ牡鹿郡荻濱村大字田代濱總代平塚久七外六名ニ對シ田代濱字仁田濱大根崎ヨリ午ノ方位五百間ノ所ニ鮪大網ノ新設ヲ許可シタルハ原告ノ曩ニ許可ヲ得タル漁業ヲ妨害シ即チ漁業區域ヲ減縮シタルモノナルニ付該許可ノ取消ヲ請求スルニ在レトモ是他人ノ得タル營業免許ノ取消ヲ請求スルモノニシテ明治二十三年法律第百六號ノ三ニ該當シ營業免許ノ拒否若クハ取消ニ關スル事件ノ範圍内ニ入ルヘキモノニアラス何トナレハ原告ハ營業免許ノ拒否又ハ取消等何等ノ行政處分ヲ受ケタルモノニアラサレハナリ其他法律敕令中ニ於テ本訴ノ如キ事件ヲ行政裁判所ニ提出スルヲ許シタル規定アラサレハ本訴ハ速ニ棄却セラレタシト云フニ在リ

原告辯駁ノ要旨ハ平塚久外六名ニ對シ鮪大網ノ新設ヲ許可シタルモノニシテ原告ニ對シ直接ノ處分ヲ爲シテ曩ニ得タル漁業免許ヲ取消シタルモノニアラサルモ該網新設許可ハ原告カ既ニ有スル所ノ漁業權ヲ妨害スルヿ明瞭ナレハ漁業ノ一部ヲ取消シタルモノト認メサルヘカラス原告カ嘗來許可ヲ得テ營ミ來ル鮪大網ハ甲第四號證ノ如ク午ノ方ヨリ寅ノ方ニ至ル方向ヨリ群集セル魚ヲ捕フル目的ニシテ即田代嶋大黒崎大根崎並ニ之ニ連續セル小嶋ヲ連テ南方回遊セル鮪魚ヲ捕獲スルヲ目的トセルモノナリ然ルニ被告カ新ニ許可セシ場所ハ該田代島大根崎ニシテ原告漁業場ニ進ミ來ル魚族ノ進路ヲ遮リ原告ノ漁業ヲ妨害スルハ爭フヘカラサル事實ナリ故ニ被告ノ所爲ハ漁業免許ノ一部ヲ取消シタルモノニシテ法律第百

六號ニ依リ出訴シ得ラルヽモノト信ス又被告ハ自ラ處分ヲ受クルニアラサレハ出訴ノ權ナキカ如ク論スレトモ假令所分ハ他人ニ對シタルモノトスルトモ其處分ニ依リ自己ノ權利ヲ毀損セラレタリトスルトキハ當然行政訴訟ヲ提起シ得タルモノナレハ被告ノ訴訟抗辯ハ理由ナキモノト信ズ云フニ在リ依テ理由ヲ說明左ノ如シ

原告ハ本件ハ明治二十三年法律第百六號ノ三ニ依リ行政訴訟ヲ提起シ得ルコトヲ主張スルモ第百六號ノ三ハ自ラ營業免許拒否ノ處分又ハ免許取消ノ處分ヲ受ケタル者ニ出訴ヲ許シタルモノニシテ本件ノ如キ被告カ他人ニ營業免許ノ與ヘタルガ爲メ自己ノ營業ヲ妨害セラレタリトスル場合ニ適用スヘキモノニアラス然ルニ原告ハ被告カ他人ニ新設ヲ許可シタル漁場ニ進ミ來ル漁類ノ進路ヲ遮リ漁業ヲ妨害スルヲ以テ間接ニ漁業免許ノ一部ヲ取消サレタルモノナリト云フト雖両者ノ漁業場ハ充分ノ間隔アリテ其區畫明瞭ナレハ單ニ魚類進行ノ方向相似タリトノ故ヲ以テ原告カ曩ニ得タル免許ノ一部ヲ取消シタルモノト主張スルハ其理由ナキモノトス

右之理由ニ依リ判決スルコト左ノ如シ

本訴ヲ棄却ス訴訟費用ハ原告ノ負担トス

普通水利組合認可取消ノ訴

明治三十年第三二號
明治三十年五月十四日判決

判決要旨

法令に於て行政訴訟を許したる規定なきときは行政裁判所は之受理セ

す

説明

行政裁判所の權限は法令に規定する場合の外一般に之れを有せす法律勅令に於て行政訴訟を許したる規定あきものは行政裁判所之を受理すへからす

原告人　中西清一外百二十五名　訴訟代理人　辯護士　沼田宇源太　島村次男

被告人　山縣伊三郎

右原告中西清一外百二十五名ヨリ被告德島縣知事山縣伊三郎ニ對スル普通水利組合認可取消ノ訴書面ニ付審査ヲ遂クル處

原告等陳述ノ要旨ハ麻植郡普通水利組合ハ全ク無益ノモノナルノミナラス創立委員ニ於テ組合區域内地主ノ意見ヲ問ハスシテ規約ヲ制シ認可ヲ受ケタルモノニシテ水利組合條例ノ精神ニ悖戻スルモノナレハ被告ニ於テ該令ノ認可ヲ取消ヘキ樣裁判ヲ請求スト云フニアレトモ本件ノ如キハ法律勅令ニ於テ行政訴訟ヲ提起スルヲ許シタルモノニアラサレハ受理スヘキ限リニアラス

右之理由ナルヲ以テ行政裁判法第二十七條ニ依リ本訴ヲ却下ス

區會議員選擧取消ノ訴

明治三十年第三三號
明治三十年五月十七日判決

判決要旨

區會議員撰擧の効力に就ては行政裁判所に出訴するを得す

説明

行政裁判所の權限は法令に定まる場合の外一般に之を有せす故に本件の如く市制其他法律勅令中行政訴訟を許したる規定なきときは出訴するを得さるものとす

原告人　西村市五郎　今野信隆　訴訟代理人　辯護士　三浦大五郎　松本美乃

右原告西村市五郎外一名ヨリ被告東京府知事侯爵久我通久ニ對スル區會議員選擧取消ノ訴訴狀ニ就キ審査スルニ

原告請求ノ要旨ハ明治三十年四月十二日東京府參事會カ爲シタル裁決ヲ廢棄シ明治二十九年十一月二十五日淺草區役所ニ於テ執行シタル第三級區會議員ノ選擧全年全月二十六日淺草區役所ニ於テ執行シタル第二級區會議員ノ選擧及全年全月二十七日淺草區役所ニ於テ執行シタル第一級區會議員ノ選擧ハ無効ナルヲ以テ之ヲ取消スヘシトノ判決ヲ請フト云フニ在レトモ區會議員選擧ハ効力ニ就テハ市制其他法律勅令中行政訴訟ヲ許シタル規定ナキニ依リ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得サルモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ行政裁判法第二十七條ニ依リ本訴狀ヲ却下ス

官地民有ニ引戻不當處分取消請求ノ訴

明治二十九年第七九號
明治三十年五月二十四日判決

判決要旨

正租の高外に屬する雜稅の收納を爲したりとて之を以て民有地たることを證するに足らず

說明

正租たる地租の收納は以て民有土地たることを證するに足ると雖山年貢又ハ山稅なるものは正稅の高外に屬する雜稅にして此等の課稅を收納したりとて民有土地なりと認定すへからす

原告人　伊藤定藏外七十六名　訴訟代理人　辯護士　井上剛一

被告人　千家尊福　訴訟代理人靜岡縣屬　境野尙義

官地民有ニ引戻不當處分取消請求ノ訴訟審理ヲ遂クル所

原告訴訟代理人陳述ノ要旨ハ本訴遠江國引佐郡東濱名村佐久米字後山千二百十番料林秣山反別百貳町九反貳畝貳拾貳歩ハ古來佐久米區人民共有ノ山林ナリ明治八年地租改正ノ際民有ノ證據發見セサル爲メ官有地第三種ニ編入尋テ御料林ニ轉換セラレ爾來農作肥料ニ欠乏ヲ告ケ年々歲々困苦セルヲ以テ曩ニ發見ノ證據書類ヲ添ヘ靜岡縣知事ニ下戻ヲ請ヒタルニ明治二十九年六月一日聞屆難シト指令ヲ爲シタルハ不當ノ處分ナリ抑本件山林ニ對シテハ

明治三年以來甲第一號證及甲第二號證ノ通リ山年貢ヲ納メ來タルハ被告モ既ニ認ムル所ニシテ明治九年地租改正事務局別報第十一號並ニ明治二十年行政訴訟第六十五號ノ判決例ニ由ルモ民有地ニ引戻スヘキハ當然ナリ而テ甲第三號證ハ寛政九年ノ田畑高帳ニシテ其中ニ右ハ後山御年貢米割高庵分村分高ハ此ノヨリ除クトアリ是レ即チ後山ノ年貢ハ高外ニ屬スル雜稅ニアラスシテ田畑ノ年貢外ニ獨立シテ山年貢ヲ課セラレタルヲ證スヘシ甲第四號證ハ米八俵右ハ後山云々トアリテ甲第壹貳號證ヲ補充シ甲第五號證ハ明治七年ノ皆濟帳ニシテ其中ニ米貳石八斗山稅トアリ又此山稅外ニ金壹圓七拾五錢壹厘同斷トアルハ係爭地外ノ山稅ナリ甲第六號證ハ本訴後山ニ關係ナキ山稅ヲ課出シタルヲ證ス甲第七號證ハ佐久米區ノ繪圖甲第八號證ハ田園地價取調書ニシテ其中ニ山反別百貳拾町歩村持此年貢米貳石八斗トアルハ後山ノコトヲ云フナリ右ノ如キ事實理由共ニ明白ナルヲ以テ被告カ處分ヲ取消シ本件ハ民有地ニ引戻スヘキ旨判決ヲ請フト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ本訴ノ土地ハ明治六年第百十四號布告ニ依リ公有地ニ編入シ全六年地券ヲ授與シ明治五年租稅料日報第二十三號號達ニ原キ受書ヲ徵シ全九年地租改正ノ際明治七年太政官第百四十三號達ニ因リ官民有ノ區別ヲ調査セシニ民有タルヘキ証據ナキヲ以テ官有地第三種トシ後チ御料地ニ編入セリ原告ハ甲第一二號証等ニ記載シタル米貳石八斗ハ本訴論地ニ對スル年貢米ナリト云フモ各証據ニ在ル山年貢又ハ山稅ナルモノハ高外ニ屬スル雜稅ニシテ地租ヲ納メタルモノニアラス又明治八年地租改正事務局達十一號全達乙第三號

明治九年全局報第十一號ニ依ルモ下草等ヲ採リタル爲メニ納稅シタリトテ民有ト爲スヘキモノニアラス故ニ原告ノ願ニ對シ聞屆ケ難シト指令シタルハ不當ノ處分ニアラスト云フニ在リ

右双方ノ陳述ヲ聽キ証據ヲ閲シ理由ヲ說明スル左ノ如シ

原告ハ本訴秣山反別百貳町九反貳畝廿二歩ハ古來左久米區人民共有シ明治三年以來納稅ノ義務ヲ負担シタル事實ハ甲第一號證乃至甲八號證ニ於テ明白ナリト云フニ在レトモ原告カ納稅シタリト云ヘル甲第一二號證ニ在ルハ米貳石八斗ノ山年貢ハ正稅ノ高外ニ屬シ一種ノ雜稅ニ過キス甲第五號證ハ單ニ租稅ノ皆濟ヲ證スルニ止マリ係爭地ヲ民有ト認メテ課稅シタルモノナルカ否ヤヲ知ルニ由ナシ甲第三四六七八號證ハ共ニ甲第一二五號證ニ附從スヘキモノニ外ナラス要スルニ本件ハ原告ノ所有地ナリト認ムヘキ證左ナキヲ以テ原告ニ對シ明治廿九年六月一日願ノ趣聞屆ケ難シト指令シタル處分ハ不當ナリト云フヲ得ス

右之理由ニ依リ判決スルヿ左ノ如シ

原告ノ請求相立タス

訴訟費用ハ原告ノ負担トス

不當市稅徵收取消ノ訴ニ對スル妨訴事件

明治三十年第一九號
明治三十年六月八日

判決要旨

市制中に規定せる市稅徵收取消に關する出訴期限は行政裁判法第二十二條第二項下段則ち特別の規定なる市制第百十六條第三項の規定に據る一きものとす

說明

行政訴訟に關する出訴期限は行政裁判法第二十二條第一項上段の規定を以て普通なりとす而して市制第百十六條第三項は行政訴訟の特別出訴期限を定めたる者に係る故を以て該條に包含する市稅徵收取消に關する出訴期限の如きは普通出訴期限の適用を受くへき限りにあらさるものとす（參照、行政裁判法第二十二條行政訴訟は行政廳に於て處分書若くは裁決書を交付し又は告知したる日より六十日以内に提起すへし六十日を經過したるときは行政訴訟を爲すことを得す但法律敕令に特別の規程あるものは此限りにあらす（次項略す）市制第百十六條第三項此法律中に指定する場合に於て府縣知事若くは府縣參事會の判決に不服ありて行政裁判所に出訴せんとする者は判決書を交付し又は之を告知したる日より二十一日以内に出訴す可し

不當市稅徵收取消ノ訴訟ニ付被告ヲ妨訴ノ抗辯ヲ爲セリ依テ之ヲ審査スルニ

被告抗辯ノ要方ハ原告等ハ明治三十年三月十六日ヲ以テ本訴ヲ提起シタレトモ縣參事會カ本件所願ノ裁決ヲ爲シタルハ明治三十年一月二十五日ニシテ市役所カ之ヲ原告人小西榮藏

ニ送達シ其領收證ヲ得タルハ同月二十七日ナリ即チ裁決書交付ノ日ヨリ訴訟提起ノ同年三月十六日ニシテハ日數四十九日ナルヲ以テ市制第十六條第三項ノ二十一日以內トアル期限ヲ經過シ已ニ出訴スヘキ權利ヲ失却セシモノナル故ニ不適法ノ出訴トシテ本訴棄却アランコトヲ請フ但原告人等カ提出セル證據中市役所ノ送達書日附明治三十年一月二十七日トアル一月ヲ二月ト記載セルハ全ク原書ニ違フモノナリト云フニ在リ原告復答ノ要旨ハ出訴期限ハ行政裁判法ニ因リ六十日間ト心得居レリ又縣參事會ノ裁決書ヲ受領シタルハ一月二十七日ニシテ若シ訴狀ニ二月トアレハ書誤ナリ要スルニ期間ハ適當ノ出訴ナリト思考スト云フニ在リ

右證據ヲ究シ理由ヲ說明スルコト左ノ如シ

原告ハ縣參事會ノ裁決書ヲ受領シタルハ一月二十七日ニシテ二月トアルハ誤ナリ然レトモ出訴期限ハ行政裁判法ニ依リ六十日間ト心得居ル旨主張スト雖トモ同法第二十二條第一項上段ハ普通ノ出訴期限ヲ規定シタルモノナリ而シテ本件原告ノ請求ハ仙臺市會カ明治二十八年度ノ定額豫算中ニ議定シ置カサリシ金三千六百五十七圓九十一錢二厘ヲ被告ニ於テ市稅戶數割中ニ加ヘ賦課徵收シタルハ違法ナリト云フニ外ナラサルモノナレハ市制ニ規定セル市稅徵取取消ニ關スルヲ以テ該項ノ末段即チ特別ノ規定ナル市制第百十六條第三項ニ依據スヘキモノトス故ニ明治三十年一月廿七日縣參事會ノ裁決書交付ヲ受ケ同年三月十六日ニ至リ本訴ヲ提起シタルハ市制第百十六條第三項ノ出訴期限ヲ經過シ其權利ヲ失シタルモ

ノナリ[illegible]

前項ノ理由ナルヲ以テ裁決スルロ[illegible]左ノ如シ

本訴ハ之ヲ棄却ス[illegible]

但訴訟費用ハ原告ノ負擔トス[illegible]

官吏恩給金請求ノ訴 明治三十年第三八號 明治三十年六月十日判決

判決要旨

恩給に關し恩給局に具申す可き期限は知事の傳達せる內閣總理大臣の裁決に係る內閣書記官長の書面を基礎とし之を計算せさるへからす

恩給局の裁決に對し訴訟を提起せんとする時は該局長官を對手とすへきに縣知事を被告とするは對手人を誤れるものとす

說明

官吏恩給請求願書に對し內閣總理大臣に於て恩給を受く可き資格なしと裁決し縣知事に傳達せしめたる內閣書記官長の書面か行政上相當の手續に出てたるものなる以上は縱令再ひ願書を呈出し內閣總理大臣に於て再議に附すへき理由あしとして之を棄却するも恩給法第十七條の所謂恩給局に具申すへき期限は其棄却の日付と以て計算するを得すして內閣書記官長の書面の日付を以て之を計算せさるへからさるものとす(參照、官吏恩給金請求ノ訴

給法第十六條恩給の支給は本屬長官の證明に依り恩給局の審査を經て內閣總理大臣之を裁定す行政上の處分に依り恩給に關する權利の障害せられたりとする者は六ヶ月以內に恩給局に具申して裁決を請ふことを得其裁決に服せざる者は一ヶ年以內行政裁判所に出訴するを得云々)

恩給の支給は縣知事の證明を要す可しと雖も恩給局の裁決に關しては縣知事は毫も與り知るものにあらす故に其の裁決に不服なれは迚て縣知事を訴訟對手と爲すことを得す必ずや其局長官を被告人たらしめざるへからさるなり

原告人　白井倫直

右原告白井倫直より被告奈良縣知事水野寅次郎に對スル官吏恩給金請求ノ訴訟狀ニ就キ審査スルニ

原告ハ明治七年八月愛知縣十五等出仕拜命同九年三月中官廳事務ノ紳縮ニヨリ諭旨退官トナリ同十年六月再ヒ京都府十等屬トナリ尋テ富山縣奈良縣等ヘ轉任シ二十一年九月非職トナリ同二十四年九月ニ至リ非職滿期トナリタルヲ以テ官吏恩給法第二條ニ依リ在官年數ノ前後ヲ通算シ滿十六等トナルヲ以テ明治二十七年八月十六日附ヲ以テ退官當時ノ本屬長官奈良縣知事ニ對シ第一號證ノ如ク恩給請求書ヲ差出シタル處第二三號證ノ如ク恩給ヲ受クヘキ資格ナキ者ノ如ク通知アリシモ全ク實際ノ事實ニ背馳シタルモノニシテ其實原告ハ第

四第五第九第十號證ノ如ク全ク官廳ノ事務紳縮ニ依リ諭示免官トナリタルハ明確ナル事實ナリ故ニ證據書類ヲ具シ二十七年十二月二十四日附ヲ以テ更ニ第十一號證ノ如ク請求願書ヲ呈出セシニ第十二號第十三號證ノ如ク遞セラレ再議ニ議スヘキ限ニアラストノ理由ヲ以テ願書ヲ棄却セラレタリ此ニ至リ原告ノ權利ハ障碍ヲ受ケタルヲ以テ二十八年十二月十八日附ヲ以テ第十四號證ノ如ク內閣恩給局ヘ具申書ヲ呈シタルニ第十五號證ノ如ク裁決セラレ原告ノ具申ハ法定ノ期限ヲ經過シタリトシテ棄却セラレタリ是レ原告ノ不服ナル所ニシテ行政訴訟ヲ提起セシ次第ナリ第三號證ハ內閣書記官長ヨリ奈良縣知事ニ宛テタル一片ノ通知書ニ過キスシテ原告ノ權利ハ第十三號證內閣總理大臣ヨリ原告ヘ再議ニ附スヘキ限ニアラスト遞セラレタル處分ニヨリテ始メテ障害ヲ受ケタルナリ果テ然レハ二十八年十二月十八日附ヲ以テ第十四號證ノ如ク具申書ヲ提出シタレハ法定期限ヲ經過セシモノニ非スト云フニ在レトモ第三號證明治二十七年十二月十一日附內閣書記官長ノ書面ハ行政上相當ノ手續ニヨリ內閣總理大臣ノ裁定ヲ奈良縣知事ニ通知セシモノニシテ知事ハ之ヲ原告ニ傳達セシモノナレハ恩給法第十七條ノ具申期限ハ第三號證ヲ基礎トシテ之ヲ計算セサルヘカラス故ニ原告カ二十八年十二月十八日附ヲ以テ具申書ヲ提出シタルハ法律上ノ期限ヲ經過セシモノニシテ其効力ナク從テ行政訴訟提起ノ權利ヲ失ヘリト謂ハサルヘカラス且恩給局ノ裁決ニ不服ニシテ訴訟ヲ提起セントスルトキハ該局長官ヲ對手人トスヘキニ原告カ裁決ノ傳達者ニ過キサル奈良縣知事ヲ被告トセシハ對手人ヲ誤レルモノトス

官吏恩給金請求ノ訴

右ノ理由ナルヲ以テ本訴ハ行政裁判法第二十七條ニ據リ之ヲ却下ス

郡會議員選擧取消ノ訴

明治三十年第一八號
明治三十年六月十一日判決

判決要旨

郡會議員を選擧するに際し同時に二名の議員を選擧するは町村制第四十六條の規定に違背するものとす

說明

町村制第四十六條に(町村會に於て町村吏員の選擧を行ふときは其一名毎に匿名投票を以て之を爲し云々)とありされは二名を各別の投票函に因り選擧するも苟も同時選擧たる以上は一名毎にとの法意に違背するものたること敢て疑なしとす

原告人　村會議員　大山忠恕　訴訟代理人　辯護士　關信之助　米田實
直井碩治郎

被告人　茨城縣知事　小野田元熙　訴訟代理人　茨城縣參事官　濱田恒之助

右原告大山忠恕外一名ヨリ被告茨城縣參事會茨城縣知事小野田元熙ニ對スル郡會議員選擧取消ノ訴願ニ對スル茨城縣參事會裁判取消ノ訴原被双方ノ辯論ヲ聽キ審理ヲ遂クル處原告請求ノ要旨ハ明治二十九年七月二十五日茨城縣筑波郡小張村板橋村豊村村會會同シテ

郡會議員ノ選擧ヲ施行スルニ際シ三十番議員ニ於テ此選擧ハ甲乙二函ヲ備ヘ先キニ甲函ノ投入ヲ爲シ之ニ封緘ヲ施シ而シテ乙函ノ投入ヲ爲シ甲乙両函ノ投入終ルヲ俟テ順次ニ開クコトニ爲スヘシトノ建議ヲ爲シ滿場之ヲ賛成シ其議決ニ依リ選擧ヲ行ヒタリ之ニ不服ナル吉葉理喜造黒澤藤造等ハ筑波郡參事會ニ訴願セシカ郡參事會ハ其訴願ヲ排拆セシニ拘ハラス被告ハ之ヲ容レテ郡參事會ノ裁決ヲ取消シタリ其理由トスル所ハ町村制第四十六條ニ所謂選擧ヲ行フトキハ其一名毎ニ云々トアレハ一名毎ニ投票ヲ爲シ其當選ノ査定ヲ了シ更ニ又一名ニ付投票ヲ爲スノ謂ヒニシテ本件事實ノ如ク二個ノ投票函ニ投入セシメ順次開票スルカ如キハ規定ニ背キタルモノナリト云フニ在レトモ是レ其當ヲ失ヘル裁決ナリ町村制第四十六條ニハ一名毎ニ投票ヲ爲スコト投票ハ匿名ニ爲スコト過半數ヲ要スルコト已上三點ノ外甲乙二函ヲ備ヘ順次投票ヲ爲ストキハ之ヲ爲効トナスト云フ如キ規定ノ存セサルコト明カナリ果テ然ラハ本案ノ如キ建議ヲ爲シ選擧會ノ協賛ヲ經テ之ヲ施行スルハ違法ト云フヘカラス又選擧ノ結果ニ異動ヲ生スルノ虞ナシトセハ狹義ノ解釋ヲ下シテ以テ徒ニ選擧ヲ取消スノ理由ナキモ亦言ヲ俟タサルヘシ是以テ被告ノ裁決ハ取消サレンコトヲ求ムト云フニアリ

被告答辯ノ要旨ハ上告ハ本件選擧ニ際シ二個ノ投票函ヲ備ヘ同時ニ二名ノ議員ヲ選擧セシハ違法ニ非スト主張スルハ法文ノ要點ヲ誤解シタルモノナリ町村制第四十六條ニハ「選擧ヲ行フトキハ其一名毎ニ匿名投票ヲ以テ之ヲ爲シ」トアリ其「之ヲ爲シ」ノ四字ハ「選擧ヲ

爲シ」トノ謂ヒナルコトハ明瞭ナルヲ原告ハ單ニ之ヲ其手續ニ屬スル投票ノ制限トノミ誤解シタルモノナレハナリ而シテ選擧ヲ爲スニハ素ヨリ一人宛ナラサルヘカラサルヲ以テ一人ノ結果未定ナルニ引續テ他ヲ投票セシムルハ違法ナルコト勿論ナリ又原告ハ選擧ノ結果ニ異動ヲ生スル虞ナシト云フト雖トモ例ヘハ本件ノ場合ニ於テ選擧人ニシテ甲乙丙丁ノ四人中二名ヲ選擧セントスルニ當リ甲ニシテ先ツ當選セハ更ニ乙ヲ擧クヘク若又乙ノ方當選セハ寧ロ丁ヲ選ハントスル者アランニ之ヲ原告ノ行ヒシ如ク同時ニ選擧セシムルトキハ選擧人ノ意思外ニ乙若クハ丁ヲ投票セシ悔ヲ生スルニ至ルヘク其選擧ヲ同時ニ爲スト各別ニ爲ストハ結果ヲ異ニスルコト明白ナリ故ニ被告ノ裁決ハ適法ニシテ原告ノ請求ハ排拆セラレタシト云フニ在リ

依テ理由ヲ說明スルコト左ノ如シ

原告ハ本訴事實ノ如ク二個ノ投票兩ヲ備ヘ同時ニ二名ノ議員ヲ選擧スルハ法律ノ禁スル所ニ非スト云フト雖トモ町村制第四十六條ニ選擧ヲ行フトキハ其一名毎ニ匿名投票ヲ以テ之ヲ爲シトアルハ一名毎ニ選擧ヲ行フヘキコトヲ命シタルモノニシテ同時ニ二名ヲ選擧スルカ如キハ同條ノ規定ニ背クモノト云ハサルヘカラス從テ被告カ本件選擧ヲ違法ナリトシテ之ヲ取消スヘキノ裁決ヲ爲シタルハ其當ヲ失ヘルモノニ非ス

右ノ理由ニ據リ判決スルコト左ノ如シ

原告ノ請求相立タス

訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

不當命令取消ノ訴

明治二十八年第九五號
明治三十年六月三十日判決

判決要旨

新堤の築造にして治水上支障ありと認定する時は之を撤却せしむるを得可し

說明

浸水防禦の必要上自己の共有に係る土地に新堤を築造するも此か爲め其對岸に缺壞を生するか如き治水上に支障ある場合に於ては其築造を撤却せしむ可きは當然の處置なりと云ふ可し

原告人　山田勢一郎外卅一名　訴訟代理人辯護士　富塚玖馬

被告人　勝間田稔　訴訟代理人新潟縣技師　黑田豊太郎

右原告山田勢一郎外三十一名ヨリ被告新潟縣知事勝間田稔ニ對スル不當命令取消ノ訴審理ヲ遂クル處

原告陳述ノ要旨ハ原告等共有ニ係ル中浦原郡川内村大字内字上川原第八百四十七番ノ地所ハ其地質頗ル沃良ナルモ用水ノ便ナキタメ從來畑及原野ニナシ置キタル處偶々大字水戸野ヨリ用水ヲ得ルニ至ルヲ以テ之ヲ水田ニ開墾セリ隨テ浸水防禦ノ必要上共有地ノ一偶ニ置ク土ヲ爲シタル所被告縣知事ハ突然治水上支障アリトノ故ヲ以テ該置土撤却ノ命令ヲ發セリ

原告等ハ治水上支障ナキハ勿論却テ水利上有益ナルモノト確信セルヲ以テ該命令ノ取消ヲ請求シ併セテ再出願セルニ詮議ニ及ヒ難シトテ却下セラレタル以テ止ヲ得ス本訴ヲ提起スルニ至レリ元來其有地ノ地先ナル早出川ノ沿岸ハ堤防ノ設ケ完全ナラサルカ故ニ一朝出水スルヤ良田數十町ハ忽チ水ノ浸害ヲ被リ其害實ニ量ルヘカラサルモノアリ原告等ハ此危害ヲ豫防シ且所有田地ヲ保護スルカ爲ニ置土ヲ爲シタルモノニシテ實ニ所有權保護上必要缺ク〻カラサルモノト云ハサルヘカラス而シテ此事業果シテ被告ノ認ムル如ク水利上支障アリヤ否ト云フニ置土ノ場所ハ早出川ノ水流ヲ距ル十間乃至數十間ノ所ニ在リ其間ニハ石原アリ浮洲アルヲ以テ對岸ハ勿論下流ニモ何等ノ障害アルヘカラサルナリ然ルニ被告ハ本件ノ築堤ハ洪水ノ場合ニ於テ水位ニ變動ヲ生スルモノトシ尋常洪水ニ於テ築堤前ノ速力ハ七尺四寸一分築堤後新堤下部ノ速力八十尺二寸三分ニシテ即チ築堤前ニ比シ二尺八寸二分ヲ增加ス云々ト主張スレトモ被告ヨリ提出ノ圖面ニ依ルモ本件ノ置土ト其對岸ノ距離ヲ以テ其上流ニアル堤防間ノ距離ニ比較スレハ川巾ノ決シテ狹隘ナラサルハ一目明瞭ナリ果シテ然ラハ川巾ノ廣狹ヨリ見テ本件ノ置土ハ水流ニ天變動ナキモノト云ハサルヘカラス殊ニ原告等ノ測定スル所ニ由レハ尋常洪水ニ於テ築堤前ノ速力ハ十二尺八寸〇一九築堤後ノ速力ハ十三尺一寸一分八ナレハ其前後ヲ比較シテ其差僅ニ三寸一分六一タルニ過キス故ニ被告ハ主張スル水壓力ヲ增加シ爲ニ川床ヲ深クスルカ如キハ夢想タモ爲ス能ハサル所ナリ好シ數百歩ヲ讓リ多少川床ヲ深クスルコトアルモ之レカ爲メ不動堂柄澤並ニ大藏管出ノ両用水

呑口ニ引水上一大支障ヲ生スルト云フニ至リテハ不當モ亦甚シト云ハサルヘカラス何トナレハ此用水呑口ハ本件置土ノ下流ニアルコトハ被告提出ノ圖面ニ於テ見ル所ナレハ置土ノ爲メ川床ヲ深フスルノ結果其下流ニマテ及フカ如キハ水理上決シテ有ルヘカラサル所ナレハナリ然ルニ被告ハ用水口上流ノ箇所ハ築堤ノ爲一層崩壞ノ度ヲ增加スヘシ云々ト主張スルモ是亦水理ニ適當セサル議論ト云ハサルヘカラス抑該箇所ニ於ケル水勢ノ衝突タルヤ水戸野堤防ノ下部ニ於テ川流曲折スルヲ以テ上流長堀淵ヨリ流下スル水勢同所ニ衝突シ其反動ハ直ニ用水口上流ノ箇所ニ衝突スル者ニノ原告カ置土ヲ爲シタル所ノ如キハ對岸ハ對岸ナレトモ水流ノ衝ニ當ラサルカ故ニ此所ニ置土ヲ爲スモ更ニ水勢ニ變動ヲ生スルノ理由ナク對岸ヲ崩壞スル如キハ決シテ想像シ得サル所ナリ又被告ノ新堤ノ方向ハ水戸野堤接續ノ點ヨリ斜ニ對岸ニ向ヘ弓形狀ニ折レ下向スルカ故ニ一朝出水ニ際會スルトキハ新堤ノ反働ニ依リ水勢對岸ニ激突ス云々ト主張スレトモ本件ノ置土カ弓形狀ニ折レ下向スルハ即チ水流ノ自然ニ適合スル所以ニシテ從テ水勢ノ反像ヲ生セサル所以ナリ又被告ニ昨年七月洪水ノ際原告ノ置土ノ爲對岸ニ崩壞ヲ來シタルコトヲ主張スルモ該置土ハ射岸全体ニ毫モ障害ヲ與ヘス此些少置土スラ崩壞セサル程ノ水勢カ射岸ニ激突スルトハ到底推測シ得サル事柄ナリ好シ射岸ニ多少ノ欠込ヲ生シタリトスルモ這ハ昨年ノ洪水カ未曾有ナリト云フマテ激甚ナリシニ基因スルモノニシテ決シテ置土アルカ爲ニ生シタルモノニアラサルナリ故ニ被告縣知事ハ明治二十八年八月三十一日付ヲ以テ川内村長ニ對シ發シタル丙二第二四四九號

命令ヲ取消スヘキ樣判決ヲランコヲ請フト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ原告等ハ明治二十八年七八月中早出川筋ニ於テ一ノ堤防ヲ築造セルニ右ハ明治廿六年本縣之命令甲第四十九號ニ違背セルノミナラス治水上支障アルモノト認メタルヲ以テ之ヲ撤却セシムヘキ旨川内村長ニ命令セリ然ルニ原告等ハ同年九月十一日付ヲ以テ該命令取消ノ義上申セルモ右ハ採用スヘカラサルモノナルヲ以テ詮議ニ及難キ旨指令セリ元來原告ハ本件築堤以ヲ假土ト稱シ實ニ簡單ナルモノヽ如ク陳述スレトモ別紙實測圖ノ通リ馬踏幅上流五尺余下流三尺其高サ上流四尺五寸下流三尺延長二百五十二間ノ長ニ渉ル一ノ整然タル堤防ナリ其位置ハ早出川水流ヲ距ルコト十間乃至數十間ナリト云フト雖トモ其水流タル平水ニシテ一朝洪水ニ際會スルトキハ築堤ノ部分ハ勿論堤内數十間ハ盡ク浸水地トナルコトハ原告モ亦認ムル所ナリ然ラハ本件築堤ハ洪敷水範圍内ニ在ルモノニシテ洪水敷ヲ減少シ川幅ヲ狹隘ナラシメ爲メニ洪水快流ノ水住ニ變動ヲ來スヤ明ナリ而シテ其變動ハ水利上如何ナル影響ヲ及スヤト云フニ尋常洪水ニ於テ築堤前ノ速力ハ七尺四寸一分ニシテ築堤後新堤下部ノ速力ハ十尺二寸三分ナリ即チ築堤前ニ比シ三尺八寸二分ヲ增加ス其速力ノ增加ト共ニ水位ヲ隆起シ水壓力ヲ增加セシムルニ依リ其結果川床ヲ深クシ平水位ヲ落下セシムヘキヲ以テ之レカ爲メ對岸ナル不動堂拇澤並ニ大藏管出ノ両用水呑口引水上一大支障ヲ來スノミナラス用水口上流ノ箇所ハ水勢衝突ノ爲メ常ニ崩壞ノ傾キアルヲ以テ目下護岸工ヲ施シアルノ狀況ナレハ築堤ノ爲メ一層崩壞ノ度ヲ增加スベク甚シキハ終ニ里

道ヲ侵害スルニ至ルヘシ殊ニ新堤ノ方向ハ別紙圖面ニ如ク水戸野堤接續ノ點ヨリ斜ニ對岸ニ向ヒ弓狀形ニ折レ下向スルカ故ニ一朝出水ニ際會スルトキハ新堤ノ反動ニ限リ水勢對岸ニ激突シ之レカ爲メ護岸ハ勿論甚シキハ不動堂堤防ヲ侵害スルノ恐ナシトセス又新堤對岸地ハ堤防及堤防岸ニ於テ未タ曾テ被害ヲ受ケタルコトナク隨テ防禦工事ヲ施セシコトナカリシニ昨年本川出水ノ爲メ俄然岸缺ヲ生シ之ガ修繕工事ヲ施設スルノ止ヲ得サル場合ニ至ラシメタルハ要スルニ新堤ノ河幅ヲ狹隘ナラシメタル結果ナリ故ニ被告カ本件堤防撤却ノ命令ヲ發シタルハ公益保護上必要ノ處分ニシテ取消スヘカラサルモノナリト信スト云フニアリ

依テ鑑定人ノ意見ヲ聽キ尙實地ノ檢證ヲ爲シ判決ノ理由ヲ說明スルコト左ノ如シ

本件所爭ノ要點ハ早出川沿岸原告等共有地ニ於ケル新堤ノ築造ハ治水上支障アルヤ否ニ在リ而シテ原告ハ治水上益アルニモ害ナキ旨ヲ主張スト雖トモ鑑定人ニ於テ堤防ノ新築ハ學理上無論治水上ニ支障ナキモノト認定スル能ハサル旨ヲ明言スルノミナラス昨年七月洪水ノ際新堤ノ對岸ニ於テ缺壞ヲ生シタルハ實地檢證ノ結果ニ於テ爭フヘカラサル所ナリ然ルニ尙原告ハ缺壞ハ洪水ノ結果ニシテ新堤築造ノ爲メニアラスト云フト雖缺壞ノ箇所ハ從來ハ洪水ニ於テ未タ曾テ崩壞シタルコトナシトノ事實又新築堤防ノ爲ニ川幅ノ狹隘ヲ來シタルノ事實ニ徵スレハ單ニ洪水ノミナラス新堤ノ築造モ亦缺壞ヲ生シタル一大原因ナリト認定セサルヘカラス然レハ被告カ治水上支障アリト認メ新敷ノ撤却ヲ命シタルハ不當ノ所分

不當命令取消ノ訴

ナリト謂フヲ得ス

右ノ理由ニ依リ判決スルコト左ノ如シ

原告ノ請求棄却ス

訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

不當裁決取消要求ノ訴 明治三十年第一四號 明治三十年七月一日判決

判決要旨

水利豫防組合確定人名簿に登錄せられたるものは其議員撰擧の有權者にあらざるも撰擧を行ふことを得るものとす

說明

組合に於て別に確定名簿の効力を定めざるも撰擧人名簿確定の規定に於て其名簿登錄者は悉く其撰擧に擧かることを得可く推定せらるゝ場合に於ては良し確定の効力に依り無權者なるに拘らず其撰擧を行ふことを得へきものとす

原告人　小西行滋　訴訟代理人石川縣屬酒井鎖作

被告人　古澤滋

右原告小西行滋ヲ被告石川縣知事古澤滋ニ對スル不當裁決取消要求ノ訴ニ付原告ハ口頭審問ヲ期日ニ出頭セサルニ由リ欠席ノ儘被告ノ辯論ヲ聽キ原告ノ訴狀並ニ辨駁書ヲ閲シ審理

ヲ遂クル處[illegible]

原告訴狀ノ要旨ハ石川縣能登郡桜川水害豫防組合ハ明治二十八年十月十五日ヲ以テ其組合會議員ノ半數改選ヲ行ヒシニ北村榮太郎外二百七十六名ハ確定人名簿ニ登載セラレタルニモ拘ラス管理者ハ之ヲシテ選擧ニ參與セシメスシテ該選擧ヲ遂行セリ然レトモ北村榮次郎等ハ當時既ニ確定名簿ニ登載セラレタルヲ以テ名簿確定ノ効力ニ依リ組合員タル資格ヲ有シ從テ組合會議員選擧權ヲ有スルモノナリ故ニ管理者ニ於テ尙之ヲ無資格者ナリト主張スルニ於テハ被告參事會ハ宜シク管理者ニ對シ却テ北村榮太郎等ノ有資格タル證據ヲ擧クル責任ヲ負ハシメタルハ擧證ノ原則ヲ誤リタル不當ノ裁判ナリ又北村榮次郎等ハ前段陳述ノ如ク確定名簿ニ登載セラタルヲ以テ本件組合員ニシテ撰擧權ヲ有スルモノタルヤ明カナリ若シ名簿確定後ト雖トモ其登錄者ヲシテ選擧ニ參與セシムルト否ヤトハ一ニ管理者ノ職權ニ屬ストセハ一旦確定セシ名簿モ每ニ管理者ノ意向ニ依リ左右セラレ到底確定ノ時期ヲ見ルコトナキニ至ルヘシ然ルニ被告參事會ノ裁決ニ於テハ名簿確定ノ効力ハ無資者ヲシテ有資格者タラシムルモノニアラストシ確定名簿登載セラレタル者ヲシテ投票ヲ行ハシメサリシ撰擧會ヲ有効ト爲セシハ頗ル不當ノ見解タルヲ免レス依テ右裁決並ニ本件組合內第五區ノ議員選擧ノ取消ヲ請フト云フニ在リ

被告答辨ノ要旨ハ本件ハ桜川水害豫防組合會議員選擧ニ用ヰタル選擧人名簿ハ組合域內各町村長ニ其町村內ニ於ケル有權者ノ取調ヲ囑托シ組合管理者ハ其報告ニ基ツキ調製シタル

[illegible]ナルカ北村榮次郎外二百七十六名ハ組合員タル資格ヲ有セサルコトヲ確認シタルニ由リ人名簿ニ其旨ヲ記入シ選擧ニ參與セシメス從ツテ投票用紙ヲ交付セサリシ事實ナルニ原告ハ北村榮次郎等ヲシテ選擧權ヲ行ハシメサリシハ違法ノ選擧ナリト主張シ北村榮次郎等ハ當時已ニ確定名簿ニ登錄セラレタルモノナレハ名簿確定ノ効力ニ限リ組合員タル資格ヲ有スル者ナリト云ヘトモ名簿確定ノ効力ハ名簿ニ登載セラレタルモノハ如何ナルモノト雖トモ悉ク選擧ニ參與セシムル權限ヲ與スルモノニアラスシテ名簿ニ登錄セラレサルモノハ組合員ト雖トモ選擧權ヲ行フコトヲ得サラシムルニ在リ若シ然ラズシテ原告主張ノ如シトセハ名簿確定後土地家屋ヲ他ヘ讓渡シ組合員タル資格ヲ失ヒ若クハ組合員ニアラスシテ誤テ確定名簿ニ登載セラレタルカ如キ時ニ於テモ其者ハ尚組合員タル權ヲ享有シ水利組合條例第十四條二項ニ抵觸スルニ至ルヘシ又原告ニ於テハ被告カ北村榮次郎等ノ組合員タル擧證ノ責任ヲ原告ニ歸シタルハ擧證ノ責任ヲ誤リタルモノナリト云ヘトモ凡テ訴願訴訟ニ對シテハ其事實證據ヲ調査シ之レカ判定ヲ爲スヘキモノニシテ證據ヲ擧ケサル以上ハ如何ニ異議ヲ唱フルモ之ヲ採用スル由ナシ本件ハ管理者ニ於テモ北村榮次郎等ヲ以テ組合員タル資格ヲ具備セサルモノトシ選擧ニ參與セシメサリシモノナレハ之ニ對シ異議ヲ稱フルニハ原告ニ於テ北村榮次郎等ノ組合員タル證據ヲ提供スヘキハ當然ナリ要スルニ原告ノ請求ハ理由ナキニ付排斥ヲ請スト云フニ在リ

偽テ證據ヲ閲シ理由ヲ說明スルコト左ノ如シ

被告ニ於テハ確定名簿ノ効力ハ名簿ニ登載セラレタルモノハ如何ナルモノト雖モ悉ク選擧ニ參與スル權利ヲ生セシムルモノニアラスシテ名簿ニ登載セラレサルモノハ組合員ト雖トモ選與ニ參與スルコトヲ得サラシムルニ在リ故ニ管理者ニ於テ登錄人名中無資格者アルコトヲ確認スル以上ハ之レヲシテ選擧ニ參與セシメサルモ違法ニアラスト主張セリ按スルニ本件組合規約ニ於テハ確定名簿ノ効力ニ付別ニ規定スル所ナシト雖モ其第九條ニ於テ選擧人名簿確定ノ事ヲ定ノタル以上ハ之ニ登錄セラレサルモノハ選擧權ヲ行フコトヲ得サルト同シク之ニ登錄セラレタルモノヲシテ撰擧ニ參與スルコトヲ得セシムル趣旨タルヤ疑フ容レサルヲ以テ名簿ニ登錄セラレタルモノハ確定ノ効力ニ依リ有權者トナラサルニモセヨ之ヲシテ投票ヲ行ハシムヘキモノトス然ルニ本件選擧ハ管理者ニ於テ自已ノ推斷ニ基ツキ確定名簿ニ登載セラレタル北村榮太郎外二百七十六名ニ對シ投票ヲ爲サシメスシテ結了シタルモノナレハ組合規約ニ違反セル不當ノ選擧ヲ免レサルモノトス此他原被双方尚陳述スル所アルモ本件裁判ニ必要ナラスト認ムルニ付說明ヲ與ヘス

右ノ理由ニ依リ判決スルコト左ノ如シ

明治二十八年十月十五日ニ執行シタル梯川水害豫防組合內第五區ノ組合會議員ノ選擧ハ之ヲ取消ス

訴訟費用ハ被告ノ負擔トス

歩一稅賦課取消訴願ノ裁決不服ノ訴

明治三十年第二四號
明治三十年六月三十日判決

歩一稅賦課取消願ノ裁決不服ノ訴

判決要旨

京都府葛野郡朱雀野村に於て實施する歩一稅賦課條例第二條に所謂讓受なる字義中には收用をも包含するものとす

課稅の標準は補償金額中別に收用に因り生したる損失の補償金を含むへき證據なき限りは登記せし金額を以てせさる可からす

私設鐵道用地の收用に付ても歩一稅の賦課を免かるゝことを得す

說明

收用を廣義に解する時は强制讓渡ありと云ふを得可し故に讓受ある字義中には除外の見るへきものなき限りは收用をも包含すへきものありとの見解は決して不當にあらす(參照、前揭第二條朱雀野村內の土地建物を買得又は讓受したる者は其土地建物の登記を受けたる金高の百分の二以下の範圍內を以て歩一稅を賦課す云々)

收用に依り補償金が其收用より生したる損失をも包含せられたるものなりとの證據ある場合に於ては課稅の標準は其物件の價額即ち代償金を以て之を定めさるへからすと雖も若し其證據なき場合に於ては其登記の金高を以て物件の價格なりとし之を以て賦課の標準と爲さゝるへからす

歩一稅は町村特別稅なるを以て法令を以て其賦課を免除せさる限りは收

用土地と雖も其賦課を免かるゝことを得す

原告人　京都鐵道株式會社長　小室信夫　訴訟代理人　辯護士　吉田佐吉　奥繁三郎

被告人　京都府知事　山田信道　訴訟代理人京都府屬　三宅貞太郎

右原告京都鐵道株式會社長小室信夫より被告京都府知事男爵山田信道に對スル歩一稅賦課取消訴願ノ裁決不服ノ訴に付雙方ノ辯論ヲ聽キ審理ヲ遂タル處

原告訴求ノ要旨ハ原告京都鐵道株式會社ハ其起業に必要ナル鐵道用地に付甲第一號證ノ地所建物ヲ土地收用に依リ收用セシに京都府葛野郡朱雀野村長ハ歩一稅ヲ賦課シタルに依リ原告ハ一時之ヲ上納シ證キ訴願法に依リ順次村長郡長知事に對シ其取消ヲ訴願シタルモ結局原告ノ申分ハ採用スル所トナラス然レトモ納用地に對シ歩一稅ヲ賦課セシハ全ク違法ノ處分タルヲ免レス第一朱雀野村に於テ實施スル歩一稅賦課條例ヲ按スルに其第二條に朱雀野村內ノ土地建物ヲ買得又ハ讓受ケタル者ハ其土地建物ノ登記ヲ受ケタル金高ノ百分ノ二以下ノ範用內ヲ以テ歩一稅ヲ賦課ス其額ハ毎年度村會ノ議決ヲ以テ之ヲ定ム但シ家督相續並に遺產相續者ハ課稅ノ限リニアラス」トアリ故に此條例に基ツキ歩一稅ヲ賦課スルハ賣買讓與ノ場合に限ルヤ勿論ナリト雖モ其所謂讓與ノ字義中には土地收用法に依リ土地ヲ收用スル場合ヲ包含スルヤ否ヤハ本件主要ノ爭點タリ而シテ被告京都府知事ハ讓受ノ語ヲ以テ所有權ヲ移轉スル總テノ場合ヲ包含スルモノトシ土地收用モ又讓受ノ場合に恰當スト裁

決セリ然レトモ是レ收用ノ意義性質ヲ誤解セシモノト謂ハサル可カラス抑收用トハ公共利益ノ爲メ國家カ國家行政又ハ一私人ノ物件ニ對シ所有權又ハ他ノ物權ヲ剝奪シテ之ヲ國家若クハ第三者ニ移付スル行政行爲ニメ畢竟國家ノ命令權ヲ以テ强制的剝奪ヲナスモノナリ一ケ人タル起業者カ土地ヲ獲得スル場合ト雖モ所有者ヨリ任意讓渡ヲ受ケタルニアラスシテ一ノ行政處分ノ結果タルニ外ナラス之ニ反シ彼ノ讓受ナルモノハ一ノ民法上ノ行爲ニシテ當事者カ契約ニ依リ所有權ヲ授受スルモノニシテ收用ノ如ク强制剝奪トハ其性質ヲ同フセス而シテ條例第二條ニ所謂讓受ナルモノハ即チ任意移轉ノ場合ヲ規定シタルモノニシテ收用ノ如ク國家ノ命令ニ依リ所有權ヲ獲保シタル場合ヲ包含セサルヤ明ナリ然ルニ被告ハ收用ニ依リ得タル物件モ亦讓受ニ異ナラストシタルハ實ニ失當ノ甚シキモノニシテ顧フニ起業者カ他人ノ所有權ヲ獲得シタル点ノミヲ觀察シ而モ其根本タル性質意義ヲ究メサルニ基因シタルモノニシテ又今日讓受ナル法語ノ解釋上斯ル廣汎ナル意味ヲ有セサルヤ明カナリ況ンヤ租稅ノ如キハ臣民ニ至大ノ責務ヲ負ハシムルモノナルヲ以テ苟モ牽强ノ解釋ヲ許ササルニ於テヲヤ第二歩一稅ヲ附加スル標準ハ條例第二條ニ依リ登記ヲ受ケタル金高ノ百分ノ二以下規定セリ此金高トハ則チ賣買ニ於ケル代價讓與ニ於ケル物件ノ價額ヲ指示シタルモノナリ然ルニ收用ノ場合ニ於ケル損失補償金ナルモノハ單ニ物件ノ價格ニ相當スルノミナラス收用ノ爲メ所有者カ被リタル總テノ損害ヲ賠償スルモノナレハ補償金ヲ以テ直ニ物件ノ價格ト云ヒ難シ然ラハ此補償金額ヲ標準トシ歩一稅ヲ賦課スルハ條例ノ規定セサル

所ニシテ其不當タルハ明瞭ナリ第二號道事業ハ公益ヲ圖ルニ在ルモノナレハ市町村制ニ於テモ地租條例ニ於テモ免稅ノ特典ヲ受クルモノナリ又原告カ本件ノ土地ヲ登記スルニ當テモ登記印紙ノ貼用ヲ免除セラレタリ登記簿ニ記載セル金高ノ如キモ必スシモ之ヲ記載セサル可ラサルニアラス唯便宜ニ從ヒ價格ヲ定メテ登記ヲ爲シタルニ外ナラス然ルニ朱雀野村長ハ收用ノ土地ニ付キ歩一稅ヲ賦課シタルハ不當ナリ依テ明治三十年三月十九日被告京都府知事カ原告ノ訴願ニ對シ爲シタル裁決ヲ取消シ更ニ本件收用地ニ對シ歩一稅ヲ賦課シタルハ不當ニ付之ヲ取消シ已ニ還附ス可シトノ判決ヲ仰クト云フニアリ

被告答辯ノ要旨ハ第一原告ハ讓與ナルモノハ一ノ民法上ノ行爲ニシテ當事者カ契約ニ依リ所有權ヲ讓渡スルヲ云フ葛野郡朱雀野村歩一稅賦課條例第二條ニ所謂讓受ハ即チ此場合ヲ指示シタルニ外ナラサルヲ以テ收用ノ如ク國家ノ命令ニヨリ所有權ヲ獲得スル場合ヲ包含セサルニ拘ハラス之ヲ讓受ナリト裁決シタルハ不當ナリト主張スレ雖讓受ノ語タル如斯狹義ノモノニアラス賣買ニヨル取得ヲ除クノ外總テ物件ノ獲得ヲ意味スルモノニシテ其權源ノ如何ハ敢テ問フ所ニアラサレハ收用ヲ讓受ト認メタルハ不當ト謂フヲ得ス第二又原告ハ歩一稅賦課ノ標準ハ條則第二條ノ規定ニ基キ登記ヲ受ケタル金高ナラサルヘカラス此金高トハ即チ賣買ニ於ケル補償金ノ如キ單ニ物件ノ價格ノミナラズ其地諸種ノ損害ヲモ含ムモノトハ異レリ果シテ然ランニハ此補償額ヲ標準トシ課稅シタルハ條例ニ違背スト論スレトモ本件登記簿掲記收用代金ノ名義ニテ登記セラレタルモノナルニ依リ之ヲ以テ條例第二條

所定ノ登記ヲ受ケタル金高ニ相當スルモノトシ之ヲ課税ノ標準ト爲シタルハ不當ニアラス

第三鐵道事業ハ公益事業ニ屬スルヲ以テ町村税ヲ賦課ス可キモノニアラスト云フモ私設鐵道用地ノ收用ニ對シ免税スヘキモノタル法令ノ規定ナキノミナラス町村制第九十三條ニ依ルモ私設鐵道會社ニ對シ町村税ヲ賦課シ得ヘキヤ明瞭ナリ依テ原告ノ請求ハ棄却スル旨判決ヲ請フト云フニアリ

依テ證據ヲ閲シ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ

原告ニ於テハ朱雀野村歩一税賦課條例第二條ニ所謂讓受ナル字義ハ民法上ノ關係ニ基ク所有權ノ讓渡ヲ謂フモノニシテ收用ノ如ク國家命令權ノ作用ニ出テタル所有權獲得方法ヲ指シタルモノニアラスト云フト雖モ元來讓受ナル語ハ一定ノ用例アルニアラス之ヲ使用スル場合ノ如何ニ由リ所有權移轉ノ意義ヲ有スルコト少ラス而シテ本條例ハ素ト賣買其他ノ町村税ヲ賦課スル趣意ニシテ別ニ收用ヲ除外セシ精神ノ見ルヘキモノナキ以上ハ收用モ亦一種ノ所有權移轉方法ニシテ課税ノ點ニ於テ賣買其地ノ移轉方法ト差別スヘキ理由ナキニ依リ廣義ノ解釋ニ從ヒ收用ヲ包含スト爲スヲ相當トス

第二歩一税ヲ賦課スル標準ハ賣買ニ於ケル代價讓與ニ於ケル物件ノ價格ニシテ收用ニ於ケル補償金ハ當ニ物件ノ價額ノミナラス收用ニ依リ生シタル諸種ノ賠償金ノ包含スルモノナレハ之ヲ以テ直ニ物件ノ價格ト云フ可カラス然ルニ此補償金ヲ標準トシ歩一税ヲ賦課セシハ不當ナリト云フト雖モ本件補償金額中別ニ收用ニ因リ生シタル損失ノ補償金ヲ包含スルモノト認ム可キ證據ナキニ依リ登記ヲ爲セシ金高ヲ以テ物件ノ收用ニ對スル補償金則チ物件ノ價格ナリトシ之ヲ課税ノ標準ト爲セシハ不當ニアラス第三鐵道事業ハ公益ニ關スルモノニシテ之ニ要スル土地ノ收用ニ付テハ課税ヲ免ル可キ性質ノモノナリト云フト雖モ本件歩一税ハ相當ノ手續ヲ經テ成立セル町村條例ニ基リ一種ノ町村特別税ニシテ私設鐵道用地ノ收用ニ付キ町村側其他法律勅令中此種ノ租税ヲ免除スル規定ナキ以上ハ之ニ對シ町村税ヲ賦課スルモ敢テ不當ニアラス

右ノ理由ナルニ依リ判決スルコト左ノ如シ

原告ノ請求相立タス

訴訟費用ハ原告ノ負担トス

不當處分取消要求ノ訴

明治三十年第一二號
明治三十年六月三十日判決

判決要旨

道路費用は道路の使用に付關係少なき村民と雖も其負擔を免かるゝことを得す

説明

町村内の一部に於て專ら使用する營造物の修築及保存の費用は其部内に住居する者等に於て負擔せさるへからさることは町村制第九十九條第二項に明定する所ありと雖も若し其營造物か他の部落に於ても使用する事

不當處分取消要求ノ訴

實ある場合に於ては其使用の多少を論せず其費用を負担すべきは該法文上自から明瞭ありとす

原告人　飛田重太郎　訴訟代理人辯護士　北村太三郎
被告人　村長　村本尙三　補佐人辯護士　朝倉外茂鐵

右原告飛田重太郎外十九名ヨリ被告石川縣石川郡林中村長村本尙三ニ對スル不當處分取消要求ノ訴審理ヲ遂クル處

原告陳述ノ要旨ハ町村制第九十條第二項ノ規定ニ依ルトキハ町村内ノ一部落ニ於テ專ラ使用スル營造物ニ對シテハ之レト關係ナキ他ノ部落ノ人民ハ其費用ヲ負擔スルノ義務ナキコト明瞭ナリ抑元乙九村ハ從來ヨリ甲乙兩部ニ分レ甲部落ハ乙九村ト言ヒテ原告等全体ノ居住村ナリ乙部落ハ乙九新田ト稱シテ三戸ノ住民ヲ有ス而シテ其道路ノ關係ハ原告等ノ居住スル甲部落ハ松任往來ノ民域ニシテ乙九新田トハ斷然其線路區域ヲ異ニス隨テ原告等ハ五器山往來ニ對シテハ毫モ關係ヲ有セス利益ヲモ享ケス原告ノ居住村ヨリ五器山往來ニ至ル迄ノ間ハ幾多ノ水田及小河溝ヲ隔テヽ遠ク懸離シ其間ニハ一ノ連路ヲ通スヘキハ徑スラナキヲ以テ假令五器山往來ヲ使用セント欲スルモ使用スル能ハス而シテ五器山往來ハ俗ニ所謂袋道ニシテ北松任往來ヨリ分岐シテ南字田地ニ至テ行キ止マリトナル者ナレハ實際此往來ニ沿フテ居住スル人民ニ非サルヨリハ之レヲ使用セント欲スルモ得ヘカラス若シ原告等ニ於テ强ヒテ之レヲ使用セント欲スルトキハ大不便大迂回大徒勞ヲ忍フニ非レハ之を使用

スル能ハサルハ被告ト雖モ抗辯スル能ハサル可シ以上ノ理由ナルニヨリ被告ガ原廣等ニ五器山往來ノ開鑿費ヲ負擔セシメタルハ町村制第九十九條第二項ニ背反スル不當ノ處分ナリト信ス又被告ハ明治十八年五月石川縣布達甲第六十二號ヲ援用シテ原告等ノ主張ヲ排斥ス雖是レ法律ト縣達トノ輕重ヲ誤ル者ナリ抑第六十二號ノ布達ヲ以テ被告ノ解釋スルカ如ク五器山往來ノ指定區域内ニ單ニ乙九村トアルノ故ヲ以テ乙九村全体即チ甲乙兩部落トモニ指シタルモノトセハ該布達ハ明然町村制第九十九條第二項ト抵觸スルモノナリ何トナレハ甲部落ハ前述ノ如ク町村制第九十九條第二項ニヨリ五器山往來ノ費用ヲ負担スヘキ義務ナキモノニシテ而シテ六十二號ノ布達ハ之ニ反シテ該費用ヲ負担セシメントスルモノナレハナリ法律カ費用負担ノ義務ナシト定メタルニ對シ縣達ヲ以テ之レヲ破ラントスルハ到底不當タルヲ免レス縣達ハ法律ニ抗スル能ハス法律ト抵觸スル縣達ハ無効タルヤ明ナリ假ニ數百歩ヲ讓リ法律ト縣達ト同等ノ力アルモノトスルモ該縣達ハ明治十八年五月發布シ町村制ハ明治二十二年四月ヨリ施行シタルモノナレハ所謂後法ハ前法ヲ廢ストノ原則ニ依リ該縣達ハ効力無キモノナルコト明ナリ被告カ無効ノ縣達ヲ唯一ノ利器トナシ以テ原告ノ主張ヲ排斥シタルハ不當ナリ又假令一歩ヲ讓リテ第六十二號ノ縣達ハ町村制ト抵觸セスシテ且無効ニモ非ストスルモ猶原告等ハ五器山往來ノ費用ヲ負担スル義務ナシト信ス該縣達但書ニモ明記シアル別冊ニ附屬スル繪圖面ハ即チ指定區域ヲ明確ナラシムルモノナリ別冊ノ文意ノ足ラサル所ヲ補充シ一層詳ニスルモノナリ假令別冊ニハ單ニ乙九村ト記載シアルモ之

不當處分取消要求ノ訴

レニ附屬スル繪圖面ニハ五器山往來ノ區域ヲ畫シ其往來ニ沿ヘル乙丸新田ノミヲ記載シアルヲ以テ視レハ當時第六十二號ノ縣達ノ精神ハ乙丸村新田ノミヲ指定シテ乙丸村即チ原告ノ居住村迄ヲモ包含セシムルノ意ニ非サルコトハ明ナリ別冊ニ單ニ乙丸村トアリテ之レカ細則若ハ說明書トモ言フヘキ繪圖面ニ乙丸村新田トアル以上ハ別冊中ノ乙丸村トハ取リモ直サス乙丸新田ヲ指シタルモノニシテ甲乙両部落ヲ指シタルモノニ非サルコトハ明カナリ抑法令中ノ廣義ノ文字モ其細則說明書若ハ繪圖面等ニ依リテ其意義限セラレ狹義ノ意ヲ知リ得ルトキハ素ヨリ狹義ニ解スヘキモノタルコトハ法律解釋ノ原則ナリ又凡ソ法文ノ文字廣大ニ失シ立法者ノ言ハントスル所ニ超越シ若ハ著シク事實ニ適合セサル場合ハ素ヨリ其意義ヲ短縮シテ解釋セサルヘカラス是レ亦法律解釋ノ原則ナリ今乙丸村甲落葉ハ實際毫モ五器山往來ト關係ナク又毫モ其利益ヲ蒙ルヿナシ故ニ仮令別冊ニ繪圖面ノ附屬スルナシトスルモ別冊中ノ乙丸村ナル文字ハ當然之レヲ短縮シテ解釋シ以テ立法者ノ意ト事實上トニ適合セシムルヲ至當ト信ス然ルニ被告ハ繪圖面ノ附屬スルアルニ係ラス又解釋ノ原則上及事實上狹意ニ解釋スヘキ理由アルニ係ラス原告等迄ヲ指定區域内ニ入レテ以テ道路ノ費用ヲ負担セシメタルハ頗ル不當ノ處分ナリ依テ被告カ石川縣石川郡林中村五器山往來開鑿費ヲ明治二十九年度村税戸別割トシテ原告等ニ對シ賦課シタルハ不當ノ處分ナルニ付之レヲ取消スヘシトノ裁判アランコトヲ請求スト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ本件訴訟ノ原因タルヤ五器山往來ニ對シ事實ト毫モ利害ノ關係ヲ有セス

トシテ立論スルモ基因スル者ニシテ其理由トシテ最モ熱心ニ辯難スル所ハ原告等ノ住所ヨリ五器山往來ニ達スルノ間ハ遠ク幾多ノ水田及河溝ヲ以テ隔離セラレ其間ニハ一ノ連絡ヲ通スヘキ小經路ナシト然レモ其申立タルヤ虛妄ノ最モ甚シキモノナリ何トナレハ元來五器山往來ナルモノハ實際原告等ノ住所ニ通シ維新前藩主ニ納ムヘキ貢米其他ノ物貨ヲ運送スルニ使用シタル道路ニシテ原告等ハ常ニ該往來ニ依リテ便利ヲ得タルモノナリ況ンヤ今日モ尙ホ牛馬ヲシテ相往來セシムルニ自由ナル道路ナルニ於テオヤ然ルニ何ソ一ノ連絡ヲ通スヘキ小經路ナシトハ事實ニ背反スルモ亦甚タシト謂ヘサルヘカラス且原告等ノ部落ハ松任往來ノ區域ナルヲ以テ其經費ヲ負担スルハ勿論ナリト雖五器山往來ニ對シテ其費用ノ賦課ヲ受クヘキ義務ナシト主張スルモ是レ亦其理由ナキモノトス何トナレハ一ノ某往來ノ區域トシテ其費用ヲ負担スル以上ハ他ノ往來ニ對シテハ其經費ヲ負担スル義務ナシトノ法律アラサル限ハ仮令一部落ニシテ二三道路ノ區域トセラルヽモ一ノ其往來ノ關係區域トシテ既ニ其賦課ノ義務ヲ尽シアリトノ理由ヲ以テ之レヲ拒ム能ハサルヤ明カナリ況ンヤ原告等ノ所謂乙部落ト命名セル乙丸新田ハ五器山往來ノ區足タルノミナラス亦松任往來ノ區域トシテ原告等カ共ニ兩往來ノ經費ヲ負担シ其義務ヲ盡クシツアルニ非スヤ果シテ然ラハ原告等ニ於テノミ五器山往來ノ經費ヲ負担スルノ義務ナシト云フノ理アランヤ其乙丸ト云ヒ乙丸新田ニ云フモ同シク一部ナリ而シテ其一部内ノ領地ヲ貫通スル道路ニシテ聊カ之ニ利害關係ヲ有セスト主張スルハ何ソ事實ト相反スルノ甚シキヤ原告等ハ松任往來ト等シ

不當處分取消要求ノ訴

ク五器山往來ニ利害關係アルハ乙丸新田カ五器山往來ト等シク松任往來ニ利害關係ヲ有スルカ如クナリ故ニ被告ニ於テ町村制第九十九條第二項ニ依リ五器山往來區域費ヲ原告等ニ賦課シタルハ毫モ法律ノ適用ヲ誤リタルモノニ非スト信ス又前陳ノ如ク原告等ノ部落ハ事實上五器山往來ニ對シ利害關係ヲ有スルモノナルヲ以テ明治十八年五月八日縣達甲第六十三號ヲ以テ明治十七年五月布告第十四號區町村會法第十三條ニ基キ乙丸村ヲ以テ五器山往來ノ關係區往ト定メラレタリ其乙丸村トハ原告等ノ所謂甲乙両部落全体ノ名稱ナルヲ以テ當然原告等ノ部落ヲ含蓄スルヤ明カナリ然ラハ即チ法律上ニ基ク權限ニ依リ縣知事ニ於テ乙丸村即チ原告等ノ部落及乙丸村新田ヲ以テ五器山往來ニ對シ利害關係ヲ有スルモノト認定シ該往來ノ關係域區ト指定セラレ聯合村會ヲ開設セシメラレタルモノナレハ該縣達ハ毫モ町村制第九十九條第二項ト抵觸スルノ理ナク兩々相對シテ各其効力ヲ有スルモノナリトス況ンヤ明治廿二年五月十八日縣令第七十五號ヲ以テ區町村會法第十三條ニ依リ區域ヲ指定シタル中水利土功ニ關スル聯合町村會ハ本年法律第十一號ニ依リ町村制實施後ト雖尚存續セシムトアルニ依リ五器山往來ノ關係區域ハ今日ト雖依然トシテ確定シ尚其効力ヲ有スルモノナリ故ニ原告等ノ主張スルカ如ク決シテ法律ノ適用ヲ誤リタルモノニアラス又原告等ハ縣達第六十二號但書ニ明記セル別冊附屬ノ繪圖面ヲ指定區域ヲ明確ナラシメ別冊ノ文意ノ足ラサル所ヲ補充スル爲メ附屬トシテ添附シタルモノナリト主張スト雖該繪圖面タルヤ原告主張ノ如キ理由ヲ以テ附屬セシメタルモノニアラス該繪圖面ハ指定區域ニ毫モ關係

ナキモノトス何トナレハ元來道路ナルモノハ單ニ該道路ニ對シ利害關係アリト認定シタル區域町村ヲ指定スルノミヲ以テハ未タ其道路ナルモノハ果シテ何レノ町村ニ始マリ何レノ町村ニ終ルヤ何レノ町村ヲ經過スルヤ又如何ナル位置ヲ以テ存在スル所ノ往來ナルヤ知ル能ハサルヲ以テ道路ノ位置線路ノ境界ヲシテ一目瞭然タラシメ後日ノ紛紜ヲ豫防セントスルノ具ナリ故ニ位置線路ノ境界ニ對シテハ該繪圖面タルハ證明ノ材料タルヘシト雖賦課負擔ノ指定區域ニハ毫モ關係ヲ有スルモノニ非ルハ圖中道路ニ依リテ町村ノ地ヲ異ニスト雖其色別テ指定區域ヲ異ニスルニアラス又其道路ヨリ部落ニ道路ノ印ナキヲ以テ直チニ指定區域ノ外ナリト斷定スルヲ得サルナリ然ルニ原告等ノ甲第九號證繪圖面寫ハ全圖中ノ一部ヲ不規則ニ寫シタルモノニシテ證トスルニ足ラス依テ原告ノ請求相立タストノ判決ヲ請フト云フニ在リ

依テ證據ヲ闡シ理由ヲ說明スル左ノ如シ

原告ハ明治十八年石川縣布達甲第六十二號ノ別冊ニハ單ニ乙丸村ト記載シアルモ其訴屬繪圖面ニハ乙丸新田ノミヲ記載シアルヲ以テ見レハ該布達ノ精神ハ乙丸新田ノミヲ指定シテ原告居住ノ部落タル乙丸村ヲモ包含セシメタルモノニ非スト云フト雖布達甲第六十二號別冊ニ依レハ現ニ乙丸村ヲ以テ五器山往來區域中ニ編入シアルノミナラス該布達附屬繪圖面ニ依ルモ五器山往來ハ乙丸村ノ内乙丸新田ニ接近シタル線路ナルコトハ明カナルモ之レヲ以テ原告居住部落ノ乙丸村ヲ以テ該布達指定ノ區域外ニ在ルモノト云フヲ得ス又原告ハ五

器山往來ハ之レヲ使用セントト欲スルモ使用スル能ハス該道路ハ原告等ニ毫モ關係ナシト云フト雖該往來ヲ使用セハ大迂回路ナリ又乙丸村乙丸新田ノ兩部落ヲ通過スルニハ五器山往來ハ僅ニ三千間計リ使用スルノミトハ原告ニ於テモ自陳スルトコロナレハ原告等ニ於テ五器山往來ヲ全ク使用セス又毫モ之レニ關係ナシト云フヲ得ス又原告ハ布達甲第六十二號ヲ以テ乙丸村全体ヲ五器山往來ノ指定區域内ニ入レタルモノトセハ該布達ハ町村制第九十九條第二項ノ規定ニ抵觸スルモノナリト云フト雖五器山往來ハ町村制實施後ノ原告村タル林中村ノ一部即チ元乙丸村ニ於テ專ラ使用スル道路ナレハ一般其部内ニ往居スルモノニ於テ之レカ修築及保存ノ費用ヲ負担スヘキハ當然ナレハ假令原告等ノ如キハ該道路ノ使用上關係少ナキモノトスルモ其關係少キノ故ヲ以テ費用負担ノ義務ヲ免カルヽヲ得サルモノトス故ニ石川縣布達甲第六十二號ハ町村制第九十九條第二項ノ規定ニ抵觸シタルモノニ非ス以上ノ理由ニ依リ被告カ五器山往來開鑿費ヲ村税戸別割トシテ原告等ニ賦課シタルハ不當ノ處分ナリト云フヘカラス其他原被告ニ於テ辯陳スルトコロアルモ判決上必要ナキヲ以テ之レカ説明ヲ與ヘス

右ノ理由ナルニ依リ判決スル左ノ如シ

原告ノ請求相立タス

訴訟費用ハ原告ノ負担トス

違約處分認可取消ノ訴

明治二十九年第十三號
明治三十年六月三十日判決

判決要旨

米穀取引所は其所屬仲買人の藏所に付届出の米穀俵數を檢査するの權限を有す

仲買人か虚僞の藏所届を爲したる時は渡米の差出を怠りたる者と看做し其仲買人を除名するを得

説明

取引所は其所屬仲買人を監督すへき職責あるものにして而して仲買人の取引より生ずる損害に付き賠償の責任を負ふものたりこの故に其届出たる藏所の米穀俵數を檢査するは固より當然のことなりとす

虚僞の藏所届は無効のものなり無効の藏所届を爲したる者に對しては其處分を受くべきは當然のことなりとす

原告人　佐藤長次郎　佐藤綱右衛門
　　藤田德五郎

訴訟代理人　辯護士　熊野敏三　橋本好正

被告人　大隈重信

訴訟代理人　農商務屬　松田四郎
　　仝　辯護士　原嘉道

右原告佐藤長次郎外壹名ヨリ被告農商務大臣伯爵大隈重信ニ係ル違法處分取消ノ訴審理ヲ遂クル處

違約處分認可取消ノ訴

原告訴求ノ要旨ハ山形縣米穀生糸取引所ニ於テ明治二十八年九月期米ニ非常ノ取引アリ其高一万二千石余ニ上リタルヲ以テ九月二十日頃ヨリ賣買ヲ停止セラレ而シテ仝月三十日ニ至リ原告ハ成規ニ基キ第五號證ノ如ク銘柄藏所ヲ屆出ヲ又期米受渡ノ抽籤ヲ行ヒシニ德五郎ハ三番長次郎ハ四番關ニ當レリ然ルニ取引所ハ買方ト通謀シ突然役員ヲ派出シ九月三十日ヨリ十月三日マテノ間ニ原告屆出ノ各藏所ニ就キ現米調査ヲ爲シ其結果積立米ニ一割乃至二割以上ノ不足アリト爲シ原告カ既ニ其間ニ賣米ノ一部分即チ五百四十石ヲ引渡シタルニモ拘ハラス十月四日ニ至リ受渡ヲ中止シ續テ仝月二十三日第二號證ノ如ク原告ヲ以テ渡米ノ差出ヲ怠リタルモノトシ違約處分ヲ行ヒ更ニ被告農商務大臣ニ除名ノ申請ヲ爲シタルニ被告ハ充分事實ヲ審査セス又定款ノ規定ニ據ラスシテ右除名處分ヲ認可シタルモノナレバ是レ亦被告ノ違法處分ナリト謂ハサルヘカラス今其理由ヲ列擧センニ第一被告ノ答辯書ニ依レバ原告ノ藏所ハ現狀ヲ詐リタルモノニシテ德五郎ノ屆出ニ對シテハ室岡ヤス外四箇ノ藏所ニ於テ三俵乃至七十俵ノ不足アリ長次郎ノ屆出ニ對シテハ平吹祐助外二ケ所ニ於テ必ハ全ク積立米ナク或ハ四十六俵ノ不足アリトノコトナシトモ元來原告ハ俵數不足ノ事實ヲ認ムル能ハス其藏所屆ノ正確ナルコトハ第六號證明書ノ如ク各藏主ニ於テ積立米現存セシコトヲ明言セルニ依テ明カナルノミナラス被告提出テ第五號證山形取引所ノ答申中記載ノ復申書證明書取調書等ヲ見ルニ其中一個ヲ除クノ外姑トク原告ノ立會ナシニ勝手ニ作製シタルモノナレバ其取調ノ公平正確ナルヲ認ムルヲ得ス殊ニ右答申書中記載ノ事實ニ

對スルモ其不公平不正確ナルヲ推知スルニ足ルヘシ即チ當時山形取引所カ買方ト通謀シ夜中突然狀士同道ニテ賣方ノ藏所ヲ見分シタルコト藤田德五郎藏所ノ内山田庄五郎方ノ藏米ニ付テハ積方亂雜ニテ正確ナル取調ヲ遂クル能ハス二百四十俵ハ數ハ得タルモ其他籾室幷ニ戸棚ニ積入レタル分ハ俄カニ調査スルヲ得ストテ直チニ七十俵ノ不足アリト認メタルコト高桑勇藏方ノ積立米ニ付テハ百五十俵不足トアレトモ元來勇藏甚右衛門ハ父子同居ノ間ナレハ勇藏分ヲ甚右衛門倉庫ニ積ミ入レ現ニ甚右衛門方ニハ二百五十俵ノ過米アルニモ拘ハラス之ヲ打捨テ勇藏分ノミヲ數ヘテ不足米アリト爲シタルコト又タ佐藤長次郎藏所ノ平吹祐助長谷川長吉カ一時ノ行違ヨリ積立米ナキトノ證明書ヲ取引所派出員荒井太四郎ニ差出シタルモ更ニ長次郎ノ請求ニ依リ荒井太四郎再ヒ出張シ藏入米充分ナルコトヲ認メ且藏主ヨリ前記證明書ノ取消書ヲ受取タルコト此等ノ事實ニ徵スレバ調書ノ疎漏又ハ行速ニ依リ渡米ニ不足アリト爲シタルハ明白ナリ然ルニ此等ノ事實ヲ審査セスシテ除名ノ申請ヲ認可シタルハ被告ノ違法處分ナリトス第二山形取引所カ九月期米受渡ノ前ニ於テ賣方屆出ノ藏所ニ就キ現狀調査ヲ爲シタルハ何等法令及規約ノ許ス所ニアラス殊ニ山形取引所定款及營業細則中ニハ斯カル職權ヲ取引所ニ與フルモノアルヲ見ス然ラハ斯カル越權ノ檢査ヲ爲シ其結果ニ依リ違法處分ヲ行フタルハ最モ違法ノ處分ナリトス第三山形取引所ノ申告書ニ依レハ原告ノ藏所屆ハ現狀ヲ詐リタル屆書ナレバ營業細則第四十六條ニ所謂渡米ノ差出ヲ怠リタル云々ニ該當セリト云フモ是レ誤解ノ甚シキモノナリ何トナレバ右第四十六條ニハ

違約處分認可取消ノ訴

約定期日定刻ニ至リ渡米又ハ代金ノ差出ヲ怠ルモノハ違約者ヲ以テ論ストアレトモ必竟同條ハ定欵第九十八條ノ制裁ヲ設ケタルモノニシテ該條ニハ受渡當日午后三時限リ賣主ハ銘柄藏所ヲ屆出テ買主ハ代金ヲ差出スヘシトアリテ要スルニ賣主ノ義務ハ當日藏所ヲ屆出ツルニ止マルモノナリ即チ原告ハ第五號證ノ如ク藏所屆ヲ爲シタルモノナレハ渡米ノ差出ヲ怠リタリト謂フヘカラス元來藏所屆カ實際ノ積立米ト過不足ナキヤ否ヤハ定欵第九十八條末段ニ規定セル現米受渡ノ際ニ至ラサレハ判明セサル道理ナリ即チ賣買者双方立會ノ上現米取調掛カ渡米ノ檢査ヲ爲ス其際不足米アルニ於テ始メテ違約處分ヲ行フヘシ然ルニ本件ハ此等ノ手續ヲ履マス受渡ノ前ニ於テ越權ニモ臨時檢査ヲ爲シ終ヒニ違約處分ヲ行フタルモノニシテ即チ定欵第九十八條及營業細則第四十六條ヲ不當ニ適用シタルモノナリ第四假リニ原告屆出ノ藏所ニ不足米アリタリトスルモ營業細則第二十五條ニ依レハ備米一口ノ高ニ對シ二割以上ノ不足米アルニ非サレハ違約處分ヲ爲スヘカラス而シテ其二割以下ノ不足米ハ三日間ニ之ヲ塡補セシムルコト仝第二十六條ニ規定スル所ナリ然ルニ本件原告ノ不足米ハ取引所ノ取調ニ依ルモ穩五郎分五ヶ所屆高千九百二十五石ニ對シ所謂不足ハ總計二百七十八俵其石高百十一石ニ過キス是レ一割以下ナリ又長次郎分三ヶ所屆高千九百六十石ニ對シ所謂不足ハ總計四百六十五俵其石高百八十六石ナリ是亦一割以下ニ當ルヘシ果シテ然ラハ三日間ニ塡補ヲ命スルハ格別ナレトモ直チニ違約處分ヲ行フハ前記二ヶ條ノ規定ヲ無視シタルモノナリ第五更ニ一歩ヲ讓リ假リニ前記備米一口トハ仲買人一名屆高ノ總計ヲ

云フヘシテ藏所一ヶ所ノ義ナリトスルモ尚且原告ノ計算ニ依レハ本件各藏所ニ就キ二割以上ノ不足米ナキコト明ナリ第六藤田穩五郎ノ取引ニ付テハ山形取引所カ九月三十日抽籤ヲ以テ受渡ヲ結了シ代金二千五百圓ヲ下渡シタルニモ拘ハラス其後右賣買ヲモ破壞シタルハ最モ不當ノ處分ナリ何トナレハ營業細則第五十二條ニハ其賣買ヲ停止シ云々トアリテ取引所ノ權力ハ唯々將來ノ賣買ヲ停止スルニ止マリ其既ニ受渡ヲ結了シタルモノニ至リテハ之ヲ取消スノ權ナカルヘシ斯カル違法ナル處分アリシニモ斯ハラス被告カ本件除名ヲ認可シタルハ益々其當ヲ得サルモノトス依テ被告農商務大臣ハ原告兩名ニ對スル除名ノ認可ヲ取消スヘシトノ判決ヲ請フト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ原告等ハ本件明治二十八年九月期米受渡ノ手續トシテ定欵第九十八條ニ從ヒ仝年三十日各自賣付米ニ對スル銘柄藏所ヲ山形米穀生糸取引所ニ屆出タリ然ルニ當時相場ノ變動甚シキ爲メ一万數千石ノ取組高ニ上リ其正米受渡ニ關シテハ紛擾ヲ起スヘキ虞アリシヲ以テ取引所ハ其職權ヲ以テ役員ヲ派出シ各藏所ニ就キ現狀ヲ調査シタルニ乙第一號及第五號證ノ如ク倉庫積入ノ米穀ハ原告屆出ノ俵數ニ對シ或ハ全ク備付ナク或ハ不足セルコトヲ發見セリ依テ取引所ハ營業細則第四十六條ニ依リ原告ヲ違約者トシテ處分シ又仝細則第五十二條ニ依リ被告ニ對シ原告等除名ノ認可ノ申請ヲ爲セリ而シテ被告ニ於テハ乙第四號證山形縣知事ノ意見及乙第五號證取引所理事長ノ答申答ニ依リ詳査ノ上取引所ノ處置ヲ至當ナリト認メ除名ノ認可ヲ認メタルモノナリ然ルニ今原告カ被告ノ認可ヲ違法且

違約處分認可取消ノ訴

不當ナリト主張スル要點ニ對シ第一原告ハ第六號證各藏主ノ證明書ヲ以テ備米ノ不足セサリシコトヲ證明セントスルモ被告ハ此事後ノ證明ヲ信スル能ハス就中原告カ取引所取調ノ不公平不正確ナリトノ事實申立中ニ取引所ヲ買方ト通謀ニ壯士仝道藏所ヲ見分セリト云フモ固ヨリ其事實ナキモノトス山田庄五郎ノ藏所ニテ積方亂雜ノ爲メ派出員カ細密ナル調査ヲナサスト云フモ本件ノ如キハ勿論數量審査ノ場合ト異ナリ概算ヲ以テスルモ差支ナシ況ンヤ倉主ノ帳簿ニ依リテ當日マテニ預リタル俵數ヲ知ルニ於テハ此調査少シモ不充分ノ嫌アルヲ見ス高桑勇藏其右衛門父字關係ノ點ニ付云々スルモ元來藏所屆ニ記載セル俵數ハ各倉庫毎ニ其積入現狀ヲ記入スヘキモノナレハ彼是相填補スルヲ得ス從テ彼等父子ノ關係ハ毫モ本問題ニ關係ナシ長次郎藏所ノ內平吹祐助長谷川長吉カ一時ノ行違ヨリ積立米ナキトノ證明書ヲ差出セシモ再調査ノ時ハ積立米アリテ先キノ證明書ヲ取消シタリト云フモ被告ハ斯カル事實アルヲ認ムルヲ得ス第二原告ハ實際受渡品ノ數量審査ニ着手スル前ニ於テ取引所カ臨時調査ヲ爲セシハ越權違法ナリト主張スレトモ抑モ仲買人ハ常ニ取引所カ仲買人ノ行爲不正不當ナル場合ニ其買買ヲ停止シ除名ヲ申請スルノ權アルコトハ取引所理事長職務ノ一ナリトス加之取引所ハ仲買人ノ賣買取引上ノ違約ヨリ生スル損害ニ付賠償ノ責ニ任スルコト取引法第十二條及第二十二條ニ明記セルヲ以テ見レハ仲買人ハ恰カモ直接ニ取引所ト賣買スルカ如キ關係ナリ故ニ定期取引ノ履行期日ニ至リ取引所ハ自カラ買主ヨリ代金ヲ差入レシメ賣主ヨリ米穀ヲ受取リ以テ取引所カ賣主ニ對シテハ買主ニ代ハ

リ買主ニ對シテハ賣主ニ代ハリ共ニ自カラ責任ヲ負フモノナリ斯カル責任アル以上ハ其自カラ受取リタル金穀ヲ調査スルハ其職權ニ存スルコト言ヲ俟タサルヘシ故ニ本件臨時調査ノ不當ナラルサコトハ前記法條規約ノ外ニハ別ニ明文アルヲ要セサルナリ第三原告ハ取引所定款第九十八條ニ從ヒ藏所屆ヲ差出シタルカ故ニ營業細則第四十六條ノ渡米ノ差出ヲ怠リタル者ニアラスト主張スレトモ元來藏所屆ハ所謂約定期日ニ至リ差出スヘキ米穀ニ代用スルモノニシテ實際各倉庫ノ現實積立俵數ヲ屆出ツヘキモノトス然ルニ本件ノ如ク虛僞ノ藏所屆ヲ出シタル者ハ恰カモ藏所屆ヲ差出サヽル者ト同一ナレハ之レヲ以テ定款第九十八條ノ義務ヲ盡シタリト謂フヘカラス隨テ營業細則第四十六條ノ渡米ノ差出ヲ怠リタル者ニ該當スルヤ明カナリ又原告ハ本件積立米ノ過不足ハ定款第九十八條末段ノ手續ヲ經ルニアラサレハ之ヲ判明ニスル能ハサルノミナラス右手續ヲ爲シタル上ニアラサレハ違約處分ヲ行フヘカラスト論スレトモ本件ハ前段ニモ述フル如ク取引所カ職權ヲ以テ臨時調査ヲ爲シ其結果藏所屆ノ虛僞ナルヲ發見シ細則第四十六條ヲ適用シタルモノナレハ定款第九十八條末段ノ石數審査ノ規定ヲ適用スヘキ場合ニアラス第四原告ハ細則第二十五條及第二十六條ヲ引證シテ備米一口ノ高ニ對シ二割以上ノ不足米アルニアラサレハ違約處分ヲナスヘカラス二割以下ノ分ハ三日內ニ塡補セシムヘシト云フモ右二ケ條ノ規定ハ數量審査ノ場合ニ適用スヘキモノニシテ本件臨時調査ニ適用スヘキモノナラス第五原告ハ前記備米一口トハ仲買人一名ノ屆高俵數ノ總計ヲ指シタルモノニシテ其總計ヨリ割出シテ不足高ヲ差出スヘシ

違約處分認可取消ノ訴

トシテ云フモ右一口トハ藏所屆中記載ノ每倉庫ヲ意味スルノ語ニシテ不足米ヲ算出スルニハ每倉庫ニナスヘキハ當然ナリ第六原告ハ藤田德五郎一部ノ受渡ヲ爲シタル後ニ至リ取引所カ其受渡ヲモ取消シタルハ不當ナリト云フモ原告ノ藏所屆ハ變僞ニシテ其屆出ノ効ナキ以上ハ取引所ハ細則第四十六條ニ依リ當時速カニ違約處分ヲ爲スヘキハ勿論ナリシ處右處分以前ニ於テ一部ノ受渡ヲ爲サシメタルハ是取引所ノ誤ナラン然レトモ其誤ヲ覺知シタル上ハ之ヲモ取消スハ固ヨリ當然ナリ加之假リニ一部受渡ヲ取消シタルハ不當ナリトスルモ尙ホ米タ受渡ヲ結了セサル部分ニ就テハ違約處分ヲ免ルヽ能ハサルハ勿論ナルカ故ニ右取消ヲ不當トスルノ論旨ハ本件除名認可ノ取消ヲ請求スルノ理由トスルニ足ラサルヘシ要スルニ原告兩人カ受ケタル除名處分ハ毫モ不服ヲ唱フヘキ理由ナキニ依リ原告等ノ要求ハ排斥アランコトヲ請フト云フニ在リ

依テ原破告双方ノ辯論ヲ聽キ證據ヲ關シ證人ヲ訊問シ判決ノ理由ヲ說明スル左ノ如シ

第一本件備米ノ不足アリシヤ否ヤノ点ニ付原告ハ第六號ノ一ヨリ七マテ即チ各藏主ノ證明書ヲ提出レ以テ原告屆出ノ通リ備米ノ現存セシコトヲ主張シ被告ハ之ニ對シテ第一號證山形米穀生絲取引所理事長ヨリ農商務大臣ニ宛タル申告書及乙第五號證同理事長ヨリ山形縣知事ニ宛テタル答申書ヲ援用シ以テ立證ト爲セリ依テ先ツ原告第六號證ヲ見ルニ右ハ各藏主ヨリ原告ニ出シタル證明書ニシテ明治二十八年九月三十日臨時檢査ノ際原告屆出ノ通各自倉庫中ニ備米ノ現存セシ旨ヲ記載シアルモ何レモ同年十月十五日ヨリ翌年二月二十八日

マテノ間ニ作製シテ原告ニ與ヘタルモノナレハ之ヲ以テ臨時檢査ノ當時ニ於ケル備米ノ現狀ヲ確知シ得ヘキ證據ト爲スニ足ルモノト認ムルヲ得ス就中高桑甚右衛門證明書中ニハ米二百五十俵勇藏分右親子同居ノ事故自分倉庫ニ積入タル旨ヲ記載シアルトモ臨時檢査ノ際取引所所員カ勇藏ノ倉庫ニ就キ積立米ノ不足アルヲ認メタルモノナレハ後父甚右衛門方ニモ勇藏分ノ積入アリタリトテ之ヲ以テ勇藏方ノ不足ヲ補フコトヲ得サルモノトス又平吹祐助長谷川長吉ノ證明中ニハ最初取引所員荒井太四郎派出ノ際ニハ各々一時ノ行違ヨリ佐藤長次郎タル名義ノ米ナシトノ證明書ヲ差出セシモ更ニ長次郎ノ請求ニ依リ荒井太四郎再出張シ藏入米充分ナルコトヲ認メ且前ノ證明書ノ取消書ヲ受取リ歸リタル旨ヲ記載シアルモ證人荒井太四郎ノ除述ニ依レハ證人ハ自分一私人ノ資格ニテ再ヒ平吹祐助方ヘ參リ倉庫ヲ檢査セシニ諸所ニ積立米アリシヲ認メ且前ノ證明書取消ノ書面ヲ一私人ノ資格ニテ受取リ歸レリト云ヒ又長谷川長吉方ヘハ再檢査ニ行カスト云ヒ其他證人ノ云フ所ニ依レハ平吹方ヘ再檢査ヲ行タルハ取引所員ノ職務ヲ以テシタルモノニアラス其特歸リタル取消書ハ取引所ヘ差出シタルコトナキカ如シ又積立米ハアリシモ長次郎ノ米ナリシト答フルヲ得ス右證人荒井太四郎ノ陳述ニ依テ見レハ原告第六號證ノ六七八最モ信ヲ措クニ足ラス之ニ反シ被告提出乙第五號證ノ中ニハ藏主中平吹祐助及ヒ長谷川長吉方ニ出張セシ理事荒井太四郎所員小林信正ノ取調書室岡マス齋藤茂助及山田庄五郎方ニ出張セシ副支配人田中金蓬所員佐藤飛久太郎ノ取調書高桑幸助高桑勇藏及渡邊喜助方ニ出張シタル所員田中金蓬所員小林信

正ノ復命書等アリ右取調書復命書ハ取引所理事長ノ命ニ依リ同所役員二名宛一組ト成リ各々仲買人ノ藏所ニ出張シ每藏所ノ藏主又ハ代人立會ノ上ニテ倉庫中ノ積立米ヲ檢査シ或ハ別ニ藏主ノ證明書ヲ取リ其現狀ヲ理事長ニ報告シタル職務上ノ取調書ニシテ臨時檢査當時ニ於ケル各藏所ノ現狀ハ之ニ依テ推定ヲ下スニ足ルモノト云ハサルヘカラス而シテ原告ノ證據書類又ハ各證人ノ申立中ニハ一モ之ヲ打消スヘキ價値ヲ具スルモノアルヲ見ス依テ本件原告等ノ備米ニハ被告乙第五號證ニ云フカ如キ不足米アリシモノト認定セサルヲ得ス

第二原告ハ臨時檢査人取引所定款營業細則其他同等ノ法令規約ニモ規定ナキモノナレハ是レ越權不法ノ處理ナリト云フト雖モ取引所ハ仲買人ノ賣買取引上ヨリ生スル損害ニ付テハ賠償ノ責ニ任スルコト取引法第二十二條ニ規定スル所ナリ然ラハ取引所カ自カラ受授スル金穀ノ數穀ノ數量ヲ檢査スルハ當然ノ義務ナレハ其所屬仲買人ノ藏所ニ就キ屆出ノ米穀俵數ヲ調査スルハ越權ノ處置ナリト云フヲ得ス第三原告ハ假リニ臨時檢査ノ當時不足米アリトスルモ本件ハ營業細則第四十六條ヲ以テ論スヘカラス該條ニ渡米ノ差出ヲ怠リ云々トアレトモ定款第九十八條ニ賣主ハ銘柄藏所ヲ屆出テ云々トアルニ依リ原告ハ所謂藏所ヲ屆出タルモノナリ故ニ渡米ノ差出ヲ怠リタルモノナルカ故ニ虛僞ナル藏所屆ハ是レ無効ノ屆出ニシテ正シク最初ヨリ藏所屆ヲ出サヽルモノト同一ナリ故ニ之ヲ以テ細則第四十六條ノ渡米ノ差出ヲ怠リタルモノト爲シ該條ニ依リ違約者ヲ以テ論スルハ正當ノ當用ナリト云ハサルヘカラス又原告ハ積立米ノ過不足ハ定款第九十八條末段ノ手續ヲ經テ始メテ論スヘキモ

ノナリト云フモ本件ハ既ニ說明セシカ如ク取引所ノ職權ヲ以テ臨時檢査ヲ行ヒ藏所屆ノ虛僞ナルヲ發見シタル場合ナレハ定款第九十八條末段ノ手續ト關係スル所アラス第四點及第五點トシテ原告ノ論スル所モ同シク本件ニ關係スルモノニアラス何トナレハ臨時檢査ノ結果藏所屆ヲ本來虛僞ノモノナリト定メ營業細則第四十六條ヲ適用スル以上ハ更ニ同細則第二十五條ニ依リテ不足高ノ割合如何ヲ論スルノ必要ナケレハナリ第六原告ハ取引所カ藤田德五郎ノ既ニ結了シタル一部受渡ヲモ取消シタルハ不法ナリト云フモ本件ハ前述ノ如ク原告ノ差出シタル藏所屆カ最初ヨリ虛僞無効ノモノナルニ依リ違約處分ヲ爲シタルモノナレハ右無効ノ藏所屆ニ基キ結了シタル一部分ノ受渡ヲ取消スハ當然ノ結果ナリト謂ハサルヘカラス此臨時檢査ノ結果原告等ノ備米ニ不足アルコトヲ發見セシ上ハ原告等ノ出セシ藏所屆ハ虛僞無効ノモノタリ此藏所屆無効タル以上ハ營業細則第四十六條ニ依リ原告等ヲ以テ渡米ノ差出ヲ怠リタルモノトシ違約者ヲ以テ處分シ取引所ヨリ除名ヲ申請シ被告農商務大臣ハ之ヲ認可シタルハ適法ノ處分ニシテ之ヲ取消スヘキノ理由ナキモノトス

右ノ理由ナルニ依リ判決スル左ノ如シ

原告ノ請求相立タス

訴訟費用ハ原告ノ負担トス

土地ノ官民有區分ノ査定ニ關スル訴

明治二十九年第一一三號
明治二十九年七月二日判決

判決要旨

土地ノ官有區分ノ査定ニ關スル訴

官民有地の境界を決定するに際し往昔の地圖面に基きたる爲め實地の形狀に適せざる點ありとするも地租改正の當時戸長及總代か調製連署したるものなるときは之に依り設立したる標木は眞確なるものとす

説明

相當官吏の査定したる土地境界は正確なり其境界の區劃を査定するに付き用ひたる地圖面か往昔の舊圖に基きたりとして不服を唱ふるを得す

原告人　戸田勝之助（焼布縣坂下村大字洞管理者同村外一ヶ村組合長）

被告人　長野大森區署長　伊藤重介　　訴訟代理人營林主事　阿部苑爾

右原告坂上村外一ヶ村組合長戸田勝之助ヨリ被告長野大林區署長伊藤重介ニ對スル土地ノ官民有區分ノ査定ニ關スル訴訟双方ノ辯論ヲ聽キ審理ヲ遂クル處

原告請求ノ要旨ハ被告長野大林區署長ハ明治二十九年十月十七日官林境界調査員營林主事芳野藤太郎ヲシテ飛彈國吉城坂下村大字洞住民山腰其右衛門外八名ノ立會ヲ要シテ同地内字池ヶ原及向洞官林ノ境界ヲ踏査セシメシニ踏査員ハ立會人ノ指示ヲ容レス境界ノ如何ヲモ正サスシテ原告ノ所有地ニ侵入シ境界標ヲ設立シ以テ所有權ヲ毀損シタリ然ルニ該係爭地ハ甲第一號證ノ一二三四乃至第五號證ノ如クニシテ原告自由ニ進退シ來リタルモノヲ被告ハ原告カ明治八九年ノ交地租改正ノ際誤テ天保度ノ繪圖ニ基キ製調シタル乙第一號乃至第三號證ニ依リ論爭スレトモ該證即チ繪圖及取調書ハ根底ヨリ實地ニ相違シアルコトハ甲

第二號證明治十九年一月十六日岐阜縣令小崎利準ヨリ差出シタル誤謬地訂正ノ義ニ付伺書内之ニ對スル大藏大臣ノ指令書又ハ同縣令ヨリ吉城郡長ニ下シタル内訓書等ニ由リ明瞭ニシテ之カ爲メ地押調査ノ上明治廿二年更ニ調製シタル繪圖面ハ正確ナルモノナレハ之ニ據リ境界ヲ定ムヘキハ當然ナリト信ス而シテ被告カ境界標設立ノ箇所ノミニ就キ判決ヲ請ヒタシトノ陳述ハ異議ナキニ因リ速カニ境界標ヲ撤去スヘシト判決アランヿヲ乞フト云フニ在リ被告答辯ノ要旨ハ飛彈國吉城郡坂下村大字洞字池ヶ原及向洞官林ト隣接民有地トノ境界ハ乙第一號證乃至第三號證ニ徴スルニ一方八字下卷ヨリ尾筋ヲ登リ坂上村大字種藏境ニ出ツルヲ以テ原告村共有地字シヤ洞ニ接界シ他ノ一方ハ字下卷及上卷向洞等ノ箇人持民有地ヲ除キ本谷筋ヲ登リ割石道ト管沼道トノ分レニ至リ管沼道ニ沿ヒ坂上村大字管沼境ニ至ルヲ以テ原告村共有地原野及サイノ神ニ接界セリ然ルニ原告村民ハ乙第四號證ノ見取圖中朱點線ヲ以テ官民有ノ境界ナリト主張シ官林境界踏査員ノ調査ニ同意シ難キ旨ヲ以テ其立會ヲ拒絶セシニ因リ無己證據書類ニ基キ字シヤ洞トノ境界ヲ査定シタリ而シテ原告ノ主張ハ明治八年ノ繪圖ハ實地ト相違シ根底ヲ誤ルモノナレハ明治二十二年作製シタル完全ノ繪圖ニ據リ境界ヲ定ムヘキモノナリト云フニアレ共元來地租改正前ハ人民ハ今日ノ如キ所有權ナカリシヲ同改正ニ由リ始メテ所有權ヲ與ヘラレタルモノナレハ即チ地租改正圖ト同帳簿ハ之カ原因トナルモノニシテ地押調査圖ハ地盤ノ處分ヲ許シタルモノニアラス唯丈量ノ錯誤或ハ落地等ヲ調査スルニ止ルモノナルニ該圖ヲ閲スルハ境界變更所アルモ是レ地押調

土地ノ官有區分ノ査定ニ關スル訴

義ヲ許サヽル所ナリ要スルニ岐阜縣令ニ依レハ地押調査ハ人民銘々カ爲スヲ以テ本則トセス故ニ其地圖モ人民ノ任意ニ成作シ得ラルルモノナリ且地押調査ノ規定ハ民有地ノ取扱ノミニシテ官有地ノコトナシ縣廳ハ當時論所ニ官有地ノアルコトニ氣付カサリシナラン

地租改正圖及其帳簿ニ依レハ官林ノ段別モ略相合シ又土地整理ニ於ケル縣知事ノ職權ハ內務大臣ノ訓令アリテ知事ト雖改租ノ時定リタルモノヲ動スコト能ハス右ノ如ク境界ハ地押調査ノ時ニ於テ爲シ能ハサル事柄ニ付原告ノ要求ニハ應スル能ハス且原告ノ請求ハ境界標ヲ撤去セシメントスルニ在レハ他事ニ涉ラス標木設立ノ箇所ノミニ付判決ヲ乞樣爲シタシト云フニ在リ

各證據ヲ閲シ理由ヲ說明スルコト左ノ如シ

原告ニ於テ被告ハ明治八九年ノ交地租改正ノ際誤テ天保度ノ繪圖ニ基キ調製シタル乙第一號證山林繪圖乙第二號證官林取調書土帳乙第三號證地引繪圖ニ依リ論爭スルトモ該證ハ根底ヨリ實地相違シ明治二十二年調製ノ繪圖ハ正確ナルモノナレハ之ニ依リ境界ヲ定ム可キハ當然ナリト云フト雖明治二十二年調製ノ繪圖甲第一號證ノ第一第二第三ノ地臺帳ヲ調製スルニ際シ實況ヲ明確ナラシメンヿヲ目的ト爲シタルコト甲第二號證末尾伺ノ趣開墾地目變換其他異動アル地ヲ除キ町村總地價ニ增減ヲ生セサルモノハ申出ノ通取計不苦旨大藏大臣ノ指令ニ依ルモ明カニシテ官民各地ノ境界ヲ決定スルヲ主意ト爲シタルモノニアラス故ニ該境界ニ就テハ單ニ明治二十二年調製ノ繪圖面ノミヲ以テ正確ナルモノナリト謂フヲ爲

スヽ而シテ乙第一號證洞山林繪圖乙第三號證洞組地引圖ハ假令天保度ノ舊圖ニ基キ或ハ實地ノ形狀ニ適セサル所アリトスルモ地租改正當時ハ戶長副戶長及總代カ調成連署シテ官廳ニ提出シタルモノニ依リ甲第一號證ハ第四及原告提出ノ參考圖ト符合スルノミナラス乙第二證ハ乙第一號證ノ四方境界ヲ擧示シタルモノナルハ該各證ヲ以テ本件係爭境界ノ所在則チ字シヤ洞トノ境界ハ輝藏山峯境ヨリ字下卷ニ下ル尾上ナルヲ認ムルニテ足レリ依テ被告カ官民各地境界査定ノ爲メ設立シタル標木ハ民有地ヲ侵害シタルモノニアラサルヲ以テ撤去セシムヘキモノニアラス

以上ノ理由ナルヲ以テ判決スルコト左ノ如シ

原告ノ請求相立タス

訴訟費用ハ原告ノ負担トス

不當裁決取消請求ノ訴 明治三十年第二十七號 明治三十年七月七日判決

判決要旨

町村制第百十七條に所謂會議の組織とは之に屬すへき議員選擧の方法及其資格任期をも包含すへきものとす

說明

町村制第百十七條第一項に「町村組合を設くるの協議を爲すときは組合會議の組織事務の管理方法並其費用の支辨方法を併せて規定すへし」と規定

せり制は如此其構成を組合の規定に一任したる以上は之に屬すへき議員選擧の方法及其資格任期をも包含すへきものなりとの廣義解釋をなさゝるへからす

原告人　新潟縣北蒲原郡水原高等小學校組合會議町長　安孫子石太郎

被告人　新潟縣知事　勝間田稔　訴訟代理人新潟縣屬　北見東一郎

右原告學校組合會議長安孫子石太郎ヨリ被告新潟縣知事勝間田稔ニ對スル不當裁決取消請求ノ訴原告ノ訴狀ニ就キ被告ノ辯論ヲ聽キ審理ヲ遂クル處原告請求ノ要旨ハ水原町外四ケ村高等小學校組合ハ地方學事通則第一ニ依リ町村制第百十七條ヲ適用シ明治廿五年六月三日組合規則ヲ設ケ其設置ヲ出願セシニ同月廿五日北蒲原郡長之ヲ許可シタリ然ルニ明治廿七年十二月廿六日北蒲原郡役所ヨリ組合規則第四條第五條ヲ訂正スヘシト照會シタリ故ニ明治廿八年二月廿二日組合長ハ其改正案ヲ發シテ組合會議ヲ開キタルニ議會之ヲ否決シタルヲ以テ郡長ハ之ヲ再議ニ附スヘシト命令シタリ依テ同年五月八日組合長ハ之ヲ再議ニ附セリト雖議會ハ前議ノ如ク又之ヲ否決シタリ於是組合長ハ同年六月廿五日郡參事會ヘ裁決ヲ求メ同年八月十五日郡長之ヲ裁決シタルモ組合會ハ之ニ服セス尚進ンテ同月二十四日其取消ヲ縣參事會ヘ訴願シタルニ縣知事ハ明治卅年三月十九日同シク不當ノ裁決ヲ與ヘタリ抑學事通則第二條ニ學校組合ニハ町村制第十七條ヲ適用ストアリ而シテ第百十七條ニ町

村組合ヲ設クルノ協議ヲ爲ストキハ組合會議ノ組織事務ノ管理方法幷其費用ノ支辯方法ヲ併セテ規定スヘシトアリ故ニ組合規則第四條ニ本組合會議員ハ各町村會ニ於テ其町村ノ被選擧權アル者アリ之ヲ選擧ス云々同第五條ニ議員ノ任期ハ四ケ年トシ云々ト規定シタルモノナリ郡町村制第百十七條ニ準據シテ組合會議ノ組織ヲ規定シタルモノニシテ毫モ違法ニアラサルナリ然ルニ縣知事ノ裁決ニ於テ各町村會カ組合會議員ヲ互選セス他ノ被選人ニ就テ選擧セシハ町村會ノ職務權限ニ屬セサルモノナリト云フモ町村制中ニハ組合會議員ノ選擧方法ヲ規定セス而シテ立法ノ精神ハ各地方ニテ其便ト爲ス所ヲ採擇セシムルニ在ルヲ以テ組合ノ各町村長及村會議員之ヲ協議シ其便トナス所即各町村會ニ於テ組合會議員ヲ選擧スルノ方法及其任期ヲ特別ニ規定シタルニ外ナラス又組合會議員ノ任期ヲ町村制第十六條ノ任期ニ依ラシメサルハ不當ナリト云フカ如キハ町村制第百十七條ヲ無視シタルモノニシテ會議員ト組合會議員トハ其組織ニ異ナル所アルモ縣知事ハ之ヲ同一視シタルニハアラサルカ要スルニ其理由ヲ詳悉セサルモノナレハ不備ノ裁決ト云ハサルヲ得ス故ニ其裁決ヲ取消スヘシトノ判決アランコトヲ請求スト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ元來町村組合ハ別段ノ組織ニ歸スルヲ以テ特ニ町村制第百十七條ニ於テ組合會議員ノ組織事務ノ管理方法及費用ノ支辯方法ニ限リ組合規約ニテ規定スルコトヲ許シタルモノナレハ其特別規定以外ノ事件ハ總テ本制ノ規定ニ依ラサルヘカラス且第百十七條ハ町村制ノ本則ニ對スル例外ノ規定ナルヲ以テ其文字ハ極メテ嚴正ニ之ヲ狹義ニ解釋セ

サルベカラス而シテ該條ニ所謂會議ノ組織トハ特別ノ議會ヲ設ケ或ハ各町村會ヲ合シテ會議ヲ開ク單ニ會議其物ノ組成方法ヲ指シタルニ止マリ議員選擧ノ方法並其資格任期等ハ會議ノ組織中ニ包含スヘキモノニアラス而シテ特別ノ議會ヲ組織スルニハ其議員選擧ハ町村制第十一條ニ依リ普通町村會議員ヲ選擧スル場合ト同一ニ一被選擧權ヲ有スヲ町村公民カ其被選擧權アル公民中ヨリ選擧ス可キモノナルニ組合規定ハ之ヲ各町村會ニ於テ選擧セシムルコトヽ爲シ又其任期ノ如キモ町村制第十六條ニ依リ一被町村會議員ト同一ニ六年ノ期限タルヘキモノナルニ組合規定ハ之ヲ四年ト爲シタルカ如キハ共ニ町村制第百十七條ニ所謂會議ノ組織ナル文字ヲ廣義ニ解釋シ隨而町村制ノ本則ニ背犯シタル違法ノ規定ト云ハサルヲ得ス故ニ原告ノ請求ヲ棄却スルヤウ判決アリタシト云フニ在リ

本訴原告被告所爭ノ要点ハ町村制第百十七條ノ組合會議ノ範圍如何ニ在リ而シテ被告ハ該條ニ所謂會議ノ組織トハ單ニ會議其物ノ組成方法ヲ指スニ止マリ議員選擧ノ方法及其資格任期ヲ包含スヘキモノニアラスト云フト雖町村制第百十七條ニハ會議ノ組織トアリテ其構成ヲ組合ノ規定ニ一任シタル以上ハ之ニ屬スヘキ議員選擧ノ方法及其資格任期ヲモ包含スヘキモノト解釋セサルヘカラス從テ水原町外四ケ村學校組合規則ハ町村制ニ背反シタル違法ハ規定ト云フヲ得ス

右ノ理由ニ依リ判決スルヿ左ノ如シ

被告新潟縣知事カ水原町村四ケ村高等小學校組合會議員安孫子石太郎ニ支ヘタル明治卅年三月十九日附ノ裁決ハ之ヲ取消ス

訴訟費用ハ被告ノ負擔トス

大地主互選郡會議員選擧消取ノ訴 明治三十年第二五號 明治三十年七月九日判決

判決要旨

大地主に於て撰擧を行ふときは撰擧人は撰擧七日以前に招集狀を受くるの權利ありと云ふを得す

說明

郡制十八條第一項に曰く「郡長は遲くとも撰擧の日より七日前撰擧人に招集狀を發し撰擧の場所日時を告知す可し」と然れとも仝條項は尋常普通の場合に適用すへくして裁決に依り間日なき場合にまて同項を適用すへしとの精神にあらさるなり故に本訴件の如き場合には十八條一項は適用せらるるものにあらす

原告人　竹山謙三　訴訟代理人　辯護士　鈴木貫之

原告人　千家尊福（靜岡縣知事）　訴訟代理人　靜岡縣屬　鈴木七二郎

右原告竹山謙三外四十三名ヨリ被告靜岡縣知事男爵千家尊福ニ對スル濱石郡大地主互選郡會議員選擧取消ノ訴

原告訴求ノ要旨明治三十年三月十八日濱石郡長青沼沃八松島廉作外三十三名ノ申立ニ對シ審査ノ上大地主名簿ニ登錄ヲ爲シ即時同人等ニ選擧ノ招集狀ヲ發シ翌十九日大地主互選會ヲ執行シタリ原告等ハ之ヲ不當トシ即日濱石郡參事會ニ向テ選擧會取消ノ訴願ヲ爲シ同參事會ハ郡制等十八條第一明文ニ違背シタルモノトシ右選擧會ヲ無効ト裁決シタリ然ルニ横日保外四名ハ之ヲ不當トシ靜岡縣知事ニ向テ該裁決ノ取消ヲ訴願シ同縣知事ハ之ヲ理由アルモノトシ該互選會ハ取消スヘキ限ニアラスト裁決シ而シテ其理由トスル處ハ大地主名簿ナルモノハ選擧ノ期日ヲ豫定シ其期日ノ規定ニ依テ調製ス可キ者ナレバ偶異議ノ申立アリ選擧期日ニ接近シテ名簿ニ登錄セラレタル者アルモ之カ爲メ記日ヲ變更スヘキ者ニ非スト云ヘニ在リ然レ𪜈郡制ハ選擧記日ヲ選擧人確定前ニ豫定ス可キ事ヲ命セサルノミナラス之ヲ命シタリト認ム可キ條文ナシ又被告ハ選擧期日ヨリ七日前ニ於テ其當時資格ヲ有スル大地主一般ニ對シ告知ヲナシタル以上ハ郡制第十八條第一ノ手續ハ盡シタリト云ヒ亦裁決ニ依リ名簿ニ登錄セラレタル者ニ對シテハ此手續ヲ要セサルモノト云ヘトモ郡制第十八條第一ニ郡長ハ遲クトモ選擧ノ日ヨリ七日前選擧人ニ招集狀ヲ發シ云々トアリテ選擧人ハ明カニ選擧七日前招集狀ヲ受タルノ權利アリ亦郡制ノ規定ニ依レハ選擧人ニ非ラサル者ハ何人タリトモ選擧會場ニ入ルコトヲ得ストアリ故ニ假令裁決ニヨリ大地主タル資格ヲ得タルモ[illegible]ト雖モ等シク選擧人ナレハ入場權ヲ有セリ然ラハ遲クトモ選擧七日前ニ招集ノ告知ヲ爲[illegible]ルヿカラス其他ハ勿論[illegible]ト以上ノ如キ理由ナルヲ以テ被告カ與ヘタル裁決ヲ取消ス

明治三十年三月十九日執行シタル濱名郡大地主互撰郡會議員撰擧ハ之ヲ取消スヘシトノ判決ヲ要求スルニ在リ

被告陳辯ノ要旨ハ濱名郡長ハ撰擧ノ期日ヲ明治三十年三月十九日ト豫定シ大地主名簿ヲ製シ之ヲ同年二月十八日管内ニ告示シ而ヲ其豫定期日ニ撰擧ヲ行ハンカ爲メ同年三月十一日撰擧人一般ニ對シ招集狀ヲ發シ撰擧ノ處所日時ヲ告知シ兼テ之ヲ管内ニ告示セリ然ルニ松島廉作外三十三名ハ其氏名カ大地主名簿ニ脱漏セル旨ヲ申立テ之ヲ濱名郡役所ニ受付タルハ同年三月十日ニシテ同郡長カ之ヲ審査シ有格者ト裁決シテ名簿ニ登載シ管内ニ告示シタルハ同月十八日ナリトス而シテ其裁決ニ依リ撰擧人タル資格ヲ得タル者ニ對シテハ即日招集狀ヲ發シ撰擧ノ場所日時ヲ告知シタルモノナリ原告等ハ郡制中撰擧期日ヲ撰擧人確定前ニ豫定スヘキコトヲ命セサルノミナラス此ヲ命シタリト認ムヘキ條文ナシト雖モ郡制第十五條第一項ハ撰擧ノ期日ヲ豫定シ其期日ヲ限界トシテ資格ヲ調査シ大地主名簿ヲ製スヘキコトヲ規定シタルモノト解釋セサルヘカラス又裁決ニヨリ大地主タル資格ヲ得タルモノト雖モ均シク撰擧人ナレハ郡制第十八條第一ニヨリ遲クトモ撰擧七日前ニ招集ノ告知ヲ爲サヽルヘカラスト云フト雖モ同條一ハ撰擧七日前ニ於テ撰擧人タル資格ヲ有スルモノニ對シ適用スヘキモノニシテ撰擧前七日以后ニ於テ其資格ヲ得タルモノニ對シテハ招集狀ヲ發スヘキ期日ノ制限ヲ適用スヘキモノニアラス故ニ撰擧ノ前日即チ三月十八日ニ於テ始メテ撰擧人タル資格ヲ認メラレタル松島廉作外三十三名ニ對シ三月十八日招集狀ヲ發シタルハ適

大地主互選郡會議員選擧取消ノ訴

當ノ所置ニシテ郡制第十八條一ノ手續ハ此ヲ盡シ毫モ違法ノ選擧會ニアラサルモノト確信スルヲ以テ原告ノ訴求ハ排斥アリタシト云フニアリ

依リテ百方ノ陳辯ヲ聞キ説明スル左ノ如シ

本訴要點ハ大土地主ニ於テ行フ郡會議員ノ選擧手續ハ如何ナル場合ニ於テモ必ス郡制第十八條ノ一ニ依據セサルヘカラサルモノナルヤ否ヤニアリ原告ハ郡制第十八條一ニ郡長ハ遲クトモ選擧ノ日ヨリ七日前選擧人ニ招集狀ヲ發シ云々トアリテ選擧人ハ明カニ選擧七日前ニ招集狀ヲ受クルノ權利アリト云フト雖モ郡制第十八條一ハ事實選擧七日前ニ大地主タル資格アルモノニ對シテハ適用シ得ヘキモ選擧會日七日以内ニ於テ其資格ヲ得タルモノニ對シテハ此ヲ適用シ能ハサルコト明カナリ然ラハ則チ同條項ハ尋常ノ場合ニ適用スヘキモノニシテ本件ノ如キ裁決ニ依リ間日ナキ場合ニ於テハ此ヲ適用ス可キ限リアラサルモノト解釋セサルヘカラス故ニ濱名郡長カ選擧會日一日前ニ松島廉作等ヲ右資格者ト裁決シ則日同人等ニ招集狀ヲ發シ選擧ノ場所日時ヲ告知シ其翌日確定ノ選擧ヲ執行シタルハ此ヲ違法ト云フヲ得ス從フテ被告ノ裁決ハ取消シ得サルモノトス其他陳辯スル所アルモ必要ト認メサルヲ以テ說明セス

右ノ理由ニ依リ判決スル左ノ如シ

訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

縣參事會裁決取消ノ訴（明治三十年第二六號　明治三十年七月九日判決）

判決要旨

郡會に於て議員配當法を改正するときは議員全數を改撰すへきものなりと雖其未た改撰若くは補欠撰擧を行はさる以前は舊來の議員は尙其職にあり舊來の郡會は尙未た消滅せさるものとす

說明

郡制第五條末項三「議員配當法を改正するときは議員全數を改正すへし」と規定せるも舊來の郡會消滅すとの規定なく又舊來の議員に對し職務停止すとの規定なし故に舊來の議員を以て組織したる議員撰擧會は之を有効と決定せさるへからす

原告人　伊藤泰造　　訴訟代理人　辯護士　沼田宇源太　島村次男

被告人　宮城縣參事會會長宮城縣知事　樺山資雄　　訴訟代理人　宮城縣參事官　河村金五郎

右原告伊藤泰造ヨリ被告宮城縣知事樺山資雄ニ對スル縣參事會裁決取消ノ訴審理ヲ遂クル處

原告訴求ノ要旨ハ宮城縣桃生郡長ハ同縣告示第七十三號ニ依リ縣會議員撰擧ノ爲メ明治十九年七月十五日ヲ以テ桃生郡々會議員等ヲ同郡々役所ニ招集シタルニ出席議員過半數ニ滿

タサルカ爲メ更ニ同年八月二日再回招集シタリ此日モ亦出席議員過半數ニ滿タサレトモ再回開會ニ係ルヲ以テ其儘撰舉ヲ行ヒタルニ原告伊藤泰造得點多數ナルヲ以テ郡長ハ原告ヲ以テ當撰者ト指定セリ然ルニ之ヨリ先キ同郡ノ内深谷村ハ廣淵、北村、須江、赤井、大塩ノ五ヶ村ニ分離シタルコアリシヲ以テ遠藤今五郎外七名ヨリ訴願ノ中宮城縣參事會ニ於テハ右五ヶ村選舉ノ議員ヲ會同シ以テ選舉ヲ行フヘキニ之ヲ爲サヽリシハ違法ナリトノ理由ヲ以テ本件縣會議員撰舉會ハ無効ナリト裁決セリ而シテ該裁決ノ趣旨タル深谷村カ五ヶ村ニ分離シタル上ハ郡制第五條末項ニ因リ全部議員改正ヲナシ更ニ郡會ヲ組織セルヘカラス然ルニ從來ノ議員ヲ以テ組織セシ郡會ハ無効ナリト云フニ在レトモ是レ不當ノ見解ナリトス何トナレハ郡制第五條ニ於テ撰出スヘキ議員各村一名ヲ以テ原則トナスモ議員ノ多數又ハ少數ニ偏スルトキハ却テ自治体ノ本趣ニ戻ルノ恐アルヲ以テ其定數ヲ十名以上二十名以下ト制限セリ故ニ各村一名ノ原則ニ基キテ撰出シタル議員ノ數カ彼ノ十名以上二十名以下ノ定數ニ抵觸セサル限リハ別ニ配當法ヲ用フヘキ必要ナシ隨而議員全數ヲ改正スヘキ道理モナシ現ニ郡制第五末條項ニハ議員配當法ヲ改正スルトキハ議員全數ヲ改正スヘシトアリテ配當法ヲ用フヘキ場合ニ限リテ全數ヲ改撰スヘキコト明瞭ナリ然ルニ本件深谷村カ五ヶ當ニ分裂シタルモ其總數十九ヶ村ニシテ撰出スヘキ議員二十名以上ニアラサレハ該條ノ配村法ヲ用フヘキ必要ナキノミナラス全數改撰ヲ行フヘキモノニアラス又縣參事會ハ郡制第五條第四項ヲ以テ町村數ニ增減アルトキハ直ニ議員配當法ヲ改正スヘシトノ命令法ノ如ク解

釋スレトモ元來之ヲ改正スルト否トハ郡會ノ權内ニアリ改正セスシテ郡會ヲ組織スルモ本條ノ明文ニ反スル處ナシ且假リニ本條第四項ハ命令法ナレハ此場合ニ於テ同條末項ニ從ヒ全數ヲ改撰スヘシトスルモ本件ノ如キ未タ配當法ヲ改正セス又改撰ニ着手セサル間ハ議員ノ資格ニ變動ヲ生スルノ道理アラサル以上ハ現議員ヲ以テ組織シタル郡會ハ違法ノ郡會ト云フヲ得サルヘシ依テ明治三十年二月七日附宮城縣參事會ノ裁決ヲ取消シ更ニ明治二十九年八月二日桃生郡役所ニ於テ執行シタル縣會議員撰舉會ハ適法ニシテ有効ナリトノ判決アランコトヲ請フト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ本件事實ノ点ハ原告ノ中立ト異ナル所ナキモ宮城縣參事會カ本件撰舉會ヲ無効ト裁決シタルハ其撰舉會カ適法ニ成立セサリシ故ナリ抑モ郡制第五條第一項乃至第三項ハ町村ニ於テ撰舉スヘキ郡會議員ノ配當ニ關スル方法ヲ規定シタルモノナルコトハ其第四項ニ本條議員配當法ハ云々トアルヲ以テ見ルモ明ナリ原告ハ本條第一項ハ各町村一名ト原則ヲ示シタルモノニシテ此原則ヲ適用スヘカラサル場合ニ限リ配當法ヲ應用スヘシト云フモノ町村ニ一名乃至數名ヲ置クモ數町村ニ一名ヲ置クモ等シク是レ議員ヲ配當スルノ方法ナリ而シテ本件桃生郡ハ元深谷村外十四ヶ村ニシテ議員十五名ナリシモ深谷村カ五ヶ村ニ分離シタル以上ハ同時ニ其配當ノ方法ヲ改正シテ十九名ト爲サヽルヘカラス又假リニ本件ハ原告ノ云フ如ク配當法ノ改正ニアラストスルモ法理上ニ於テ分村ノ場合ニ際シテハ議員ノ全部改選ヲ爲サヽルヘカラス何トナレハ郡會ノ成立要素ハ郡制第四條第五條第八條

ニ規定シタル如ク郡内ノ町村數ヲ以テ定數トナセル町村選出議員ニ其定數三分ノ一ヲ以テ定數トナセル大地主議員トヲ以テ組織セラルヘキモノナルカ故ニ一村分離シテ數村トナリ新村成立シタル以上ハ舊郡會ハ當然消滅シ舊議員ハ同時ニ其職ヲ解カレタルモノナレハナリ要スルニ本件ハ之ヲ議員配當法ノ改正ト見ルト否トニ拘ハラス分村後ハ直チニ議員ノ全部ヲ改選スヘキモノナリ然ルニ之ヲ改選セス舊來ノ議員ヲ以テ郡會ヲ組織シ以テ縣會議員ノ選擧會ヲ開タルハ郡制第五條ニ背反シタル無効ノ選會ナレハ縣參事會ノ裁決ハ不當ニアラス依テ原告ノ訴求ハ排斥ヤラレンコトヲ請フト云フニ在リ

依テ原被双方ノ辯論ヲ聽キ理由ヲ說明スル左ノ如シ

被告ハ本件深谷村カ五ケ村ニ分離シタル以上ハ舊郡會ハ當然消滅シ舊議員ハ直チニ其職ヲ解カレタルモノナリ故ニ分村後ハ直チニ議員ノ全部ノ改選スヘシ然ルニ之ヲ改選セス舊議員ヲ以テ郡會ヲ組織シ縣會議員ノ選擧會ヲ開キタルニ郡制第五條ニ背キタル無効ノ選擧會ナリト云フト雖郡制第五條ニハ議員配當法ヲ改正スルトキハ議員全數ヲ改選スヘシトアルノミニシテ舊來ノ郡會直チニ消滅ストノ規定ニアラス而シテ郡制中議員全數ヲ改選シ若クハ補欠選擧ヲ行フ場合ニ於テハ舊來ノ郡會議員職務ヲ停止スヘキコトヲモ規定セサルニ依リ其未タ改選若クハ補欠選擧ヲ行ハサル以前ニ在リテハ舊來ノ議員ハ尙其職ニアリ舊來ノ郡會ハ尙未タ消滅セサルモノトス然ラハ本件深谷村分村ノ後ニ於テ舊來ノ議員ヲ以テ組織シタル縣會議員選擧會ハ郡制第五條ニ背キタル無効ノ選擧會ナリト云フヲ得ス其他双

方辯スル處アルモ本件判決ニ必要ナラサルヲ以テ之カ說明ヲ與ヘス依テ判決スルコト左ノ如シ

明治三十年二月七日附宮城縣參事會ノ裁決ヲ取消シ明治二十九年八月二日桃生郡役所ニ於テ執行シタル宮城縣會議員選擧會ヲ有効トス

訴訟費用ハ被告ノ負擔トス

村會議員不當選擧取消ノ訴

明治三十年第二二號
明治三十年七月九日判決

判決要旨

村會議員を撰擧するに當り投票を別紙に記載して封筒に入れしめさるも單に此の事實のみを以て違法の撰擧と云ふを得す

說明

投票の投入を爲さしめす又は投票の無効を來したる事實ありて始めて選擧人の權利を妨害したるものと云ふ無効の條件を掲示するも其結果權利の妨害を爲さるるに於ては違法の選擧と云ふを得す

原告人　村岡部康國外十名
被告人　一ノ瀨傳三郎

右原告岡部康國外十名ヨリ被告村長一ノ瀨傳三郎ニ對スル村會議員不當選擧取消ノ訴被告ハ書面審理ヲ請求シ原告ハ開廷當日出頭セサルニ依リ訴狀及答書ニ就キ審理ヲ遂クル處

村會議員不當選擧取消ノ訴

仲裁人ノ井手喜總太カ口頭ノ申立ニ依リ

原告陳述ノ要旨ハ第一被告ハ撰擧人名簿縱覽期間内ニ於テ井手喜總太カ口頭ノ申立ニ依リ村會ノ議決ヲ經スシテ之ヲ修正シタリ是町村制第三十七條ニ違背スルモノナリ被告ハ乙第一號證ヲ以テ修正ヲ爲シタルハ縱覽期日前明治二十八年三月四日ナリト云フモ村長カ名簿調製ニ着手セシハ同三月十五日ニシテ同四月四日ヲ以テ決了シ其翌々六日ヨリ縱覽ニ供シタリ若シ乙第一號證ノ如クセハ井手又次郎父子ハ名簿調製前既ニ其誤謬ヲ知得シテ修正ヲ申出テタルモノト云ハサルヘカラス彼等如何ニシテ其調製前誤謬ヲ發見スルヲ得ヘキハ其虛妄ナル素ヨリ明白ナリ而シテ縣參事會ハ村長ノ證明取消ハ井手親子及助役ノ申立ニ依リ爲シタルモノナレハ虛搆ト云フヲ得スト云フモ其誤謬ヲ申立テタルハ井手又次郎親子ニアラスシテ喜總太ノ一人ナリシニ乙第一號證ニハ井手又次郎親子ヨリ申立テタルヤノ如ク記載シアリ是甲第八號證ニ於テ陳辯セシ如ク同父子ノ文盲シ奇貨トシテ村役場書記カ代書シタル僞證ナルヲ自白スルモノナリ又村長ハ四月二十七日號外ヲ以テ甲第一號證證ヲ取消シタリト云フモ我々原告ハ該書ニ接シタルコトナシ隨テ書類送達ノ證左ナシ被告或ハ言ハン人民ニ公文書類ヲ送達スルニ受領證ヲ徵セサルハ一般ノ慣行ナリト然レトモ訴願ニ關スル書類ノ送達ニ付テハ決シテ受領證ヲ徵セサルコトナシ現ニ乙第二號證ニ對シテ第三號證ノ通リ受領證ヲ差出シタリ第二被告カ選擧人控訴ニ甲第二號證掲示ヲ爲シタルハ違法ナリ何トナレハ投票ハ別紙ニテ封緘スルモ又ハ封緘セサルモ法律ノ禁セサル所又選擧スヘキ人員ニ過不足アルモ法律ノ許ス所ナリ然ルニ之ヲ禁シテ何レモ投函スルヲ得サラシメタルハ選

擧人ノ權利ヲ妨害シタモノニシテ選擧ノ定規ニ違背スルモノナリ以上ノ次第ナレハ本件選擧ハ違法ナルニ依リ之ヲ取消サレタシト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ原告ハ甲第一號證ヲ以テ被告ハ選擧人名簿縱覽期日内ニ之ヲ修正シタリト云フモ該期限ハ明治二十八年三月六日ヨリ同十二日迄ニシテ其修正ヲ爲シタルハ同年三月四日則名簿縱覽期限前ナルコトハ本人タル井手嘉總太ノ證明則被告ノ乙第三號證ニ依リ明瞭ナリ而シテ甲第一號證ハ被告ノ乙第五號證ニテ無効ニ歸シタルモノナレハ何等ノ價値ナク證據ト爲スヘキモノニアラス又原告ハ甲第二號掲示ハ町村制ノ範圍外ニ出テ選擧權ヲ妨害シタルモノナレハ本件選擧ハ町村制ノ規定ニ違反スルモノナリト云フモ右掲示ハ選擧ノ立會人ト協議シ各選擧人ヲシテ完全ニ投票ヲ爲サシメン爲メ注意ヲ爲シタルニ過キス則從來ノ慣例ニ徵スルニ選擧ノ結果ニ紛雜ヲ來スハ多々之レ等ニ起因シ殊ニ別紙ニ記載シテ之ヲ封筒ニ納ルヽ如キハ最モ紛雜ヲ生スル媒介タルヲ以テ可成之ヲ避クルノ旨趣ニ外ナラス而シテ當時其投票結果ノ如何ト云フニ各選擧人何レモ其掲示ニ據リ完全ニ投票ヲ爲シ一名ノ棄權者タモアラサリシヲ以テ觀レハ毫モ選擧人ノ權利ヲ妨害シタル事實アルコトナシ以上ノ次第ナレハ本件選擧ハ違法ニアラスト云フニ在リ

依テ證據ヲ閲シ理由ヲ說明スルコト左ノ如シ原告ハ被告ハ選擧人名簿縱覽期間内ニ其修正ヲ爲シタリト云ヒ甲第一號證ヲ以テ之ヲ立證スルモ該證ハ村長ニ於テ之ヲ取消シタルモノナレハ證據ト爲スノ力ナク隨テ其事實アリト認ムルヲ得ス又原告ハ本件選擧ハ被告ニ於テ

村會議員不當選擧取消ノ訴

甲第二號證ノ如ク法律以外ノ制限ヲ設ケ選擧人ノ權利ヲ妨害シタルモノナレハ選擧ノ定規ニ違背スルモノナリト云フト雖之レカ爲メ投票ノ投入ヲ爲サシメス又ハ投票ノ無効ト爲シタルハ事實アルニアラサレハ無効ノ條件ヲ掲示セシニ過キスシテ違法ノ選擧ナリト謂フヲ得ス

右ノ理由ニ依リ判決スルコト左ノ如シ

原告ノ請求相立タス

訴訟費用ハ原告ノ負担トス

不法工事差止請求ノ訴

明治三十年第三七號
明治三十年九月廿二日判決

判決要旨

行政裁判所に於て既に却下の裁決を爲したる事件に付ては行政裁判法第十九條の規定に抵觸するを以て受理す可き限りにあらす

説明

行政裁判法第十九條の(行政裁判所の裁判に對しては再審を求むることを得す)と規定せり故に既に裁決を受けたる事件に付ては再ひ訴ふることを得さるものとす

原告人　石山義孝　訴訟代理人　辯護士　江木衷

右原告村長石山義孝ハ被告縣知事菊池九郎ニ係ル本年第三十七號不法工事差止請求ノ訴ニ

對スル當裁判所ノ却下裁判ニ服セスシテ更ニ抗告ヲ爲シタリ之ヲ審査スルニ原告ノ請求ハ郡長ハ普通水利組合及水害豫防組合ヲ監督スルノ權アル者ナルヲ以テ名義ノ如何ニ拘ハラス兩個團体中ノ一方カ他ノ一方ノ權利ヲ害シタルトキハ其救濟方法ヲ郡長ニ請求シ郡長ハ職務上其監督權ヲ以テ之カ處分ヲ爲サヽルヘカラス故ニ郡長以上ノ處分ハ少クトモ之ヲ行政處分ト見做シ此處分ニ對シテハ行政訴訟ヲ許サヽル可カラス本件ハ訴願ノ名アルモ其實郡長ニ不法工事ヲ中止センコトヲ請求シタルモノニシテ此請求ニハ期限ナシ然ルニ郡長カ期限ヲ經過セルモノトシタルハ素ヨリ不當ナリ而シテ郡長ノ此請求ニ對スル指令指揮ハ則チ行政處分ニシテ原告ハ之ニ對シテ訴願シタルモノニ外ナラサルニ被告ハ本年四月二十八日附ノ裁決ヲ與ヘタリ依テ此裁決ヲ取消シ飽海郡日向川水害豫防組合管理者カ從來日向川字與平河原ニ在ル配水口ヨリ十一町余ノ下流ニ施行中ナル工事ヲ中止スヘキモノトノ裁決ヲ仰クト云フニ在レトモ本件ハ當裁判所ニ於テ已ニ却下ノ裁決ヲ爲シタルモノナレハ行政裁判法第十九條ノ規定ニ抵觸シ受理スヘキ限リニアラサルヲ以テ之ヲ却下ス

通河錢取立處分取消請求ノ訴

明治三十年第七五號
明治三十年九月二十七日判決

判決要旨

通河錢取立特許に對する取消請求は法律勅令に於て行政訴訟の提起を許したるものにあらさるを以て行政訴訟を起すことを得す

説明

行政訴訟は法律又は敕令に規定せる場合又は明治二十三年六月法律第四十八條行政裁判法に規定せる以外の事件に付ては之を提起するを得す故に本件の如き法律敕令等に行政訴訟を許したる規定なきものにありては之を提起するを得さるなり

原告人　大西駒次郎　地崎淺吉　訴訟代理人　辯護士　磯部四郎　齋藤孝治

右原告寺郷卯吉外十一名より被告三重縣知事田邊輝一に對スル通河錢取立處分取消請求ノ訴ヲ審査スルニ

原告方ハ被告カ多氣郡宮川水流ニ付一本流ニモ通河錢ヲ取立ツルコトヲ許可セシハ不當ノ處分ナルニ依リ之レカ取消ヲ請求スト云フニ在レトモ本件ハ法律勅命ニ於テ行政訴訟ヲ提起スルヲ許シタルモノニアラサレハ受理スヘキ限ニアラス依テ行政裁判法第二十七條ニ依リ本訴ハ之ヲ却下ス

縣會議員補欠選擧取消ノ訴

明治三十年第一四號　明治三十年十月六日判決

判決要旨

府縣會議員選擧の効力に付ては府縣參事會の裁決を受け而して不服なる場合にあらされは行政訴訟を起すことを得す

說明

府縣制第十一條に(當選人選擧の効力に關し　願せんとするときは選擧

の日より十四日以内に之を府縣知事に申立ることを得)仝制第十四條に(府縣會議員被選權の有無及選擧の効力は府縣參事會之を裁決す)第二項「府縣參事會の裁決に不服なる者は行政裁判所に出訴することを得」と規定せり依之觀之府縣會議員選擧の効力に就ては右二個條に隨ひ知事を經由し府縣參事會の裁決を受けさるへからす而して其裁決に不服なる場合に於て始めて行政訴訟を提起し得可きものとす故に其裁決を受けすして直に訴訟を提起せんとするは擧竟法の順次を誤りたるものにして固とより受理の限りにあらさるなり

原告人　大橋頼模　被告人　千家尊福

右原告大橋頼模より被告靜岡縣知事男爵千家尊福ニ係縣會議員補欠選擧取消ノ訴訟狀ニ就テ審査スルニ

原告訴求ノ要旨ハ明治三十年四月二十日磐田郡會及同郡參事會及同縣議員補欠選擧ニ於テ横井傳右衛門ハ府縣制第四條第一項ノ要件ヲ具備セサルニ由リ同人ヲ以テ當選人ト爲セシハ別件縣參事會裁決ノ如ク全ク在定ヲ誤リタルモノナルニ付キ之ヲ除ケリ即チ有効投票ノ多數ヲ得タル原告ヲ以テ當選人ヲ指定ス可キハ勿論ノ次第ナルニ被告ハ右横井傳衛門ノ當選無効ヲ以テ議員中欠員ヲ生シタル場合ト同一視シ明治三十年五月二十八日告示第四十六

縣會議員補欠選擧取消ノ訴

號及同年同月三十日告示第四十九號ヲ以テ更ニ磐田郡選出縣會議員ノ補欠選擧ヲ執行セシメタルハ頗ル不當ニ付其取消ヲ要スト云フニ在レトモ府縣會議員選擧ノ効力ニ就テハ府縣制第十一條及第十四條ニ從ヒ先ツ府縣參事會ニ訴願シ其裁決ヲ受ケ尚ホ不服ナル場合ニ於テ始メテ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ルモノニシテ初メヨリ直ニ行政裁判所ニ出訴ス可キモノニアラス而ルニ本件補欠選擧取消事件ニ就テハ右訴願經由ノ手續ヲ履マサルヲ以テ行政裁判所ニ於テハ之ヲ受理スル限リニアラス

右ノ理由ナルヲ以テ行政裁判法第二十七條ニ依リ本件ハ之ヲ却下ス

縣會議員當選裁決不服ノ訴 明治三十年第四五號 明治十三年月六日裁決

判決要旨

被選擧權の有無並に選擧の効力に付き爭ふことなく單に當選人の指定を請求するに止まる事件に付ては行政訴訟を起すことを得す

說明

當選人の指定を訴求するには被選擧權の有無並に選擧の効力を論難せざるべからす然らざれは單に其指定を訴求するのみにては行政訴訟を提起するを得す何とされは斯る事件にありては法律又は敕令等に行政訴訟を許したるものあらざれはなり

原告人 大橋頼模

被告人 千家尊福

右原告大橋頼模ヨリ被告靜岡縣知事男爵千家尊福ニ係ル縣會議員當選裁決不服ノ訴訟狀ニ就テ審案スルニ

原告訴求ノ要旨ハ明治三十年四月二十日磐田郡會及同郡參事會々同縣會議員ノ選擧ヲ行ヒシニ當選人中横井傳右工門ハ府縣制第四條ノ資格ヲ具ヘサルモノニシテ同人ニ對スル投票ハ無効ナリト思料スルニ付明治三十年四月二十三日右横井傳右工門ノ當選ヲ取消シ原告ヲ以テ當選人ト指定ス可キ旨ヲ原告ニ訴願セシ處被告ハ願意ノ一部ヲ容レ横井傳右工門ノ當選ヲ取消シタレトモ縣參事會ハ當選人ヲ定ムル裁決ヲ爲スノ權限ナシトノ趣旨ヲ以テ原告ヲ當選人ト指定スル裁判ヲ爲サス然レトモ横井傳右工門ノ當選ニシテ已ニ取消トナリタル以上ハ有効投票ノ多數ヲ得タル原告ヲ以テ當選人ト定ムヘキハ言ヲ待タサル次第ナルニ付右縣參事會ノ裁判ヲ取消シ原告ヲ以テ當選人ト爲ス可キモノナリトノ裁判ヲ受ケタシト云フニ在レトモ本件ノ如ク被選擧權ノ有無並ニ選擧効力ニ付些モ爭フ所無ク單ニ當選人ノ指定ヲ請求スルニ止マル事件ニ對テハ府縣制ハ勿論他ノ法律敕令中行政訴訟ヲ許スヘキノ規定ナキヲ以テ本件ハ之ヲ受理スヘキ限リニアラス

右ノ理由ナルヲ以テ行政裁判法第二十七條ニ依リ本件ハ之ヲ却下ス

違法處分取消ノ訴 明治三十年第七一號 明治三十年十月七日判決

判決要旨

縣會議員當選裁判不服ノ訴　違法處分取消ノ件

諮問に反して境界變更を實行したれはとて行政訴訟を起すことを得す

明治三十年第六六號 明治三十年十月八日判決

說明

行政訴訟を提起し得へき事件は法律又は勅令等に依り認定せられたるものならさるへからす本件の如き法其認定以外に屬するものなるを以て固とより受訴の限りにあらさるなり

原告人　横山庄五郎

被告人　湯本義憲

右原告横山庄五郎ヨリ被告岐阜縣知事湯本義憲ニ對スル違法處分取消ノ件ノ訴狀ニ就テ審案スルニ

原告訴求ノ要旨ハ原告ハ町村境界變更ノ義ニ付地主ノ關係ニ依リ郡長ノ諮問ヲ受ケタルヲ以テ之ニ向テ異議ノ答申ヲ爲シタリ然ル上ハ郡長ハ責任ヲシテ其處分如何ヲ報道スヘキ筈ナル事茲ニ出テスシテ遂ニ境界變更ヲ實行シタリ此ノ如クナルキハ郡長ノ原告ニ對シテ爲シタル諮問ハ最モ有名無實ノ行爲ニ屬シ猶且其處分ノ如何ヲ報道セサリシカ如キハ原告ノ爲シ得ヘキ訴願ノ道ヲ遮斷シ將サニ行フヘキ裁判ヲ妨害シタル不法處分ニ涉ルヲ以テ之カ取消ヲ請求スト云フニ在レトモ本訴ノ如キハ町村制其他法律勅令中行政訴訟ヲ許ス規定ナキヲ以テ受理スヘキ限リニアラス

右ノ理由ナルヲ以テ本訴ハ行政判裁法第二十七條ニ依リ之ヲ却下ス

不當處分取消請求ノ訴

明治三十年第六六號 明治三十年十月八日判決

判決要旨

拂下地代金の完納に至るまての間該地の性質官民有區分を明確に指令すへしとの請求は行政訴訟を起すことを得す

說明

行政訴訟を提起するには法令の認許したるものならさるへからす本件の如き明治二十三年法律第百六號(行政廳の違法處分に關する行政裁判)は勿論其他法律勅令に於て認許したる規定なきを以て行政裁判所は其訴を受理す可からさるものなり

原告人　鈴木孫兵衛

被告人　中野健明

右原告鈴木孫兵衛ヨリ被告神奈川縣知事中野健明ニ對スル土地ノ官民有區分ニ起因スル不當處分取消ノ訴訟狀ニ就キ審査スルニ

原告訴求ノ要旨ハ原告カ明治三十年四月二十八日被告縣廳ニ差出シタル土地ノ官民有區分ニ關スル伺書ニ對シ同年六月十九日何分ノ指令ヲモ與ヘスシテ却下シタル不當處分ヲ取消シ横濱市藤町三丁目百四十七番宅地二百七十二坪六合四勺ヲ明治十五年六月二十二日原告ヘ拂下ケタル中ヨリ該地代金ノ完納ニ至ル迄ノ間該地ノ性質官民有區分ヲ明確ニ指令スル

シトノ判決ヲ請フト云フニ在レトモ本件ノ如キハ明治二十三年法律第百六號及其他法律勅令中行政訴訟ヲ許シタル規定ナキヲ以テ受理スヘキ限リニアラス

右ノ理由ナルヲ以テ行政裁判法第二十七條ニ依リ本訴狀ヲ却下ス

郡會議員選擧ノ効力ニ關スル訴　明治三十年第六九號　明治三十年十月九日判決

判決要旨

郡會議員選擧の効力に關しては郡制第二十二條の規定に從ひ選擧人の外訴願することを得す

說明

選擧の効力に關する事局は選擧有權者たるにわらされは訴願することを得さるは論を俟たさる所なり故に良し其有權者にわらさるもの其効力に付き訴願するも固とより無効のものたり既に無効のものたる以上は從ふて行政訴訟を起すことを得さるや明瞭とす

原告人　芝尾幸太

被告人　杉本重遠

右原告東山香村々長芝尾幸太ヨリ被告大分縣知事杉本重遠ニ係ル郡會議員選擧ノ効力ニ關スル訴ヲ訴狀ニ就キ審査スルニ

原告訴求ノ要旨ハ明治三十年五月七日大分縣東山香村郡會議員選擧ノ爲メ同村々會議員ノ

召集ヲ爲スニ當リ議員總數十二名ナルニ其内都甲八郎ニ限リ召集狀ヲ發セサリシトノ故ヲ以テ該選擧ハ無効ナリトテ村會議員大塚賢太郎外一名ヨリ郡參事會ニ訴願シ郡參事會ハ之ヲ有効ナリト裁決シタルモ尚ホ又縣參事會ニ訴願シタルニ縣參事會ハ本件召集狀ヲ發シタルノ證據ナキ以上ハ選擧會ハ無効ナリト裁決シタリ然レトモ本件ニハ村長及助役カ召集狀ヲ使丁ニ渡シタルノ事實ヲ證言セリ縣參事會ハ此等ノ事實ヲ取調ヘスシテ不當ニモ選擧會ヲ無効ナリト裁決セリ故ニ原告ハ爰ニ行政訴訟ヲ提起シ村長カ規則慣習ヲ遵守シ職責ヲ全フシタルコトヲ判明ナラシメントス依テ本訴大分縣參事會ノ裁決ヲ取消シ更ニ郡會議員選擧會ハ有効ナリトノ判決ヲ請フト云フニ在レトモ郡會議員選擧ノ効力ニ關シテハ郡制第二十二條ノ規定ニ從ヒ選擧人ノ外訴願スルコトヲ得サルモノナリ故ニ原告ハ本件選擧ノ効力ニ就キ訴願訴訟ヲ爲スコトヲ得サルモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ行政裁判法第二十七條ニ依リ本訴ハ之ヲ却下ス

不當許可取消請求ノ訴　明治三十年第七九號　明治三十年十月九日判決

判決要旨

他人の得たる營業免許の取消請求は明治二十三年法律第百六號のみに規定せる營業免許の拒否又は取消に關する事件の範圍に入る可きものにあらす

說明

郡會議員選擧ノ効力ニ關スル訴　不當許可取消ノ訴

明治二十三年法律第百六號(行政廳の違法處分に關する行政裁判)中第三號に營業免許の拒否又は取消に關する事件)とあり此規定たる自己の營業に關する免許の拒否又は取消事件と解釋す可きものなり故に他人の得たる雖も營業免許の取消を請求せんとする事件は此違に包含せざるを以て固より行政訴訟提起の範圍に入るへきものにあらす況んや法律敕令に於て出訴を許したる規定なきに於ておや

原告人　水野政七外五名

被告人　野田耕文

右原告水野政七外五名ヨリ被告神奈川縣横濱市伊勢佐木町警察署警部野田耕文ニ對スル湯屋營業願ニ對スル不當許可取消ノ訴ヲ訴狀ニ就キ審査スルニ

被告訴求ノ要旨ハ曩キニ横濱市萬代町二丁目三十五番地杉山辰次カ伊勢佐木町警察署ヘ出願シ許可ノ上雲井町一丁目ニ湯屋營業ヲ創メタルモ右出願書ニハ四隣ノ達署ナキヲ以テ明治十七年神奈川縣甲第四十二號浴湯營業規則ニ違背シタルモノナルニモ拘ハラス被告警察署長カ之ヲ許可シタルハ違法ノ處分ナルニ依リ該許可ノ指令ヲ取消スヘキ樣判決ヲ請フト云フニ在レトモ本件ハ他人ノ得タル營業免許ノ取消ヲ請求スルモノニシテ明治二十三年法律第百六號ノミニ規定セル營業免許ノ拒否又ハ取消ニ關スル事件ノ範圍ニ入ルヘキモノニアラス又他ノ法律勅令ニ於テ本件ノ如キ出訴ヲ許スノ規定ナキヲ以テ訴ハ受理スヘキノ限リニ非ラス

右ノ理由ナルヲ以テ行政裁判法第二十七條ニ依リ訴本ヲ却下ス

村稅滯納處分取消ノ訴

明治三十年第三一號
明治三十年十月十二日判決

判決要旨

國稅滯納處分法に據りて財產を差押ゆるものは必す其調書を作製せさる可からす

說明

國稅滯納處分法第二十四條に(財產を差押へたるときは收入官吏其差押調書を作り云々とあり而して此法意たる縱令滯納事實に爭ゐなき場合と否とを問はす苟も財產を差押へたるときは其調書を作製す可しとのことなるや明かなりされは本件の如き差押たるに拘らす其調書を作製せさる事は違法なりと云ふ可し

原告人　原子彥太郎

被告人　牧　扑眞

訴訟代理人　三浦慶作

右原告原子彥太郎ヨリ被告青森縣知事ニ係ル村稅滯納處分取消ノ訴原被双方ノ辯論ヲ聽キ審理スル處

原告陳述ノ要旨ハ明治二十八年八月二十八日青森縣東津輕郡大野村長神三藏カ村稅滯納ノ

廉ヲ以テ原告ニ對シ執行シタル財産差押處分ハ違法ナルニ依リ之レカ取消ヲ郡長ニ訴願シ更ニ縣知事ニ訴願シタルニ何レモ原告ノ申立ハ不相立旨ノ裁決ヲ受ケ之ニ服從スルコト能ハス本訴ヲ提起セリ而シテ第一原告ハ事實曾テ適法ノ督促令狀ノ送達ヲ受ケタルコトナシ被告ハ督促令狀ノ日附ハ處分執行前五日ニシテ現ニ原告ノ中ニ存在シアルヲ以テ見レハ村長カ違法ニ發送シタルモノト認メサルヲ得スト論セラルヽモ實際村長カ原告方ニ送達シタル令狀ノ日附ハ明治二十八年八月十五日ナルニ送達書ノ日附ハ仝年四月十五日トアリ要スルニ被告ハ督促令狀ノミヲ認メテ送達書ヲ無視セラルヽモノナリ第二縱令督促狀ノ送達アリタルモノトスルモ明治二十八年八月十五日ニ送達シタリトスレハ八月二十一日ニ執行スヘキモノトス然ルニ二十日ヲ以テ執行シタルハ不法ナリ第三被告ハ財産差押調書ヲ作ラサルモ其差押ヲ爲シタル事實ハ保管請書ニ依テ證明シ得ヘキモノナレハ之レカ調書作ラサルノ一點ヲ以テ處分ヲ無効ナリト云フヲ得スト云フモ保管請書ナルモノハ決シテ差押ヲ爲シタル凡ヲノ事實ヲ證明シ得ヘキモノニアラス蓋シ差押調書ナルモノハ違法ニ差押ヲ爲シタルヤ否ヤヲ證明スヘキモノナリ又村稅滯納處分法ニ依レハ此ノ手續ヲ爲スヘキコトヲ規定シアリ從テ調書ヲ作ラサルカ如キハ該法ニ據ラサル[illegible]爲ニシテ其處分ノ無効タルヤ言ヲ俟タサルナリ第四財産差押ヲ爲スハ收入役ノ職務ナ[illegible]　村長自ラ之ヲ執行ニタルハ國稅滯納處分法ノ手續ニ非ササル違法ノ處分ナリト云フニ[illegible]被告答辯ノ要旨ハ第一原告ハ督促令狀ノ送達ヲ受ケ[illegible]トナシト云フモ第一使丁ノ上申

書第二村役場ニ備ヘアル督促令狀送達簿第三當時原告以外ノ者ニ送達シタル受取証第四齋藤等モ送達ニ就キ異議ナカリシ第五該令狀カ原告ノ手ニ現在スル事實ニ依レハ多少遅延書ノ日附方ニ不完全ナル点アルモ送達シタルニハ相違ナキモノト認ム然ルニ原告ニ於テ受取證書ヲ差出スヿヲ肯セサルニ依リ村長ハ其旨ヲ掲示シタルモノナレハ此處分ヲ無効トスルノ程ノ瑕瑾ハナキモノト信ス第二町村稅ノ滯納處分ハ町村制第百二條ノ規定ニ從フヘキモノニシテ町村長ニ於テ督促令狀ヲ發スル迄ノ間ハ據ルヘキ法律ナシ愈甫産ヲ差押フルヤヨリ國稅滯納處分法ニ據ルヿトナリ居レリ町村條例ノ制定ニ付テハ内務省ニ於テ一定ノ標準ヲ示セリ其標準ニハ督促令狀發行後十日以内ニ納稅セサルトキハ差押處分ヲ爲スヿトナリ居レリ是レ期間ハ滯納處分法ニ依ルヲ要セサルノ證ナリ又假令全然國稅滯納處分法ニ依ルトスルモ督促令狀發行ノ當日ハ期間ニ算入スヘキモノナリ第三調書ヲ作ラサリシトノ点ハ事實原告申立ノ如シ然レモ調書ハ後日ニ至リ皆處分ノ違法ナルヤ否ヤヲ證スル爲メ作ルヘキモノニシテ事實ニ異論ナキ限リハ此手續ヲ欠キシトテ全部ノ處分ヲ無効トスヘキモノニアラス是レ恰モ村會議員ノ選擧ニ於テ選擧錄ヲ作ラサルモ其選擧ニ異論ナキ以上ハ選擧全部ヲ取消スヘキ理由トナラサルカ如シ第四原告ハ村長自ラ財産ヲ差押ヘタルハ不法ナリト云フモ町村制第百二條ニ依レハ町村長ハ之ヲ督促シ云々トアリ差押處分ハ村長ノ職務ニ屬ス而シテ收入役ノ職務ハ制限セラレタル範圍内ニ在テ財産差押處分ノ如キハ收入役ノ職務以外ノ事務ナリ是レ内務省ノ議已ニ一決セシ所ナリト云フニアリ依テ證據ヲ問シ理由ヲ

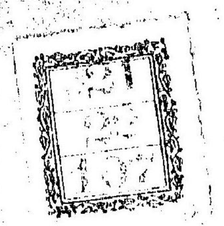
説明スルコト左ノ如シ

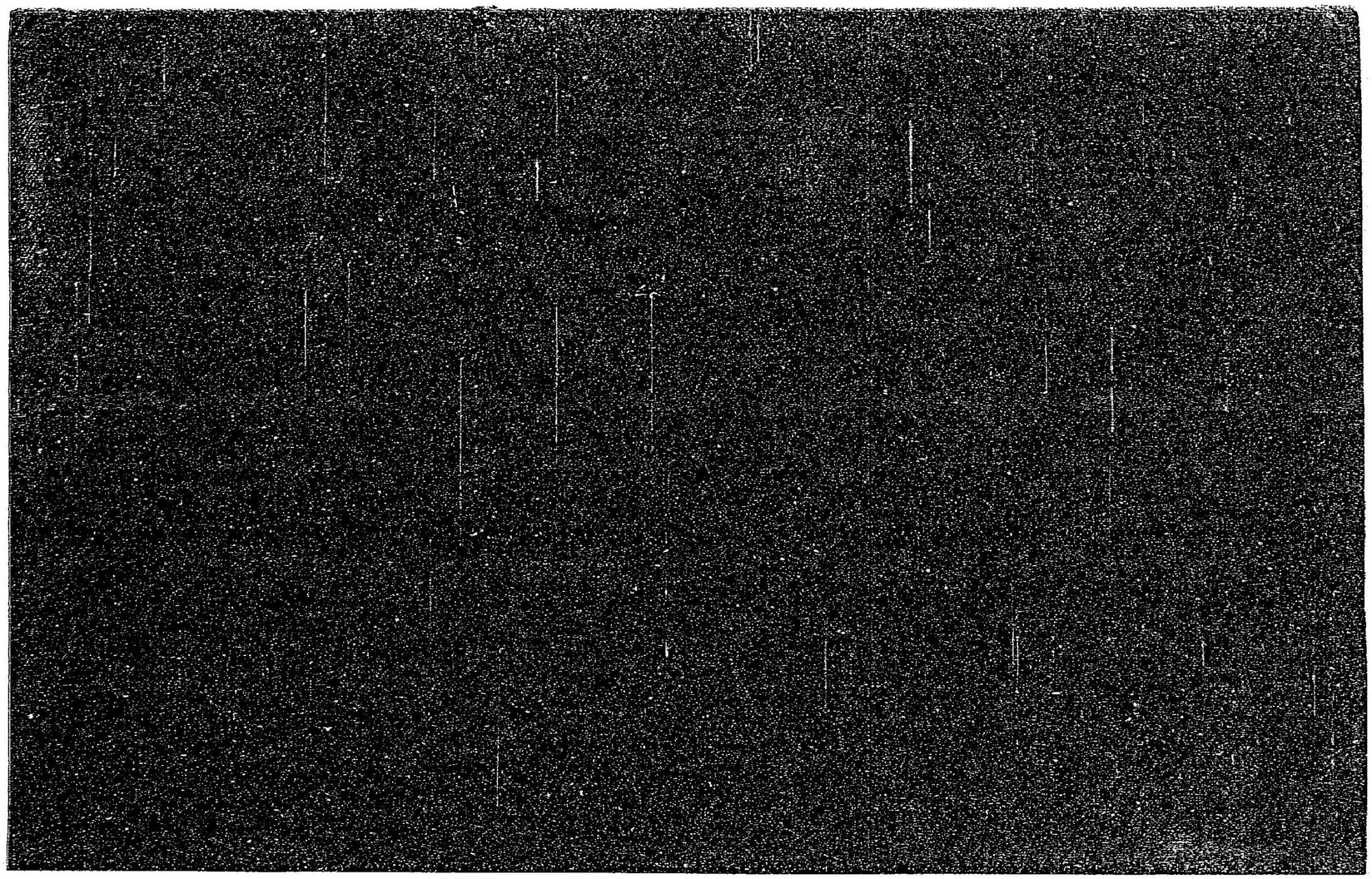
被告ハ財産差押調書ハ後日ニ至リ處分ノ違法ナルヤ否ヤヲ證スル爲メ作ルベキモノニシテ事實ニ臨ミテ限リハ此手續ヲ欠キシトテ全部ノ處分ヲ無効トスベキモノニ非スト云フト雖トモ國税滯納處分法第二十四條ニ財産ヲ差押ヘタルトキハ收入官吏其差押調書ヲ作リ立會人ト共ニ署名捺印シ其謄本ヲ立會人ニ交付スベシトアルヲ以テ何レノ場合ヲ問ハス國税滯納處分法ニ據リテ財産ヲ差押スルモノハ必ス調書ヲ作ラサルヘカラス然ルニ本件大野村長カ原告ノ財産差押ヲ爲スニ方リ其調書ヲ作ラサルハ違法ナリト云ハサルヲ得ス其他原被双方陳辨スル處アルモ必要ナラサルニ依リ説明セス

右ノ理由ナルヲ以テ判決スルコト左ノ如シ

明治二十八年八月二十日青森縣東津輕河大野村長カ原告原子彦太郎ヘ對シ執行シタル財産差押處分ハ之ヲ取消ス

訴訟費用ハ被告ノ負擔トス





21
107

13
119